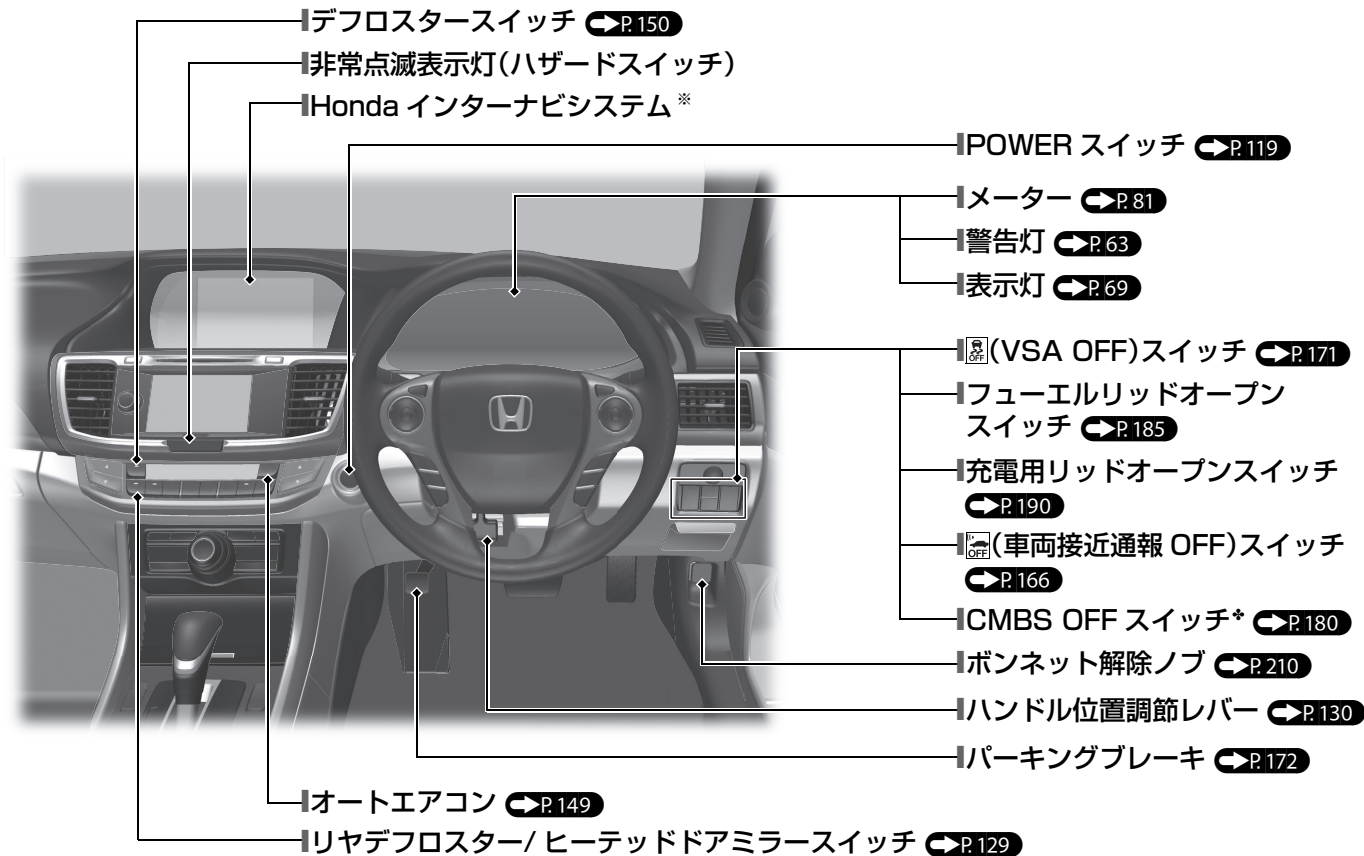
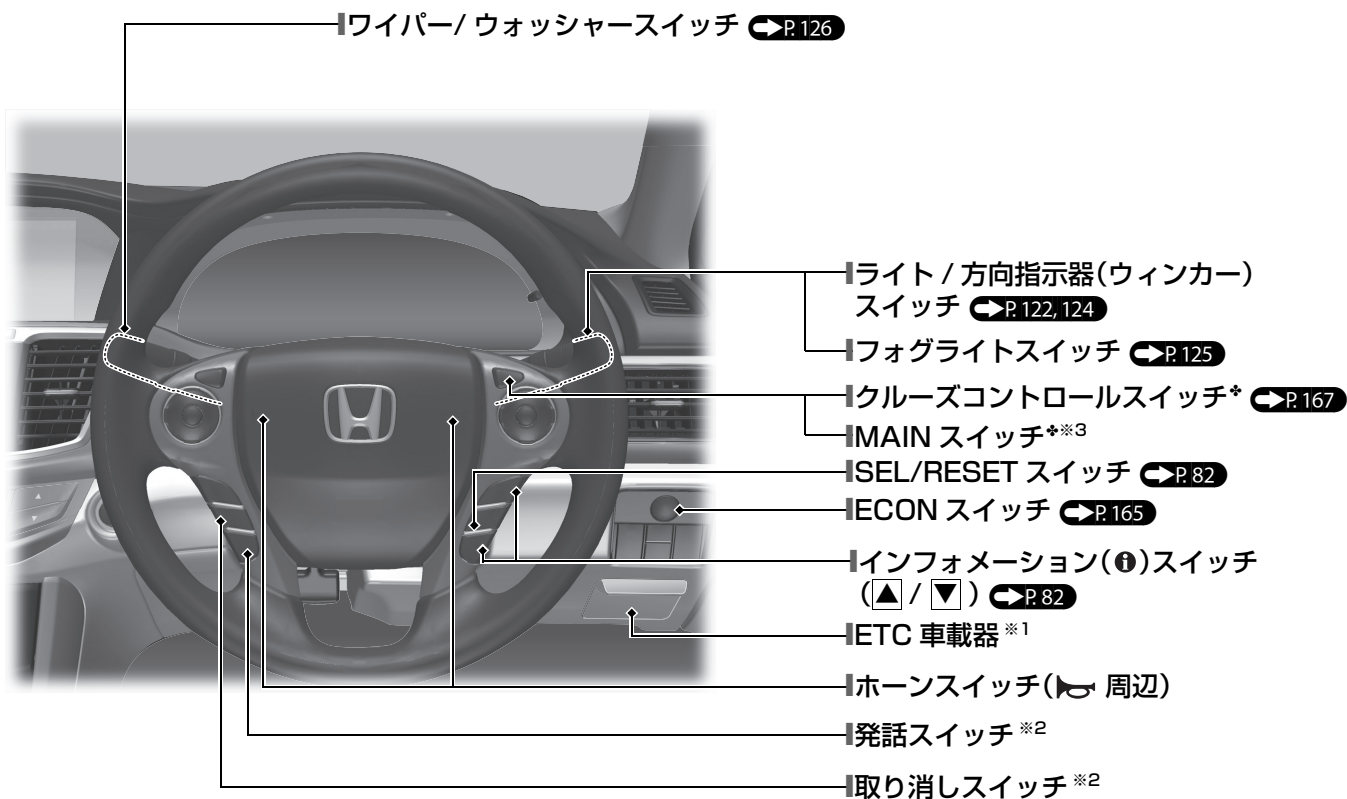


ビジュアル目次



※：別冊「Honda インターナビシステム」を参照してください。



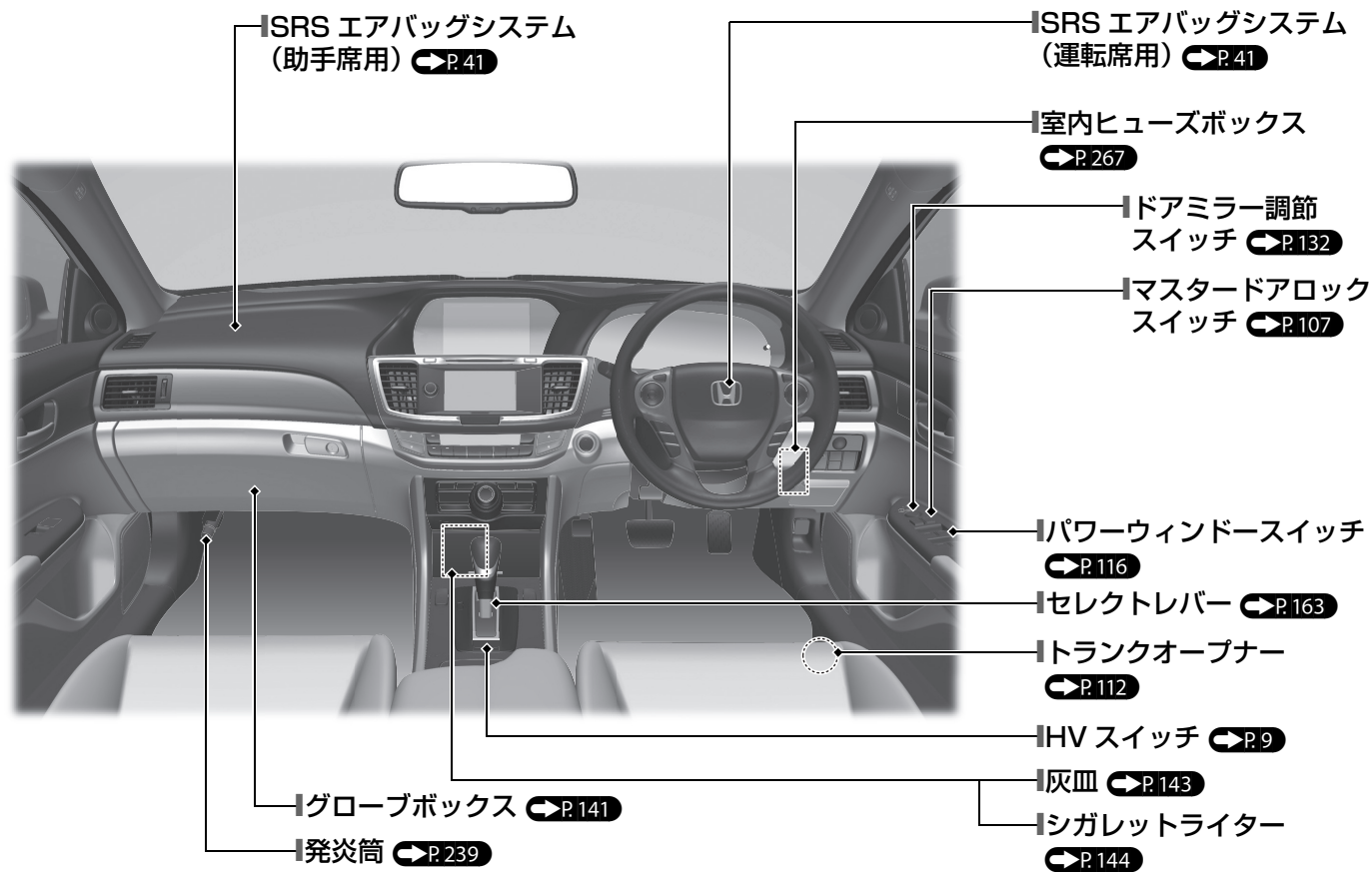
※1：別冊「ETC 車載器」を参照してください。

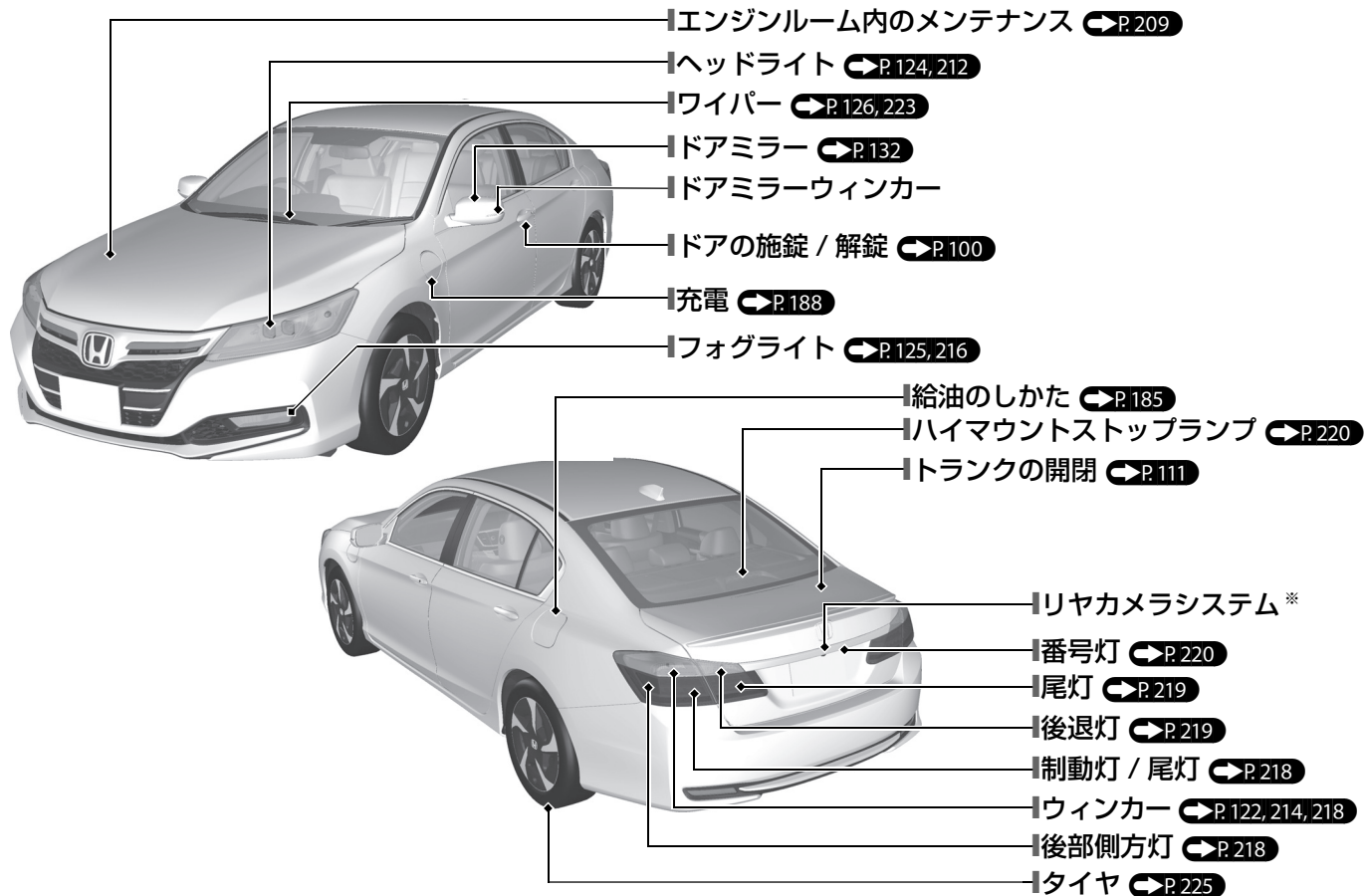
※2：別冊「Honda インターナビシステム」を参照してください。

※3：別冊「ACC/LKAS」を参照してください。

この「*」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

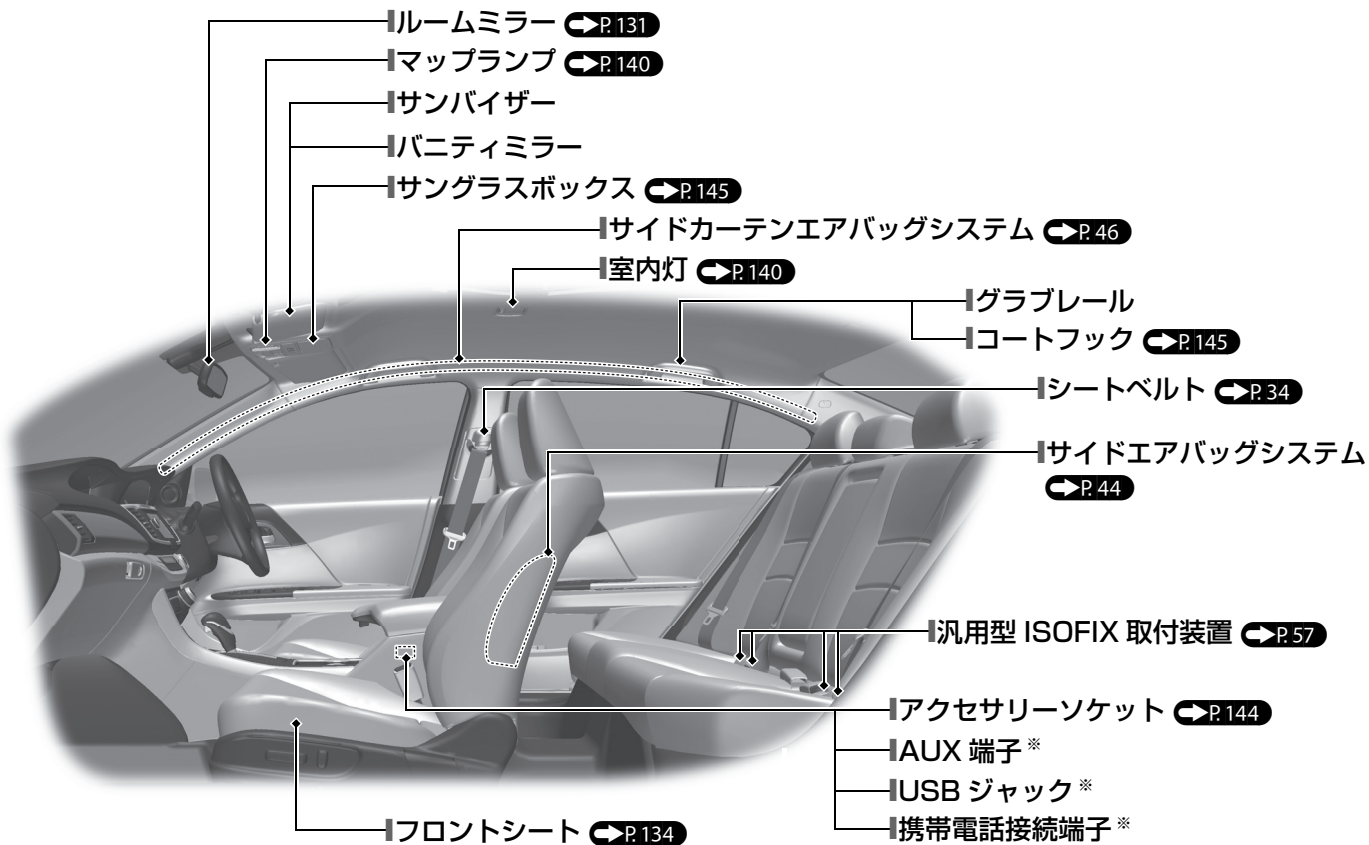
ビジュアル目次





※：別冊「Honda インターナビシステム」を参照してください。

ビジュアル目次



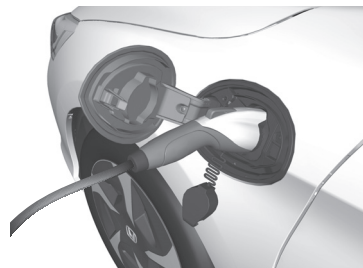
※：別冊「Honda インターナビシステム」を参照してください。

SPORT HYBRID i-MMD Plug-in (インテリジェントマルチモードドライブプラグイン)

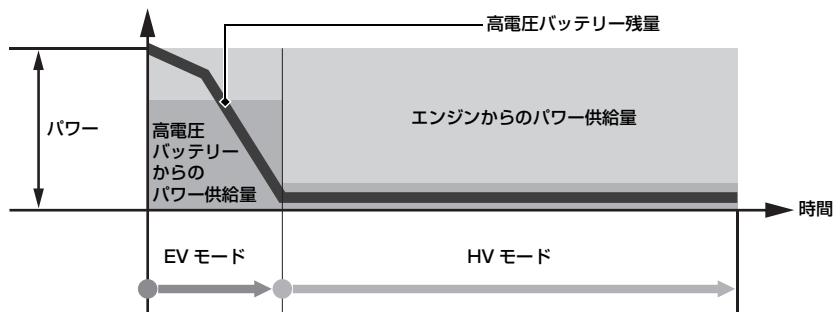
SPORT HYBRID i-MMD Plug-in 車は、モーターとガソリンエンジンを搭載しており、その両方を動力源として使用します。そして、モーターは高電圧バッテリーやジェネレーター(発電機モーター)から供給された電気により駆動します。高電圧バッテリーの充電量が十分にある場合はバッテリーの電気を消費するEVモードとなります。バッテリーが少なくなると、自動的にバッテリー充電量を維持し、ガソリンを消費するHV(ハイブリッド)モードに切り換わります。

走行モードについて P.7

充電プラグを差し込んで、高電圧バッテリーを充電することや、走行中に充電することもできます。EVモードでの航続可能距離はマルチインフォメーションディスプレイ、またはオーディオ / インフォメーションスクリーンに表示されます。



モーター、ガソリンエンジン、ハイブリッド(モーターとエンジン)による走行の、合計 3 種類の走行状態があります。どのような運転が適切かをシステムが判断し、走行状態を自動的に選択します。高電圧バッテリーの残量が規定量以上の場合には、ガソリンよりも電気を優先して使用します。さらにHVスイッチを使って、EVモードと、HVモードを手動で切り換えることができます。



• エネルギー効率について

通常ガソリンエンジン搭載車と同じように、この車の燃費や航続可能距離は、運転のしかたによって大きく左右されます。急加速をしたり高速で走行すると、動力源がエンジンへ切り換わりやすくなります。また暖房負荷や冷房負荷が高いとき、航続可能距離が短くなります。いずれの場合も高電圧バッテリーの残量は早く低下します。

• バッテリーのタイプ

2種類のバッテリーが装備されています。エアバッグ、ライト類や電気アクセサリを使用するための12Vバッテリーと、モーターの駆動と12Vバッテリーを充電する高電圧バッテリーです。

SPORT HYBRID i-MMD Plug-in システムの構成部品

エンジン - ジェネレーターを回します。状況によっては車軸を直接駆動することもあります。

ジェネレーター - エンジンを始動します。エンジンが作動中はジェネレーターで発電してモーターに電力を供給したり、高電圧バッテリーを充電します。

モーター - 車軸を直接駆動します(状況によってはエンジンと連動します)。また回生ブレーキで得た電気を高電圧バッテリーへ供給します。

高電圧バッテリー - 電気をためておき、モーターに電気を供給します。

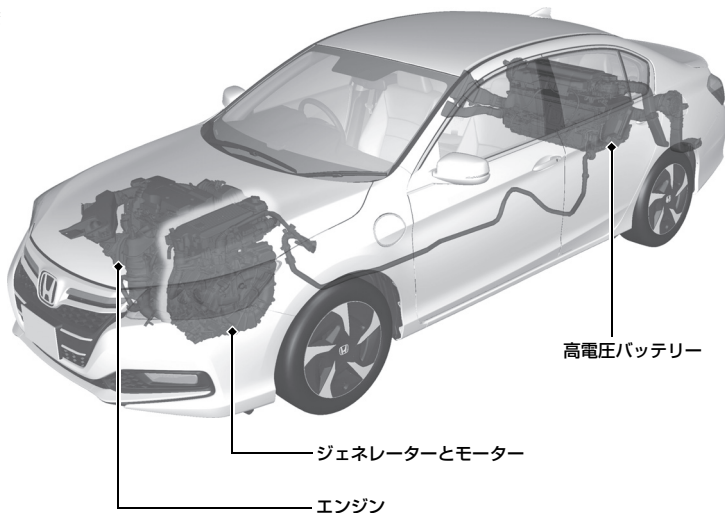
高電圧バッテリーの特性を理解しておくことが、EV 走行の距離を伸ばすことにつながります。▶P. 197

高電圧バッテリー残量計 - 高電圧バッテリー内の充電量を表示します。

●残量計の目盛りが2以下のとき：自動的にHVモードに切り換わります。

●残量計の目盛りが8のとき：満充電の状態です。

残量計の目盛りが8になると、HVスイッチ操作によりHV CHARGEモードにしていた場合、HVモードへ自動的に切り換わります。



走行モードについて

EV モード – 発進時や低中速域では、高電圧バッテリーの電気のみで EV 走行します。急加速中や高速走行中はエンジンが始動し、ハイブリッド走行、エンジン走行する場合があります。高電圧バッテリーの残量が低下すると、自動的に HV モードへ切り換わります。

HV モード – 高電圧バッテリーの電気と、ジェネレーターで発電した電気の両方を使用しながらモーターで走行またはエンジンで走行します。HV モードでは高電圧バッテリーの残量が維持されます。HV スイッチを押して EV モードから HV モードへ切り換えることができます。もう一度 HV スイッチを押すと EV モードへ戻ります。パワーモードをアクセサリモードまたは ON モードにしたとき、自動的に EV モードへ戻ります。

HV CHARGE モード – HV CHARGE モード表示灯が点灯するまで HV スイッチを押し続けると、HV CHARGE モードへ切り換わります。このモードではエンジンが常に作動します(燃費効率は低下します)。高電圧バッテリーが満充電になると、自動的に HV モードへ切り換わります。この後、HV スイッチを押せば EV モードへ切り換わります。

高速走行中はエンジンが車軸を直接駆動します。さらに HV CHARGE モードを選択していると、高電圧バッテリーの残量が少ないとき、ジェネレーターで発電した電気でバッテリーを充電します。



走行モード	EV 走行	ハイブリッド走行	エンジン走行 (直接駆動)	回生
走行状態	停車中または低速走行中 ・ モーターの動力のみで走行	走行中かつ強い負荷がかかっているとき (加速中や登坂中など) ・ モーターの動力で走行 ・ エンジンが作動してジェネレーターを回し、電気を供給することでモーター駆動を補助、または高電圧バッテリーを充電します。	高速走行中かつ負荷が少ないとき ・ 主にエンジンの動力で走行 ・ 高電圧バッテリーからの電力供給によりモーターアシストします。また、モーターを発電機として作動させ高電圧バッテリーを充電します。	減速中かつアクセルペダルも操作していないとき ・ モーターが回生ブレーキで得た電気を高電圧バッテリーへ供給します。
パワーフローモニター				
モーター	停止 / 作動	作動	発電 / 作動	回生
ジェネレーター	停止	発電	出力なし	停止 / 出力なし
エンジン	停止	作動	作動	停止 / 出力なし
高電圧バッテリー	放電	充電 / 放電	充電 / 放電	充電

HV スイッチ

セレクトレバー後方にある HV スイッチを押すと、HV モードと HV CHARGE モードを選択できます。

どちらのモードを選択した場合も、HV モード表示灯が点灯します。

もう一度 HV スイッチを押すと、HV モードは OFF になります。

• HV モードと HV CHARGE モード

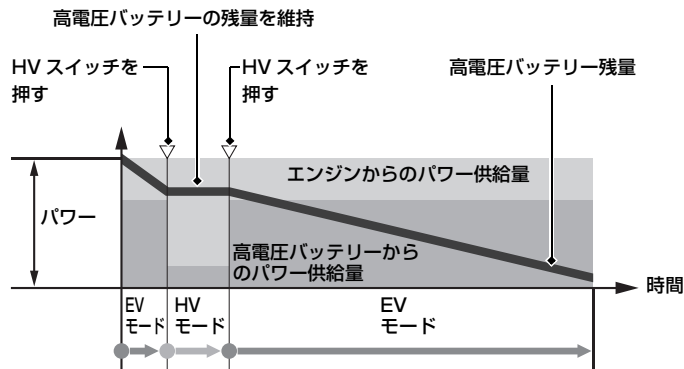
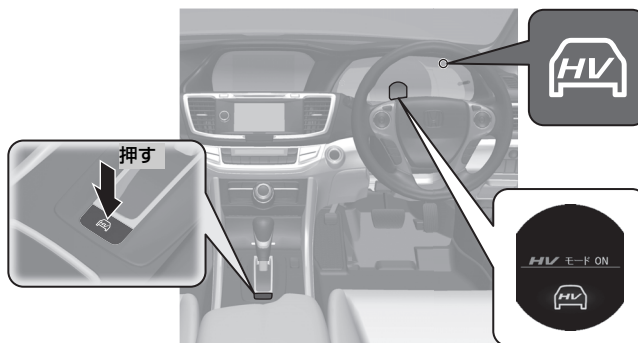
HV モードへ切り換えるには: HV スイッチを押してください。
HV モードでは高電圧バッテリーの残量が維持されます。

EV モードから HV モードへの切り換えは最適のタイミングで行ってください。 : EV モードから HV モードへ手動で切り換えると燃費の向上につながる場合があります。たとえば次のような状況が適しています。

高速道路を走行中など、より強いパワーが必要なときは、HV スイッチを押して HV モードへ切り換えてください。

市街地などを走行していて頻繁に停車または徐行するようなときは、もう一度 HV スイッチを押して EV モードへ切り換えてください。

充電設備のある場所が近くなったら EV モードを選択して、高電圧バッテリーに残っている電気を使用して走行します。



HV CHARGE モードへ切り換えるには: HV CHARGE モード表示灯が点灯するまでHVスイッチを押してください。

HV CHARGEモードにしている間は満充電状態になるまで高電圧バッテリーを充電しつづけます。満充電状態になると自動的にHVモードへ切り換わります。満充電状態になる前にHVスイッチを押してEVモードへ切り換えることもできます。

HV CHARGEモードでは高電圧バッテリーを充電することが最優先になります。そのためエンジンの回転数が通常より高くなります。満充電になるまでにかかる時間は走行状況によって異なります。

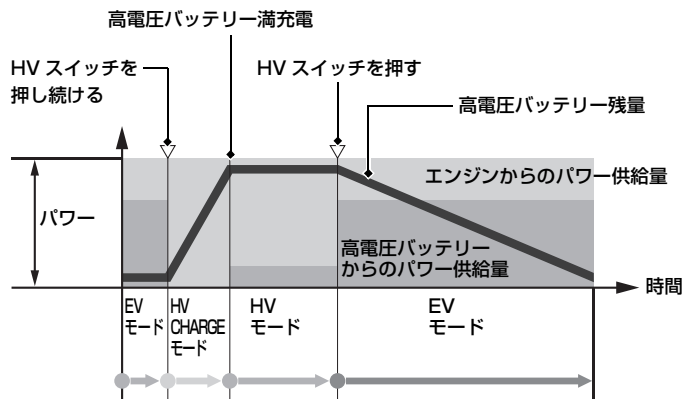
HV CHARGE モードへの切り換えは最適なタイミングで行ってください。 : EVモードでより長い距離を走行するには、HV CHARGEモードを利用して効率よく充電できるタイミングを知っておくことが大切です。

高速道路などを走行しているときに、HVボタンを押してHV CHARGEモードへ切り換えると効率よく充電できます。

そして、約30分間高速走行を続けると、高電圧バッテリーが満充電になります。

市街地などを走行していて頻りに停車または徐行するようなときは、HV CHARGEモードを使用しないことをおすすめします。このような状況では、HVスイッチを再度押してEVモードへ切り換えることが効果的です。

またその後、充電設備のある場所が近くなったらEVモードを選択して、高電圧バッテリーに残っている電気を使用して走行します。

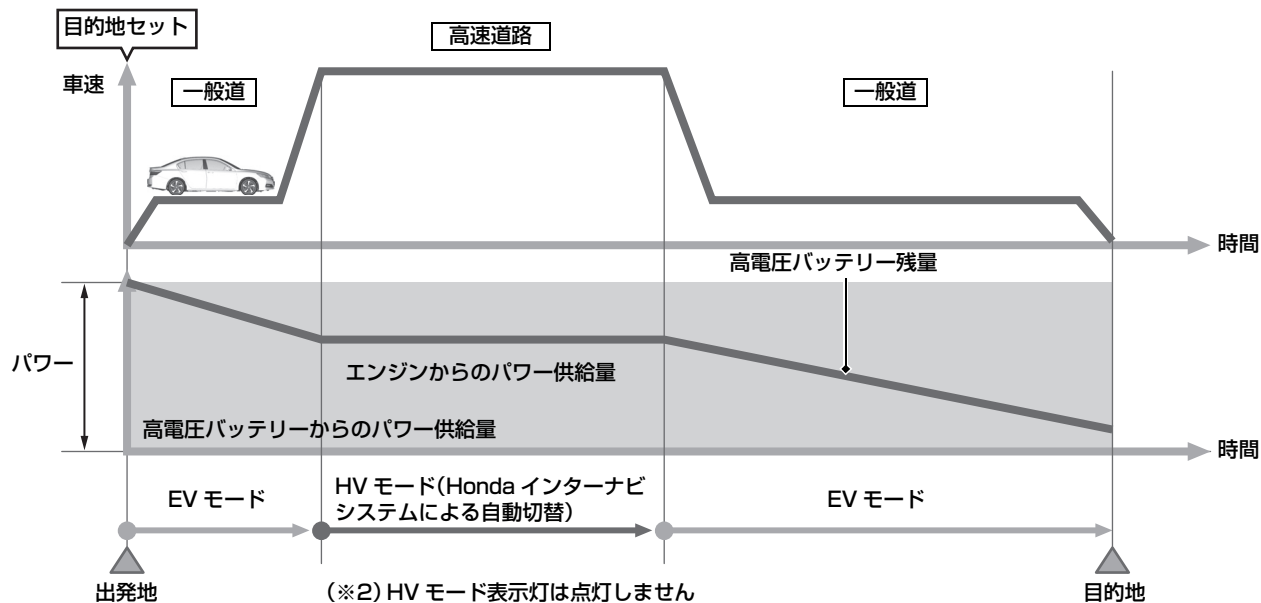


■ルート案内時のHVモードeco切替(Honda インターナビシステム協調制御)とは

Honda インターナビシステム設定画面でこの機能を「する」にしている場合(工場出荷時は「する」に設定されています)、目的地を設定してルート上の高速道路(一部の有料道路を含みます)を走行すると、最適な箇所で自動的にHVモード/EVモード切り替えが行われ、燃費・EV走行頻度向上に貢献します。

【作動イメージ】

(※1) 高電圧バッテリー残量と選択ルートの交通状況によって最適な切替を行うため、高速道路でEVモードが選択される場合があります



■「ルート案内時のHVモードeco切替」の設定

Honda インターナビシステムの画面で Honda インターナビシステム協調制御の「する」/「しない」を設定することができます。



- ① **設定** を押し、「ナビ設定」を選択して決定する。
- ② ジョイスティックの左右で「ルート案内」を選択する。
- ③ 「ルート案内時のHVモードeco切替」を選択して決定する。
▶ 「する」または「しない」を選択して決定します。(工場出荷時は「する」に設定されています。)

■設定の確認方法

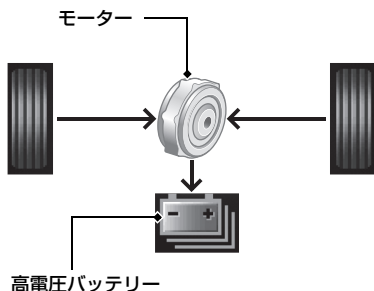
「する」に設定されている場合は、ルート案内を開始するときに「HVモードeco切替で案内します」とメッセージが表示されます。



メッセージ

● 回生エネルギーと回生ブレーキ

回生ブレーキが作動しているとき



減速時または下り坂では、モーターは発電機として働き、加速時に使った電気を取り戻します。この回生ブレーキ機能は、エンジンブレーキと同じような働きをし、セレクトレバーを **[B]** にすると、回生ブレーキが強く効きます。

● EV モードでもエンジンが作動することがあります

EV モードを選択中に、高電圧バッテリーが満充電であっても、一定の条件を満たすとエンジンが作動することがあります。次のようなとき自動的に HV 走行または、エンジン走行へ切り換わります。

- 急加速、登坂、高速走行時など、瞬間的に駆動力が足りず補助が必要なとき
- 暖房負荷や冷房負荷が高いとき
- 高電圧バッテリーの温度が高いとき、または低いとき

これ以外にも EV 走行が自動的にキャンセルされることがあります。これらの条件がなくなれば、自動的に EV 走行へ復帰します。

● エンジンは自動で停止 / 始動します

車の状態に応じて、エンジンが自動的に始動や停止します。そのため、停車時にエンジンが停止状態から始動することがあります。


● 航続可能距離表示 P. 85

走行モードが切り換わると、マルチインフォメーションディスプレイやオーディオ / インフォメーションスクリーンに表示されている航続可能距離も切り換わります。

• 高電圧バッテリーの充電について P. 188

高電圧バッテリーを充電するには次の方法があります。

- 200V用の充電ケーブルを使用する。または、オプション装備の100V用の充電ケーブルを使用する
- 公共の充電設備を利用する
- 走行中にHV CHARGEモードを選択する

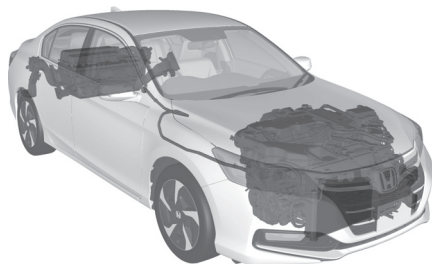
外部からの充電をするときは、開始時間と終了時間の設定ができます。  P. 198

• ハイブリッド車特有の音について

パワーシステム起動時や走行中に、次のような音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

聞こえるとき	状況
エンジンの始動・停止時	トランスミッションの作動音が車両前方から聞こえます。
加速時	モーター作動音、エンジン作動音がエンジンルーム内から聞こえます。
減速時	エネルギーを回生するために、モーター回生動作音がエンジンルーム内から聞こえます。 また、低速走行でブレーキを踏んだときやブレーキシステムが切り換わるときにブレーキ装置から、音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
エアコン、ヒーター作動時	コンプレッサーやヒーターシステムの作動音がエンジンルーム内から聞こえます。
パワーシステムを停止してから再起動せずに数時間経過したとき	高圧燃料タンクの状態を確認のための作動音が、車両の下部から聞こえます。
フューエルリッドオープナーを押したとき	燃料タンクの圧力を抜くための作動音が、車両後方から聞こえます。

ご使用時の注意



左右両側の冷却風取り入れ口をふさがない



冷却風取り入れ口がふさがれると高電圧バッテリーの温度が上昇するおそれがあります。高電圧バッテリーを保護するために出力が制限され、パワーシステム警告灯や12Vバッテリー充電警告灯が点灯することがあります。また、充電システムの冷却が適切に行われず、充電時間が長くなります。

高電圧システムには触れない

高電圧システムの分解や配線取り外しなどを行うと感電するおそれがあります。点検・修理は、必ず弊社が指定する販売店(以下、「Honda 販売店」とします。)にご相談ください。

事故が起きたとき

●感電に注意する

▶ 車体が大きく破損・変形するような事故が起きたときは、感電するおそれがあります。高電圧部位やそれらを接続する配線(オレンジ色)には、絶対に触れないでください。

●高電圧バッテリー液に触れない

▶ 高電圧バッテリー液がもれているときは、バッテリー液が目や皮膚に付くとその部分が侵されますので、十分に注意してください。万一付着したときは、すぐに清浄な水で数分間洗浄した後、ただちに医師の診察を受けてください。

●火災が発生したら電気火災用消火器を使用する

▶ 少量の水での消火は、かえって危険な場合がありますので、水はかけないでください。

●Honda 販売店で修理を受ける。

▶ 車体が損傷を受けたときは、必ず Honda 販売店で修理を受けてください。

高電圧遮断システム

事故などにより車体が衝撃を受けたときに、高電圧遮断システムが作動する場合があります。システムが作動すると、高電圧システムが自動的にOFFになり、走行可能状態になりません。高電圧システムを再始動するには、Honda 販売店にご連絡ください。

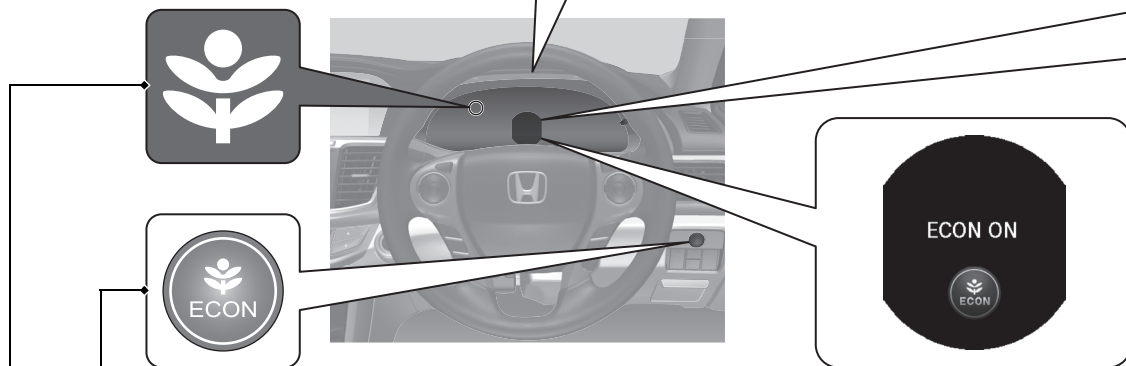
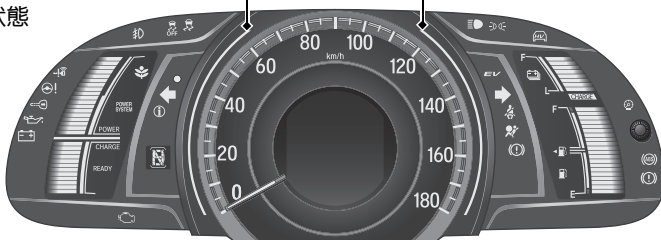
高電圧バッテリーは、リチウムイオンバッテリーを使用しています。廃棄処分については特別な取り扱いが必要です。廃車するときは、必ず下記にご相談ください。

(株)ホンダトレーディング 0120-910574(フリーダイヤル)

エコアシストシステム

アンビエントメーター

- 運転の状態を表示します。運転操作の状態に応じて、メーターの色が変化します。
 - メーターの色
 - 緑色：省燃費状態
 - 青緑色：ゆるやかな加減速状態
 - 青色：急加減速状態
- ブレーキペダル、アクセルペダルの操作方法により、メーターの色が変化します。



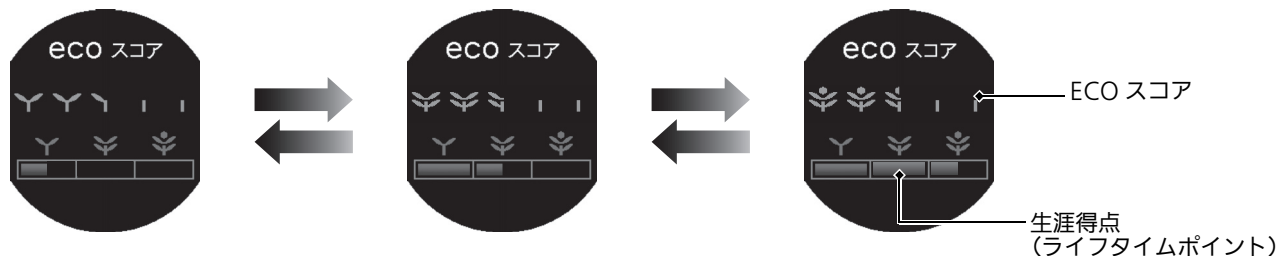
ECON スイッチ ➡ P.165
省エネ運転をやすくするように制御します。

ECONスイッチを押すと、メッセージを数秒間表示します。

ECON 表示灯 ➡ P.71
ECON スイッチを押して、ECON モードにすると点灯します。

ECO スコア P.86

●パワーモードを OFF モードにしたときに表示します。

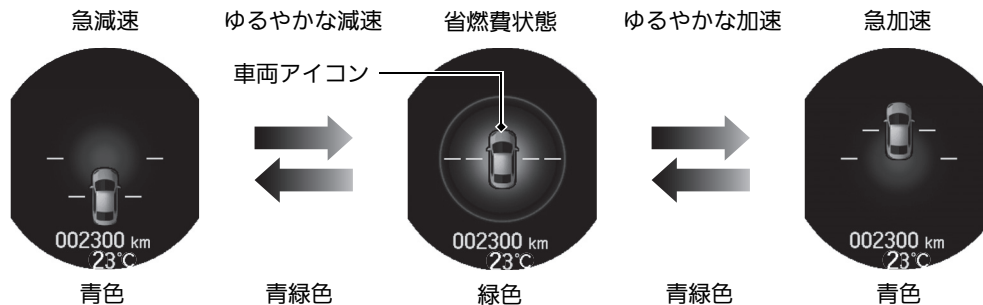


ECO ドライブ ディスプレイ P.87

●運転操作の状態に応じて車両のアイコンが前後に動きます。

急な加速を行うほど車両アイコンが前側に動き、急な減速を行うほど車両アイコンが後側に動きます。

車両アイコンが前後に動かないように運転することで、スムーズな省燃費運転となります。



安全なドライブ

➡P.32

運転を始める前の確認

➡P.33

- 運転前にフロントシートの位置、ヘッドレスト、ハンドルの位置、ミラー類の角度を調節します。



- 正しい運転姿勢でシートベルトを着用してください。
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用させます。
- 妊娠中のかたは腹部を圧迫しないようにシートベルトを着用してください。

シートベルト

➡P.34

排気ガスについて

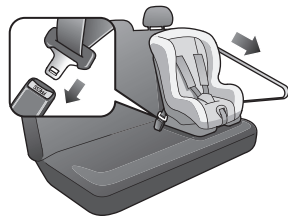
➡P.61

- 車の排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれているため、ガレージなどの密閉された場所ではパワーシステムを起動しないでください。

お子さまの安全

➡P.49

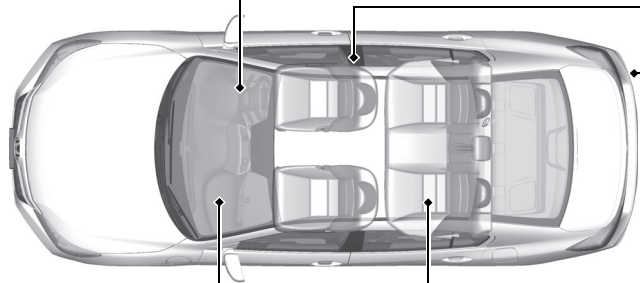
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。



エアバッグ

➡P.41















- 万一の衝突の際に、乗員への衝撃を緩和するために、エアバッグが装備されています。

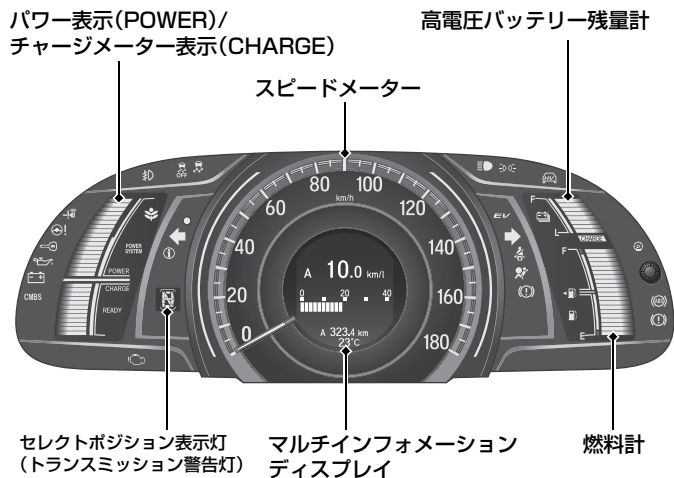


計器の見かた P.62

警告灯 P.63 / 表示灯 P.69 / メーター P.81 /
 マルチインフォメーションディスプレイ P.82

警告灯 / 表示灯

-  ライト点灯表示灯
-  方向指示器表示灯
-  フォグライト点灯表示灯
-  ハイビーム表示灯
-  ABS 警告灯
-  VSA 警告灯
-  VSA OFF 警告灯
-  ブレーキ警告灯(レッド)
-  ブレーキシステム警告灯(オレンジ)
-  PGM-FI 警告灯
-  EPS 警告灯
-  12V バッテリー充電警告灯
-  油圧警告灯
-  セキュリティアラームシステム作動表示灯



警告灯 / 表示灯

-  HV CHARGE モード表示灯
-  インフォメーション表示灯
-  クルーズメイン表示灯*
-  クルーズコントロール表示灯*
- ACC** ACC 警告灯 / 表示灯*
- LKAS** LKAS 警告灯 / 表示灯*
- CMBS** CMBS 警告灯*
-  HV モード表示灯
- READY** READY 表示灯
- EV** EV 表示灯
- POWER SYSTEM** パワーシステム警告灯
-  ECON 表示灯
-  エアバッグシステム警告灯
-  Honda スマートキーシステム警告灯
-  イモビライザーシステム表示灯
-  シートベルト非着用警告灯
-  燃料残量警告灯

この「*」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

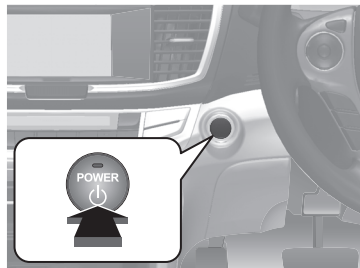
各部の操作

➡ P.98

POWER スイッチ

➡ P.119

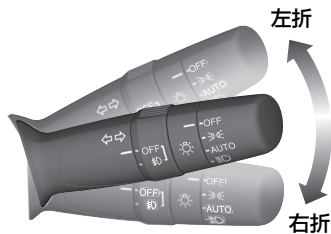
スイッチを押すと、パワーモードが切り換わります。



ウィンカー

➡ P.122

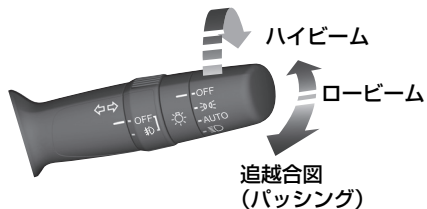
方向指示器(ウィンカー)スイッチ



ライト

➡ P.124

ライトスイッチ

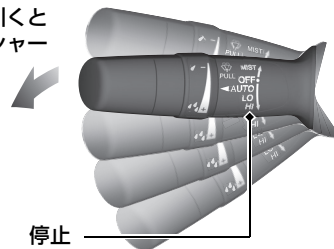


ワイパー

➡ P.126

ワイパー/ウォッシャースイッチ

手前に引くと
ウォッシャー

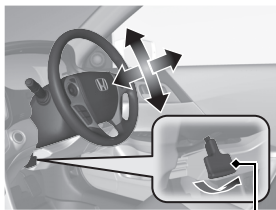


- OFF 停止
- AUTO 自動作動
- LO 低速
- HI 高速

ハンドル位置の調節

➡P.130

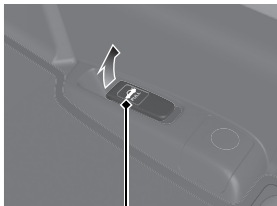
- ハンドル位置調節レバーを引き上げ、ハンドルの位置を調節します。



ハンドル位置調節レバー

トランク ➡P.111

- トランクは、運転席右下にあるトランクオープナーを引くか、キーレスエントリーのトランク解錠ボタン、トランクオープンスイッチを押して開きます。

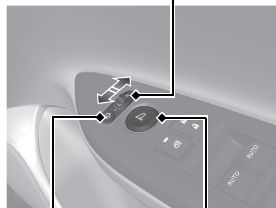


トランクオープナー

ドアミラー ➡P.132

- パワーモードが ON モードのとき、左右のドアミラーの格納または角度の調節ができます。

左右切り換えスイッチ

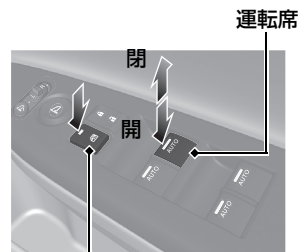


格納スイッチ

角度調節スイッチ

パワーウィンドー ➡P.116

- パワーモードが ON モードのとき、ウィンドーの開閉ができます。



運転席

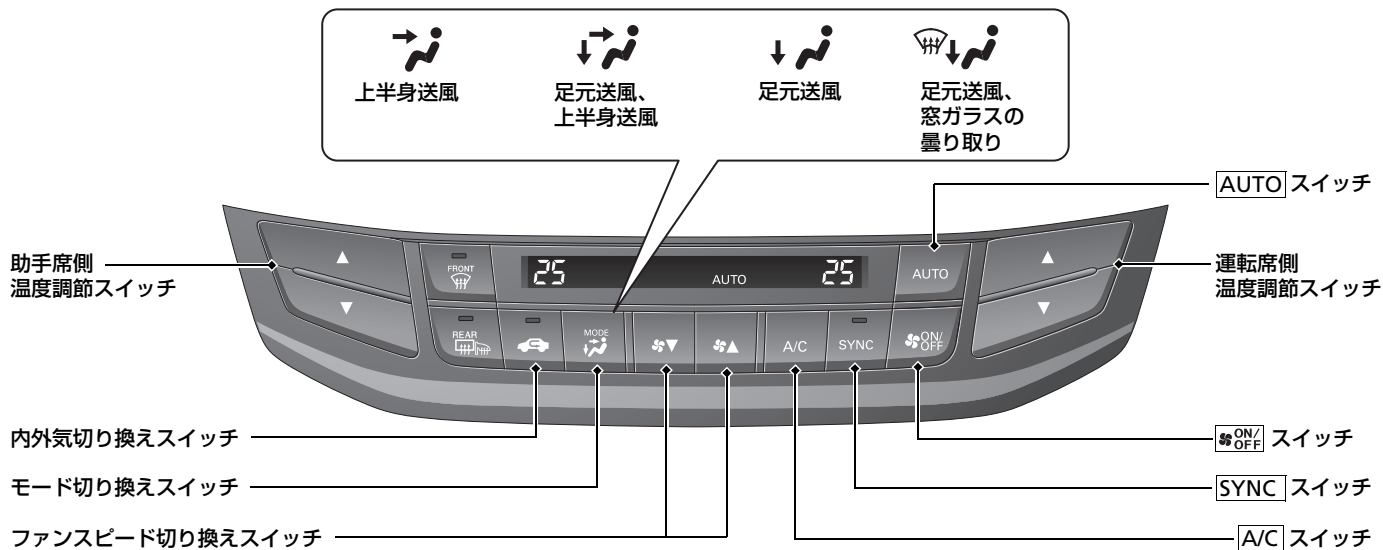
パワーウィンドーロックボタン

- ON 運転席以外のウィンドーが非作動
- OFF 全てのウィンドーが作動

エアコン

➡ P.148

- **AUTO** を押し、オートエアコンが作動します。
- **ON/OFF** を押し、止まります。
- 前面ガラスの曇りを取るには、**FRONT** を押し、



運転

➡ P.155

パワーシステムの起動

➡ P.158

オートマチック車

➡ P.162

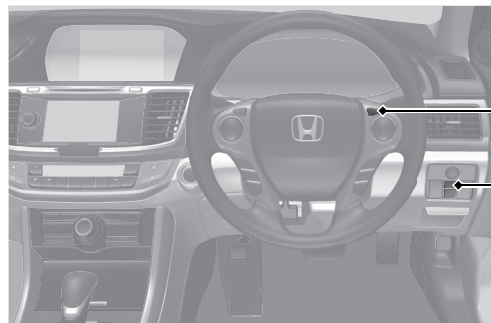
- セレクトレバーを **P** に入れ、ブレーキを踏みながらパワーシステムを起動します。

セレクトレバー

セレクトレバーの操作



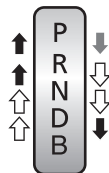
- P** パーキング
駐車またはパワーシステムの起動
- R** リバース
車を後退
- N** ニュートラル
- D** ドライブ
通常走行
- B** ドライブ(B)
長い下り坂や強い回生ブレーキが必要なとき



CRUISE
スイッチ*

VSA OFF
スイッチ



CMBS OFF
スイッチ*



- ↓ ブレーキペダルを右足で踏み、ボタンを押して操作
- ↓↑ ボタンを押して操作
- ↓↑ ボタンを押さずそのまま操作

この「*」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

VSA ▶P.170

- VSA とは、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。
- VSA を停止(OFF)状態にするには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。再度、使用(ON)するにはを「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。
- パワーシステムを起動すると自動的にVSAはONになります。

CRUISE スイッチ*

▶P.167

- クルーズコントロールは、高速道路などを定速で運転するとき、アクセルペダルを踏まなくても車速を一定に保つ装置です。
- クルーズコントロールを使用しないときは、安全のために **CRUISE** を押して OFF にしてください。

CMBS OFF スイッチ*

▶P.167

- CMBS は、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突を回避したり追突の衝撃を軽減する装置です。
- CMBS を停止(OFF)状態にするには、**CMBS OFF** を「ピーッ」とブザーが鳴るまで押します。再度、使用(ON)するには **CMBS OFF** を「ピーッ」とブザーが鳴るまで押します。

ガソリンを入れる ▶P.184

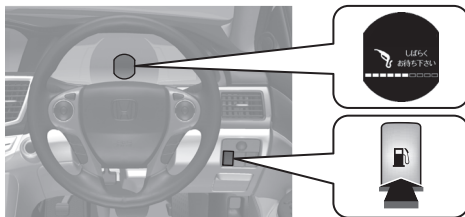
指定燃料：

無鉛レギュラーガソリン

レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)

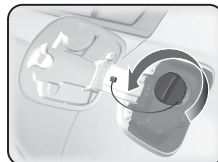
タンク容量：46 リットル

- ① ハンドルの右側にあるフューエルリッドオープンスイッチを押す。
▶マルチインフォメーションディスプレイに「しばらくお待ちください」とメッセージが表示されます。

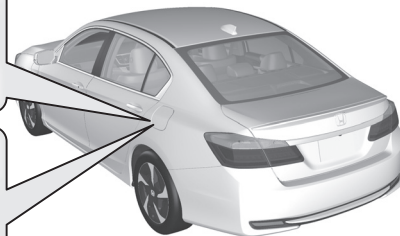
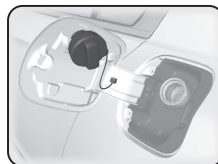


- ② マルチインフォメーションディスプレイに「給油準備が完了しました」と表示され、フューエルリッドが自動的に開く。

- ③ ツマミをゆっくり回してキャップを開ける。



- ④ キャップをホルダーにかける。

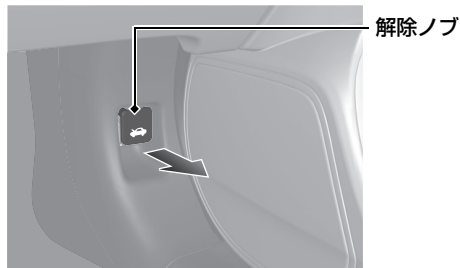


メンテナンス ➡ P.201

エンジンルーム ➡ P.209

- 冷却水、ウォッシャー液の補給を行います。
- 12Vバッテリーを点検します。

- ① 運転席足元のボンネット解除ノブを引く。

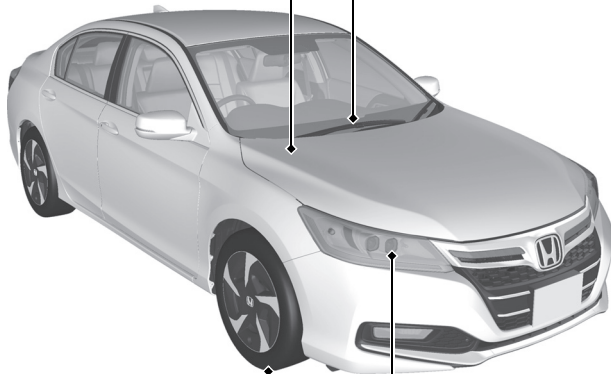


- ② レバーを上げボンネットを開ける。



ワイパーブレード ➡ P.223

- 拭きムラがある場合は、ワイパーブレードラバーを交換します。



タイヤ ➡ P.225

- タイヤ、ホイールを点検します。
- 降雪地域では、スノータイヤ、タイヤチェーンが必要です。

ライト ➡ P.212

- ヘッドライト、フォグライト電球、テールライト電球などの点検または交換を行います。
- 電球の交換については、「メンテナンス」を参照してください。
- ヒューズの交換については、「万一の場合には」を参照してください。

万一の場合には

➡ P.238

パンクした

➡ P.240

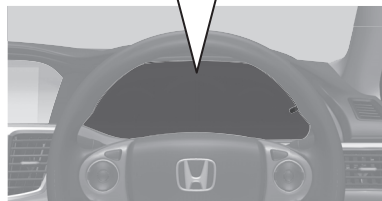
- 安全な場所に停車し、パンク修理キットで応急修理します。



警告灯が点灯した

➡ P.263

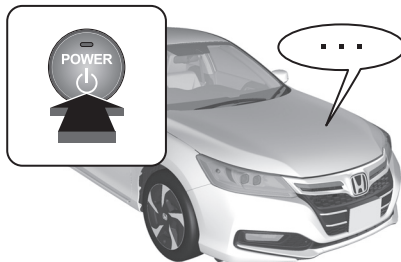
- 詳細を確認し、取扱説明書にしたがってください。



パワーシステムが起動しない

➡ P.253

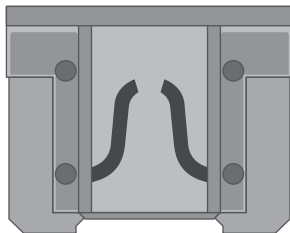
- バッテリーあがり考えられます。救援車のバッテリーを利用してパワーシステムを起動します。



ヒューズが切れた

➡ P.266

- 運転席の足元とエンジンルーム内にヒューズボックスがあります。切れているヒューズを取り換えます。



オーバーヒートした

➡ P.260

- 安全な場所に停車し、蒸気が出ていなければボンネットを開けてください。



けん引してもらいたい

➡ P.270

- 必ず専門業者に依頼してください。



こんなときは

Q **POWER** のパワーモードが OFF
モードからアクセサリーモードに
ならない

A

- ハンドルがロックされていませんか？
- ハンドルを左右に回しながら、**POWER** を
押してください。



Q **POWER** のパワーモードが OFF
モードにならない

A

- セレクトレバーが **P** 以外の位置に
なっていませんか？



Q ブレーキペダルを踏んだら
ガタガタと振動した

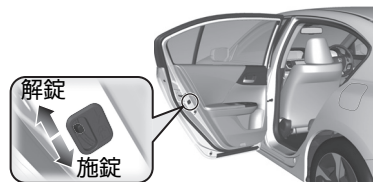
A

- ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあり
ます。これは ABS が作動しているときの現象で異常ではありません。
そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。

Q 後席ドアが車内から開けられない

A

- チャイルドブルーフが施錠の位
置になっていませんか？
後席ドアを外から開け、チャイ
ルドブルーフのツマミを解錠の
位置にしてください。



Q キーレスエントリーでドアを解錠したはずなのに施錠されている

A

- キーレスエントリー、Honda スマートキーで解錠してから、約 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。



Q 運転席ドアを開けるとブザーが鳴る

A

- 「ポーンポーンポーン」とブザーが繰り返し鳴り続けるときはパワーモードをアクセサリモードにしていますか？
- 「ボンボンボン」とブザーが繰り返し鳴り続けるときはライトを消し忘れていませんか？



Q 走行するとブザーが鳴る

A

- 運転席または助手席シートベルトを着用していますか？
- パーキングブレーキを完全に戻していますか？

Q 走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がる

A

- ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。Honda 販売店で点検を受けてください。

Q レギュラーガソリン仕様車にプレミアム(ハイオク)ガソリンを使用しても大丈夫ですか？

A

- プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。



危険

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの



警告

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの



注意

指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

下記の表示を使って記載しています。

アドバイス

お車が故障や破損することを防ぐためのアドバイスや、環境への配慮のために守っていただきたいこと。

サービス診断記録装置について

この車には、システムを制御するためのコンピューターが搭載されており、次の内容をデータとして記録します。

- エアバッグシステムの故障診断情報
- エアバッグの作動に関する情報
- 運転席および助手席のシートベルト着用の有無(E- プリテンショナー装備車)
- 動力伝達機構の状態
- 運転状態

HondaおよびHondaが委託した第三者は、記録されたデータを技術的な診断や Honda の車両の研究開発のために、取得、利用することがあります。

なお、会話等の音声や映像は記録されません。

データの開示について

HondaおよびHondaが委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示、提供することはありません。

- お車の所有者または使用者の同意がある場合
- 裁判所命令等、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、使用者や車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

安全なドライブ P.32

安全なドライブのために 33 シートベルト 34 エアバッグ 41 お子さまの安全 49
排気ガスの危険性 61

計器の見かた P.62

警告灯と表示灯 63 メーターとマルチインフォメーションディスプレイ 81

各部の操作 P.98

時刻の設定 99 ドアロック 100 トランク 111
セキュリティシステム 114 ウィンドー 116 ハンドルまわりのスイッチ 119 ミラー類 131
シート 134 室内灯 / 室内装備品 140 エアコン 148

オーディオ P.153

オーディオ装置 154

運転 P.155

運転の前に 156 運転 158 ブレーキ 172 駐停車 182
給油 184 充電 188 アクセサリーと改造 200

メンテナンス P.201

メンテナンスの前に 202 スマートメンテナンス 204 エンジンルーム内 209 電球 212
ワイパー 223 タイヤ 225 Honda スマートキー 230 エアコンのお手入れ 232
清掃 234

万ーの場合には P.238

工具、発炎筒 239 パンク 240 パワーシステムが起動しない 253
ジャンプスタート 257 セレクトレバーが動かない 259 オーバーヒート 260
警告灯が点灯 / 点滅した 263 ヒューズ 266 けん引 270
フューエルリッドが開かない 271 充電用リッドが開かない 272

資料 P.273

仕様 274

安全なドライブ P.32

計器の見かた P.62

各部の操作 P.98

オーディオ P.153

運転 P.155

メンテナンス P.201

万ーの場合には P.238

資料 P.273

索引 P.275

安全なドライブ

この章には、安全運転のために必要な重要情報が記載されています。
運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を
確保してください。

安全なドライブのために	33	お子さまの安全	49
シートベルト		乳幼児の安全	50
シートベルトについて	34	大きなお子さまの安全	59
シートベルトの着用	37	排気ガスの危険性	
シートベルトの点検	40	一酸化炭素について	61
シートベルトのアンカーポイント	40		
エアバッグ			
エアバッグの種類	41		
SRS エアバッグ	41		
サイドエアバッグ	44		
サイドカーテンエアバッグ	46		
エアバッグシステム警告灯	48		
エアバッグのお手入れ	48		

安全のための確認事項

安全なドライブのために、走行前に下記の項目を確認してください。

- ドア、トランクは完全に閉まっているか？
 - ▶ すべてのドア、トランクが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認してください。
 - ❏ 車内での施錠 / 解錠 P.107
- 運転しやすい姿勢にシート位置を調節しているか？
 - ▶ 正しい運転姿勢がとれるよう、シート位置やヘッドレストの調節をしてください。
 - ❏ フロントシート P.134
- 同乗者のシートも、安全が保たれるよう調節しているか？
 - ▶ ダッシュボードからできるだけ離れた位置までシートを下げてください。
 - ❏ フロントシート P.134
- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか？
 - ▶ 運転者と乗員全員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
 - ❏ シートベルトの着用 P.37
- エアバッグシステム警告灯などが点灯していないか？
 - ▶ エアバッグに関する説明をあらかじめお読みいただき、シートの位置などを調節してください。
 - ❏ エアバッグ P.41
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか？
 - ▶ お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
 - ❏ お子さまの安全 P.49
- 坂道で駐車するときは、パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを **P** にしているか？
 - ▶ さらにタイヤに輪留めをすると効果があります。
 - ❏ シフト操作 P.163

❏安全のための確認事項

ドア / トランク開閉警告が表示されている場合は、完全に閉まっていないドア、トランクがあります。

ドア、トランクをもう一度正しく閉め直してください。「ドア / トランク開閉警告」が消え、正常な状態に戻ります。

❏ ドア / トランク開閉警告 P.77

シートベルトについて

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

■三点式シートベルト

体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。全ての席に三点式シートベルトが装備されています。

■シートベルトの着用

シートベルトの着用にあたっては、以下の点に注意してください。

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1本のシートベルトを2人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

※シートベルトについて



警告

シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。

シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

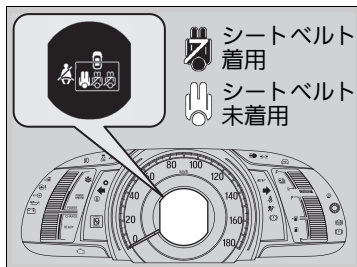
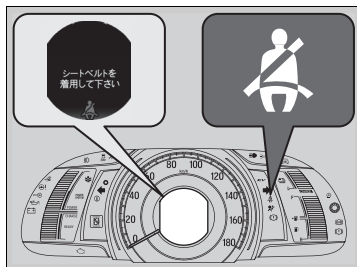
乗車中は正しい姿勢を保つ。

正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

リヤシート外側2座席にチャイルドシートを取り付けて使用してください。

シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、Honda 販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトリマインダー



■フロントシート

パワーモードをONモードにしたときや走行したとき、運転席または助手席のシートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、ブザーと警告灯でお知らせします。

■リヤシート

リヤシートのシートベルト使用状況をマルチインフォメーションディスプレイに表示します。

インフォメーション(①)スイッチ(▲ / ▼)を押して画面を表示します。

※シートベルトリマインダー

- 運転席または助手席シートベルトを着用せずに走行した場合、停車するとブザーは止まります。また、走行している場合でも一定時間を超えるとブザーは止まります。
- セレクトレバーを[R]に入れたときは後退位置警報装置のチャイムが鳴るため、シートベルト非着用の警告ブザーは鳴りません。
- パワーモードをONモードにした後、助手席シートベルトを着用しないと数秒後にシートベルト非着用警告灯が点灯します。
- 助手席シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅しブザーが鳴ることがあります。
- 助手席にお子様や小柄な方を乗せたりクッションなどを使用すると、センサーが乗員を検知せず正常に作動しないことがあります。

■シートベルトプリテンショナー

安全性をより高めるために、フロントシートにはシートベルトプリテンショナーを装備しています。

シートベルトプリテンショナーは、一定以上の前方向からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束効果を高めるための装置です。



■シートベルトプリテンショナー



注意

シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。

誤作動や故障の原因となります。

シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。

衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバックシステム警告灯が点灯します。

衝突したときは、Honda 販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

側面からの衝突により、シートベルトプリテンショナーが作動します。

SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーはかならずしも同時に作動しません。

E-プリテンショナー*

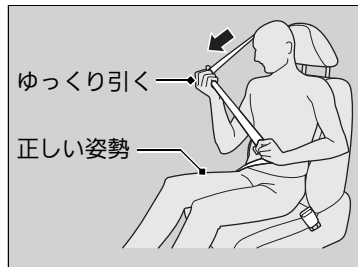
CMBS や電子制御ブレーキアシスト、VSA 横滑り抑制機能と連動して、モーターでシートベルトを巻き取ります。

また、システムが緊急回避操舵や衝撃を検知した場合にも作動します。作動後は、巻き取ったシートベルトをもとの状態に戻します。



シートベルトの着用

三点式シートベルト



1. 正しい姿勢でシートにすわる。
2. シートベルトをゆっくり引き出す。

※E-プリテンショナー*

E-プリテンショナーのみが作動したときは、交換する必要はありません。

VSA 警告灯が点灯しているときは、E-プリテンショナーは作動しません。

※シートベルトの着用

⚠ 注意

肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。

シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをす
るおそれがあります。

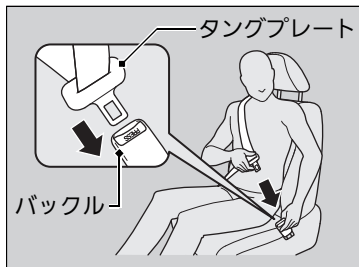
**シートベルト着用時にアームレストに引っ
かけない。**

万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、
重大な傷害を負うおそれがあります。

ベルトが肩に十分かかるよう、ショルダアンカーの高さを調節してください。

ベルトがくび、あご、顔などに当たる場合は、
ショルダアンカーの高さを調節します。

■ ショルダアンカーの高さ調節 P.39



3. タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないように注意します。
4. ベルトを、腰骨のできるだけ低い位置にかかると合わせる。
5. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

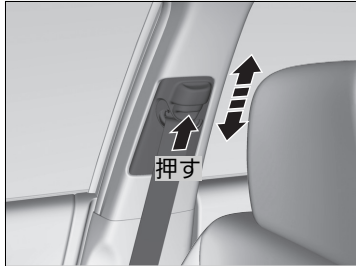
※シートベルトの着用

シートベルトを外すには、バックルの赤色の **PRESS** を押してください。
そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないおそれがあります。

ショルダーアンカーの高さ調節



フロントシートのシートベルトは、座高に合わせて、ショルダーアンカーの高さを調節してください。

1. ショルダーアンカーの解除ボタンを押しながら、アンカーを上下に動かす。
2. ちょうどよい高さで解除ボタンを離し、ショルダーアンカーを固定する。

ショルダーアンカーの高さ調節



注意

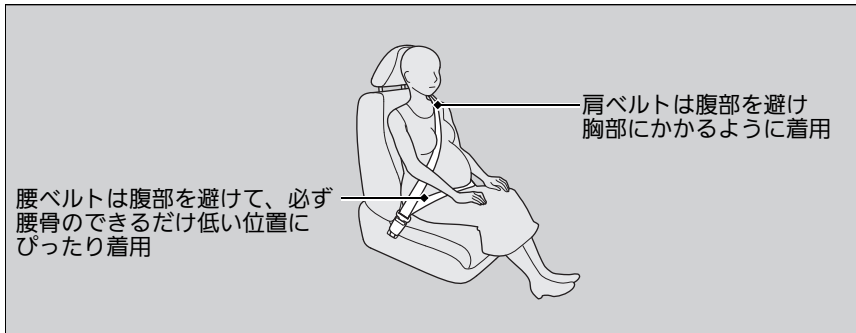
調節後は、ショルダーアンカーが確実に固定されているか確認する。

安全性を高めるため、肩ベルトが肩から胸にかかっていることを確認してください。

ベルトが首に当たるときは、下げて調節してください。

妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。



妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた



注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。

万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

妊娠中のかたは以下の点に注意してください。万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

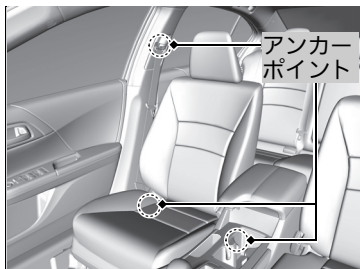
- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合も、シートはできるだけ後ろに下げる

シートベルトの点検

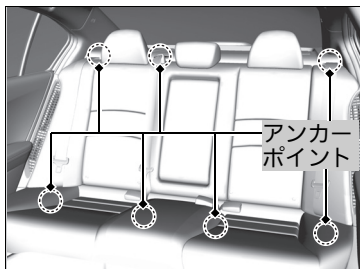
シートベルトを安全にお使いいただくために、定期的な点検を行ってください。点検の確認ポイントは下記のとおりです。

- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れがないか？
- バックルが確実に固定されるか？
- ベルトがスムーズに巻き取られるか？

シートベルトのアンカーポイント



シートベルトを交換する場合、図の中で示されるアンカーポイントを使用してください。フロントシートには三点式シートベルトが使われています。



リヤシートには三点式シートベルトが使われています。

※シートベルトの点検

ベルトがスムーズに巻き取られない場合、ベルトが汚れていないことを確認してください。

ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。まず、ベルトに汚れがないか確認してください。汚れを落とすと動きが元に戻ることがあります。

ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

エアバッグ

エアバッグの種類

エアバッグは、パワーモードがONモードのときに車体が衝突による衝撃を受けると膨らみ、運転者および同乗者の受ける衝撃を緩和させます。

エアバッグには下記の種類があり、衝突の方向や条件などにより作動が異なります。

- **SRS エアバッグ**：フロントシートの前方向エアバッグ
- **サイドエアバッグ**：フロントシートの横方向エアバッグ
- **サイドカーテンエアバッグ**：窓側の天井部両側についてエアバッグ

SRS エアバッグ

運転席と助手席についています。前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

SRS：サプリメントレストレイントシステム(Supplemental Restraint System)の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

格納場所

運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードに SRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

作動のしくみ

SRS エアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席の SRS エアバッグが膨らみます。

エアバッグの種類

警告

エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。

エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグ装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

注意

エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。

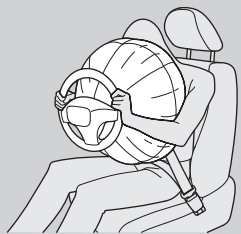
エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。

エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

SRS エアバッグの作動

作動時



前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRSエアバッグが頭と胸部を保護します。

運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRSエアバッグは膨らんだあとすぐにしぼみます。

SRS エアバッグは、次のような場合に作動します。

- 20～30km/h以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
 - 車両の前方左右約 30 度以内の方向から強い衝撃を受けたとき
- 衝撃を吸収できるもの(車やガードレールのように変形するもの)に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受けたとき作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

※SRS エアバッグの作動

⚠警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。

SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。

SRSエアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。

この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。安全を確認後、ただちに車外に出てください。

エアバッグの作動は、衝突状況とシートベルト着用の有無により異なります。

そのため、運転席または助手席のエアバッグが片側のみ作動することがあります。

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。

- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とSRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

※SRS エアバッグの作動



注意

SRS エアバッグの分解、取り外しはしない。

不適切な取り扱いが故障や誤作動の原因となります。

車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。

サイドエアバッグ

フロントシートの背もたれの外側にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席の同乗者の胸部への衝撃を緩和します。

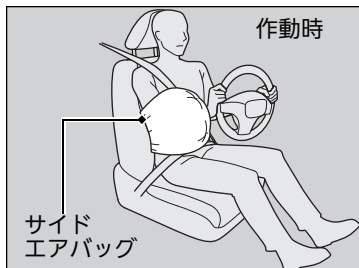
格納場所



運転席、助手席ともにシートの背もたれ外側に格納されています。

どちらも「SIDE AIRBAG」と表示されています。

作動のしくみ



サイドエアバッグは、約 30km/h 以上の速度で自車と同等の車が真横から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたときに運転席または助手席のサイドエアバッグが膨らみます。

車両側面に斜めから衝突された場合、サイドエアバッグが作動するときの車速は高くなります。

※サイドエアバッグ

⚠ 注意

ドアやその周辺にアクセサリなどを取り付けたり、ものを置いたりしない。

正常に作動しなかったり、作動時にこれらのものが飛ぶことがあります。

サイドエアバッグ収納部に衝撃や無理な力を加えない。

サイドエアバッグは衝撃を受けた側のみ作動します。

サイドエアバッグは側面からの衝突に対して作動するため、衝撃を受けた側のみ作動します。また、助手席側が衝撃を受けた場合は、助手席側に乗員がいないときでもサイドエアバッグが作動します。

サイドエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。

サイドエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。

フロントシートへのシートカバー装着にあたっては Honda 販売店にご相談ください。

■作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受けたとき作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、サイドエアバッグが作動しないことがあります。

- 乗員付近以外の側面への衝突

サイドエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていますので、車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 正面衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、サイドエアバッグが作動することがあります。

※サイドエアバッグ



注意

**ドアに寄りかからない。
サイドエアバッグの格納部に手や顔を必要以上に近づけない。
後席の同乗者は、フロントシートの背もたれを抱えない。**

サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け傷害を受けるおそれがあります。

サイドエアバッグの分解、取り外しはしない。

不適切な取り扱いには故障や誤作動の原因となります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。

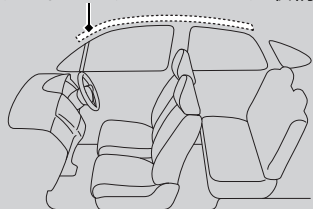
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認したら、ただちに車外に出てください。

サイドカーテンエアバッグ

窓側の天井部にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、乗員の頭部への衝撃を緩和します。

格納場所

サイドカーテンエアバッグ収納部

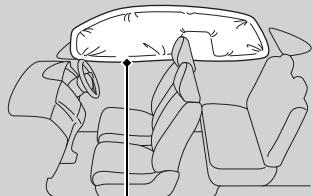


運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。

どちらも「SIDE CURTAIN AIRBAG」と表示されています。

作動のしくみ

作動時



サイドカーテンエアバッグ

サイドカーテンエアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で側面方向から衝突したときです。運転席側または助手席側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

■作動条件

サイドカーテンエアバッグの作動条件は、サイドエアバッグと同じ条件です。

▶ 作動条件 P.45

▶▶ サイドカーテンエアバッグ

⚠ 注意

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりすることがあるので、以下のことに注意する。

- フロントガラス、ドアガラス、フロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリなどを取り付けない
- グラブレードにものをかけない
- コートフックに重いものやとがったものをかけない

サイドカーテンエアバッグは衝撃を受けた側のみ作動します。

サイドカーテンエアバッグは側面からの衝突に対して作動するため、衝撃を受けた側のみ作動します。また、助手席側が衝撃を受けた場合は、助手席側に乗員がいないときでもサイドカーテンエアバッグが作動します。

サイドカーテンエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。

サイドカーテンエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

■前方向から衝突したときの作動

前方向からの衝突時、横方向に一定以上の力がかかると、SRS エアバッグが膨らんだあと必要な側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

※サイドカーテンエアバッグ

⚠ 注意

サイドカーテンエアバッグ収納部に衝撃を加えない。

収納部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、Honda 販売店で交換してください。

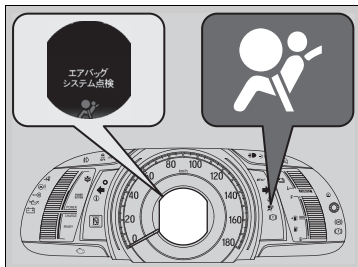
サイドカーテンエアバッグの分解、取り外しはしない。

不適切な取り扱いが故障や誤作動の原因となります。

エアバッグシステム警告灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯やマルチインフォメーションディスプレイで知らせます。

■エアバッグシステム警告灯



■**パワーモードを ON モードにしたとき**
パワーモードを ON モードにすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

■**異常が発生したとき**

エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常があるとき点灯します。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。ただし、以下の場合には Honda 販売店で点検を受けてください。

■**エアバッグが作動し、膨らんだとき**

一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。

また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

⚠️エアバッグシステム警告灯



警告

エアバッグシステム警告灯を無視しない。

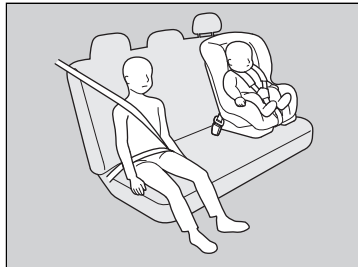
エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

パワーモードを ON モードにしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

お子さまの安全を守るために

お子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。



- お子さまはリヤシートに乗せる
 - ▶ お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。また、SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃があるため危険です。
- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
 - ▶ お子さまを抱えたり、ひざの上に乗せないでください。衝突したときに支えることができず危険です。正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 乳幼児にはチャイルドシートを使用する
 - ▶ 乳幼児に乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。
- 窓から手や顔、ものを出さない
 - ▶ 走行中や一時停止時などに、お子さまが窓から手や顔、ものなどを出さないように注意してください。思わぬ障害物により事故のおそれがあり危険です。
- ドア、ウィンドー、シートなどの操作は必ず大人が行う
 - ▶ 思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドー、シートなどの操作をさせないでください。
- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
 - ▶ お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になり危険です。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

❖ お子さまの安全を守るために

⚠ 警告

チャイルドシートは後席に設置する。

助手席に設置するとSRSエアバッグが作動したときの衝撃で、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。

⚠ 警告



シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。

お子さまが死亡、または重大な傷害を受けおそれがあります。

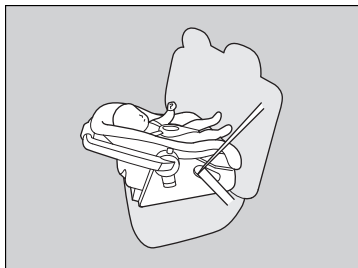
お子さまを助手席に乗せないほうが良い理由は下記の通りです。

- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRSエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある
- お子さまの体の一部がサイドエアバッグの作動範囲に入ると、サイドエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

乳幼児の安全

乳児のチャイルドシート

首のすわっていない乳児は、乳児用のチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■後ろ向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートに設置することができます。
推奨するのは、助手席の真後ろの席への設置です。その場合、助手席には人を乗せず助手席のシートをできるだけ前に出してください。

※乳児のチャイルドシート



警告

後ろ向きのチャイルドシートを前向きにして使わない。

前向きにして使うと前方から衝突したときに、乳児が重大な傷害を負うおそれがあります。

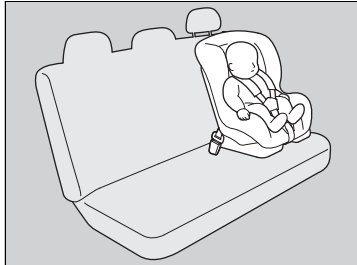
後ろ向きのチャイルドシートは助手席に設置しない。

助手席の SRS エアバッグが膨らんだときに、チャイルドシートの背面にエアバッグが当たり、乳児が重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

運転席を推奨する位置まで下げられなかったり背もたれの角度を調節できなかったりした場合は、他の席に設置してください。

幼児のチャイルドシート

チャイルドシートメーカーが指定する範囲内の幼児は、前向きのチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■前向きのチャイルドシートの設置場所
リヤシートへの設置を推奨します。

※幼児のチャイルドシート



警告

助手席に前向きのチャイルドシートを設置しない。

助手席に前向きのチャイルドシートを設置すると、助手席のシートが前に出すぎたり、衝突したときに幼児の頭が前に投げ出されるとSRSエアバッグで強い衝撃を受けるため、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

やむをえず助手席に前向きのチャイルドシートを設置する場合は、助手席のシートをできるだけ後ろに下げて設置してください。

■チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートまたは汎用型 ISOFIX チャイルドシートをお選びください。

シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは、リヤシート外側 2 座席に付属しているロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定するため取り付けが簡単です。

■チャイルドシート選択の条件

チャイルドシートが適切な保護効果を発揮するためには、以下の3つの条件を満たしている必要があります。

- 一覧表に案内されているチャイルドシートであること
 - **選択の目安** P.53, 55
- チャイルドシートがお子さまに合ったタイプとサイズであること
- チャイルドシートが取り付ける車の座席にあったものであること

☒チャイルドシートの選びかた

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは取り付けが簡単です。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは取り付けを簡単にすることで、不適切な取り付けが原因で起きる傷害を減らすために開発されたものです。

Honda 純正品のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

シートベルトで固定するチャイルドシートについて

この車には様々なタイプのチャイルドシートが利用可能ですが、すべてのタイプが適当であるというわけではありません。
次の表を参照して、それぞれの着席位置で、どのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

■選択の目安

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

ベルト固定タイプ チャイルドシート 重量区分	座席位置		
	前席 助手席	後席 外側席	中央席
グループ0 ～10kg	X	U	U
グループ0+ ～13kg	X	U	U
グループI 9kg～18kg	UF*	U	U
グループII 15kg～25kg	UF*	U	U
グループIII 22kg～36kg	UF*	U	U

記号の説明

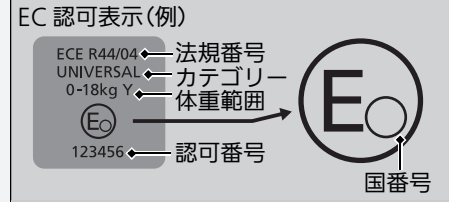
- U : 汎用(ユニバーサル)チャイルドシートを備えることができることを示す。
- UF : 汎用(ユニバーサル)チャイルドシートを前向きに備えることができることを示す。
- ※ : チャイルドシートを前向きに取り付ける場合はシートバックを最も前のロック位置に調節すること。
- X : チャイルドシートを装備できないことを示す。

シートベルトで固定するチャイルドシートについて

チャイルドシートに関する国連の安全基準であるUN-ECE R44に適合しているチャイルドシートには、シートベルトで固定する機構が付いています。

チャイルドシートをご購入する際は、質量グループに一致したものをお選びください。

U と UF のチャイルドシートには、UN-ECE R44 認可表示と取扱説明書に UNIVERSAL (汎用)と案内されているものもあります。



汎用型ISOFIXチャイルドシート以外のチャイルドシートを使用するときは、シートの種類や取り付けの向きにより固定金具(ロッキングクリップ)が必要になる場合があります。

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートについて

この車のリヤシートの外側 2 座席には汎用型 ISOFIX チャイルドシートを取付けるためのロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジを装備しています。次ページの表を参照して、それぞれの着席位置で、どのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートについて

Honda 純正品のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

■ 選択の目安

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

汎用型 ISOFIX チャイルドシート 重量区分	サイズ 等級	固定具	ISOFIX 位置		
			前席 助手席	後席	
				外側席	中央席
キャリコット	F G	ISO/L1 ISO/L2	— —	X X	— —
グループ0 ～10kg	E	ISO/R1	—	IL	—
グループ0+ ～13kg	E D C	ISO/R1 ISO/R2 ISO/R3	— — —	IL X X	— — —
グループI 9kg～18kg	D C B	ISO/R2 ISO/R3 ISO/F2	— — —	X X IUF	— — —
	B1 A	ISO/F2X ISO/F3	— —	IUF IUF	— —
	—	—	—	X	—
グループII 15kg～25kg	—	—	—	X	—
グループIII 22kg～36kg	—	—	—	X	—

記号の説明

IUF：汎用(ユニバーサル)ISOFIXチャイルドシートを前向きに備えることができることを示す。

IL：Honda Baby ISOFIXチャイルドシートまたはHonda ISOFIX Neoチャイルドシートを備えることができることを示す。

X：ISOFIXチャイルドシートを装備できないことを示す。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートについて

チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIX サイズ等級に一致したものをお選びください。

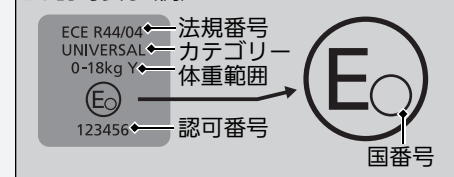
固定具	お子さまの 大きさ	使用の向き	形状、 大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	—
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高

ILはUN-ECE R44に適合した、Honda 純正 Honda Baby ISOFIXのみ取り付けることができます。

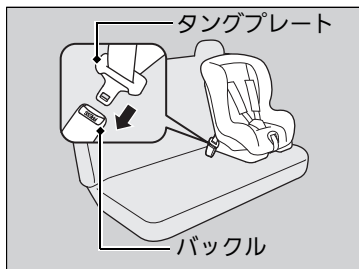
ご購入はHonda販売店にご相談ください。

IUFのチャイルドシートには、UN-ECE R44 認可表示と取扱説明書に UNIVERSAL ISOFIX(汎用)と案内があります。

EC 認可表示(例)



■シートベルトでの取り付け



1. 助手席に取り付けるときは、背もたれが最も前の位置になっていることを確認する。

■ 背もたれの調節 P.134

2. チャイルドシートを座席に置く。

3. シートベルトをチャイルドシートに通し、タンブプレートをバックルに差し込む。

▶ このとき、バックルが「カチッ」という音がするまできちんと差し込んでください。

4. チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付ける。

5. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。



■チャイルドシートの取り外し

バックルを外し、シートベルトをチャイルドシートから引き抜きます。

※シートベルトでの取り付け



注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

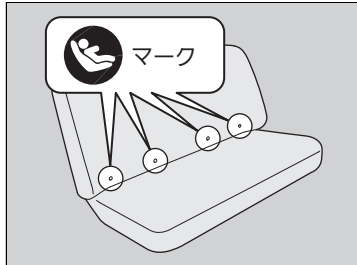
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

チャイルドシートの種類によりシートベルトの固定に固定金具(ロックングクリップ)が必要になります。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートの取り付け

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは、リヤシート外側 2 座席に設置できます。チャイルドシートは、ロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定します。



1. マークの下にあるシートのすき間からロアアンカレッジを確認する。



2. チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートの取扱説明書にしたがってロアアンカレッジに取り付ける。
▶ 取り付けの際に、異物やシートベルトなどがロアアンカレッジにかみ込まないようにしてください。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートの取り付け

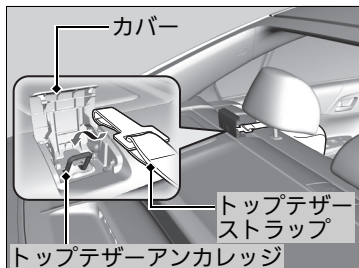
⚠ 注意

ロアアンカレッジ周辺に、異物やシートベルトのかみ込みがないか確認する。

異物やシートベルトをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。



3. ヘッドレストの後ろにあるカバーを開ける。
4. ヘッドレストを調節して最上段で固定し、トップテザーストラップをヘッドレストの下に通す。
▶ このときトップテザーストラップがねじれないように注意してください。
5. トップテザーストラップをトップテザーアンカレッジに引っ掛け、ストラップを締める。
6. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートの取り付け

注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

注意

トップテザーアンカレッジシンボルが無いフックに、トップテザーストラップを使用しないでください。

大きなお子さまの安全

■ シートの使用について

幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、リヤシートに乗せて三点式シートベルトを着用させてください。お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。



■ 確認項目

- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか？
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか？
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか？
- 乗車中、無理なくすわっていられるか？

※大きなお子さまの安全



警告

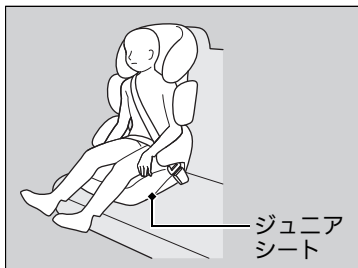
お子さまは助手席に乗せない。

お子さまを助手席に乗せると、SRS エアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を負うおそれがあります。

やむをえず、助手席にお子さまを乗せる場合は、できるだけシートを後方に下げ、必要ならばジュニアシートを使用し、適切にシートベルトを着用してすわらせてください。

やむをえずお子さまを助手席に乗せる場合は、次ページの注意事項を厳守してください。

■ジュニアシートについて



三点式シートベルトを使用できず、ジュニアシートを用いる必要があるお子さまは、ジュニアシートをリヤシートに設置して使用してください。

安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

■やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- この取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 助手席を一番後ろまで下げる
- 上体を起こし、シートに深く腰かけ、足をフロアーにつけるよう指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する
- お子さまの行動を見守る

※ジュニアシートについて

ジュニアシートの取り付けについては、ジュニアシートに付属の取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。

ジュニアシートには、座高の高いものと低いものがあります。お子さまが適切にシートベルトを着用できるものを選択してください。

一酸化炭素について

車の排気ガスには一酸化炭素が含まれています。車をきちんと保守していれば、一酸化炭素が車内に入ることはありません。

以下の場合、排気ガスのもれがないか Honda 販売店で点検を受けてください。

■点検が必要な場合

- 排気音に異常を感じたとき
- 車が衝突し、排気システムが損傷した可能性があるとき

☒一酸化炭素について



一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。

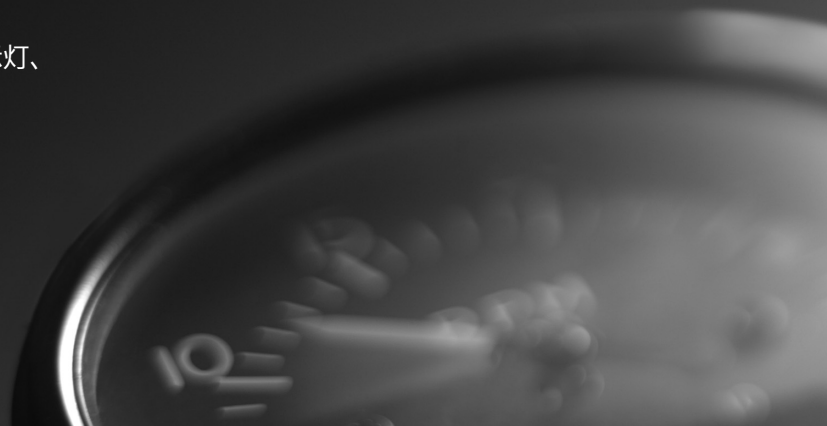
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

ガレージなどの密閉された場所は、一酸化炭素が急に充満するおそれがあります。

ガレージのドアを閉めたままパワーシステムを起動しないでください。ドアが開いている場合でも、ガレージから車を出す直前にパワーシステムを起動するようにしてください。

計器の見かた

この章では、運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、メーター類に関する情報を記載しています。



警告灯と表示灯

警告灯 63

表示灯 69

マルチインフォメーションディスプレイ
の警告メッセージ 73








メーターと








マルチインフォメーションディスプレイ








メーター 81








マルチインフォメーションディスプレイ 82







警告灯




警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	ブレーキ警告灯 (レッド)	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯(パーキングブレーキをかけているときは点灯) ブレーキフルード量が低下したときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 走行中に点灯したりパーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ブレーキフルードを点検し、下限より減っている場合はただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ABS 警告灯と同時に点灯した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ☒ ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した P.264 ブレーキシステム警告灯(オレンジ)と同時に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店で点検を受けてください。 	  
	ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 回生ブレーキシステム、電動サーボシステム、ヒルスタートアシストシステムのいずれかが異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 常時点灯する場合は、高速走行や急停止を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 	 

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	パワーシステム警告灯	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 パワーシステム、プラグイン充電システムが異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 走行中に点灯＝ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 充電終了後、パワーモードをONモードにしたときに点灯＝ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 	 
	油圧警告灯	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 走行中に点灯＝ただちに安全な場所に車を停車し、対処してください。 油圧警告灯が点灯した P.263 	
	PGM-FI 警告灯	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードをONモードにすると点灯し、パワーシステムが起動したときまたは、数秒後にパワーシステムが起動しなかったときは消灯 エンジンの排気ガス制御システムに異常があると点灯 エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅 	<ul style="list-style-type: none"> 走行中に点灯＝高速走行を避けてただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 走行中に点滅＝枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10分以上パワーモードをOFFモードにして冷えるのをお待ちください。 PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した P.264 	








警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	12V バッテリー 充電警告灯	<ul style="list-style-type: none"> • パワーモードをONモードにすると点灯し、パワーシステム起動で消灯 • 12Vバッテリーが充電されていないと点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • 走行中に点灯＝電気の消費量を減らすため、エアコンやリヤデフロスターなどをOFFにし、対処してください。 ☒ 12V バッテリー充電警告灯が点灯した P.263 	
	トランス ミッション警告灯	<ul style="list-style-type: none"> • トランスミッションが異常のときに点滅 	<ul style="list-style-type: none"> • 運転中に点滅した場合は、急発進、急加速を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 	
	シートベルト 非着用警告灯	<ul style="list-style-type: none"> • 運転席または助手席のシートベルトを着用しないと点灯 • パワーモードをONモードにしたときに、運転席のシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅 • 走行中に運転席または助手席のシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅 	<ul style="list-style-type: none"> • シートベルトを正しく着用するとブザーがやみ、警告灯が消灯します。 • シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられます。 ☒ シートベルトリマインダー P.35 	 



警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	Honda スマートキーシステム警告灯	<ul style="list-style-type: none"> • パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • Honda スマートキーシステムが異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • 下記のような場合、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 <ul style="list-style-type: none"> • 運転中に点灯した • パワーシステム起動後も消灯しない • パワーモードがOFFモードのときに数秒間点灯した • パワーモードをOFFモードにしたときに数秒間点灯した 	
	燃料残量警告灯	<ul style="list-style-type: none"> • 燃料の残量が少なくなると点灯 • 点灯するのは、タンクに残っている残量がおよそ 6 リットルになったときです。 • 燃料計に異常があるときは点滅 	<ul style="list-style-type: none"> • 点灯したら早めに給油してください。 • 点滅したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 	 
ACC	ACC(アダプティブクルーズコントロール)警告灯*	<ul style="list-style-type: none"> • パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • ACC システムが異常のときに、オレンジ色で点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • 詳細については、別冊の「ACC/LKAS」取扱説明書をご覧ください。 	
LKAS	LKAS(レーンキープアシストシステム)警告灯*	<ul style="list-style-type: none"> • パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • LKAS が異常のときに、オレンジ色で点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • 詳細については、別冊の「ACC/LKAS」取扱説明書をご覧ください。 	







警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 ABS が異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ☑ ABS(アンチロックブレーキシステム) P.174 	
	エアバッグシステム警告灯	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 下記のとおり点灯 <ul style="list-style-type: none"> エアバッグシステムの異常 プリテンショナーシステムの異常 	<ul style="list-style-type: none"> 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。 	
	VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 VSA が作動しているときは点滅 ブレーキアシストシステム、VSA システムのいずれかが異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 運転中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。 ☑ VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.170 	
	VSA OFF 警告灯	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 VSA を OFF にすると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ☑ VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.170 	—

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	EPS (電動パワーステアリング) システム警告灯	<ul style="list-style-type: none"> • パワーモードをONモードにすると点灯し、パワーシステム起動で消灯 • EPSシステムの機能に異常があると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ▶ EPS (電動パワーステアリング) システム警告灯が点灯した P.265 	
CMBS	CMBS (衝突軽減ブレーキ) 警告灯*	<ul style="list-style-type: none"> • パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • CMBS を OFF にしているとき点灯 • CMBS に異常があるとき点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • OFF にしていないのに点灯する場合は、いくつかの理由が考えられます。 ▶ CMBS (衝突軽減ブレーキ)* P.177 	

表示灯

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	方向指示器 表示灯	<ul style="list-style-type: none"> 方向指示器と対応し、左右どちらかが点滅 非常点滅表示灯スイッチを押すと、左右同時に点滅 	<ul style="list-style-type: none"> 点滅しない / 点滅の周期が速いときは、方向指示器の電球が切れています。ただちに電球を交換してください。  電球の交換 P.214, 218 	—
	ハイビーム表示灯	<ul style="list-style-type: none"> ヘッドライトを上向きにしたときに点灯 	—	—
	ライト点灯 表示灯	<ul style="list-style-type: none"> ライトスイッチが OFF 以外のときに点灯 (AUTO のときは車幅灯点灯時に点灯) 	<ul style="list-style-type: none"> ライトを点灯したままパワーモードを OFF モードにすると、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。 	—
	フォグライト 点灯表示灯	<ul style="list-style-type: none"> フォグライトを点灯させると点灯 	—	—
	セレクト ポジション 表示灯	<ul style="list-style-type: none"> 現在のセレクトレバーのポジションが点灯 	<ul style="list-style-type: none">  シフト操作 P.163 	—

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	イモビライザーシステム表示灯	<ul style="list-style-type: none"> • パワーモードをONモードにする と一瞬点灯し、すぐに消灯 • イモビライザーシステムがキー の情報を認識できないと点滅 	<ul style="list-style-type: none"> • 一瞬の点灯は異常ではありません。 • 点滅しているときは、パワーシステム を起動することはできません。パワー モードをいったんOFFモードにしてか ら、もう一度ONモードにしてくださ い。 • 頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、 システムの異常が考えられますので Honda販売店で点検を受けてください。 • POWER スイッチのそばに、別の キーや金属があるとイモビライザーシ ステムがキーの情報を読み取れないこ とがあります。 	—
	インフォメーション表示灯	<ul style="list-style-type: none"> • 異常を検知すると警告音が鳴 り、マルチインフォメーション ディスプレイにメッセージが表示 され、同時に点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • メッセージが表示されたときは、表示 灯、警告灯の該当ページを参照して、 必要な処置を行ってください。 • メッセージは、警告が解除されるか、 インフォメーション(❗)スイッチ (▲ / ▼)を押すまで通常表示に戻 りません。 • 点灯しているときにインフォメーショ ン(❗)スイッチ(▲ / ▼)を押すと、 メッセージを再表示させる事ができま す。 	—






表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	セキュリティアラームシステム作動表示灯	<ul style="list-style-type: none"> セキュリティアラームシステムがセットされているときに点滅 	<ul style="list-style-type: none"> ☑ セキュリティアラームシステム P.114 	—
	クルーズメイン表示灯*	<ul style="list-style-type: none"> クルーズスイッチを押して、クルーズコントロールをONにすると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ☑ クルーズコントロール* P.167 	—
	クルーズコントロール表示灯*	<ul style="list-style-type: none"> クルーズコントロールで自動定速走行しているときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ☑ クルーズコントロール* P.167 	—
ACC	ACC(アダプティブクルーズコントロール)表示灯*	<ul style="list-style-type: none"> MAIN スwitchを押して、ACCをONにするとグリーンで点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • 詳細については、別冊の「ACC/LKAS」取扱説明書をご覧ください。 	—
LKAS	LKAS(レーンキープアシストシステム)警告灯*	<ul style="list-style-type: none"> MAIN スwitchを押して、LKASをONにするとグリーンで点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • 詳細については、別冊の「ACC/LKAS」取扱説明書をご覧ください。 	—
	ECON 表示灯	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 ECON スwitchを押して、ECONモードにすると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ☑ ECON スwitch P.165 	
READY	READY 表示灯	<ul style="list-style-type: none"> 走行の準備が完了すると点灯 	—	





表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	EV 表示灯	<ul style="list-style-type: none"> • パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • エンジンが停止し、モーターで走行しているときに点灯 	—	—
	HV モード表示灯	<ul style="list-style-type: none"> • パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 	—	—
		<ul style="list-style-type: none"> • HV モードのときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ SPORT HYBRID i-MMD Plug-in (インテリジェントマルチモードドライブブラグイン) P.5 	
		<ul style="list-style-type: none"> • HV CHARGE モードのときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ SPORT HYBRID i-MMD Plug-in (インテリジェントマルチモードドライブブラグイン) P.5 	
	HV CHARGE モード表示灯	<ul style="list-style-type: none"> • HV CHARGE モードのときに HV モード表示灯と同時に点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ SPORT HYBRID i-MMD Plug-in (インテリジェントマルチモードドライブブラグイン) P.5 	—





マルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージ




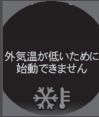
下記の警告メッセージはマルチインフォメーションディスプレイにのみ表示されます。
再表示させるときはインフォメーション(●)スイッチ(▲/▼)を押してください。

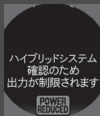


警告メッセージ	表示される状況	アドバイス
	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードが ON モードのときに、外気温が3℃以下になると1回のみ表示 	—
	<ul style="list-style-type: none"> エンジン冷却水の温度が異常に上がると表示 	<ul style="list-style-type: none"> ゆっくり走行してください。
	<ul style="list-style-type: none"> エンジン冷却水の温度が上限近くまで上がると表示 	<ul style="list-style-type: none"> ただちに安全な場所に停車し、エンジンを冷やしてください。 ▶ オーバーヒート P.260
	<ul style="list-style-type: none"> オートライトコントロールシステムに異常があると表示 	<ul style="list-style-type: none"> 運転中に表示された場合は、ライトの点灯、消灯は手動で行い、Honda 販売店で点検を受けてください。 ▶ ライトスイッチ P.124
	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードがアクセサリモードのときに運転席のドアを開けると表示 	<ul style="list-style-type: none"> ブレーキペダルを踏まずに POWER を2回押して、パワーモードをOFFモードにしてください。 ▶ POWER スイッチ P.119







警告メッセージ	表示される状況	アドバイス
	<ul style="list-style-type: none"> • パワーモードがアクセサリモードのときに表示 	<p>—</p>
	<ul style="list-style-type: none"> • パワーモードが ON モードで、Honda スマートキーを車外に持ち出し、ドアを閉めたときに、警告音と同時に表示 ▶ Honda スマートキー持ち去り警告 P.121 	<ul style="list-style-type: none"> • パワーモードONの作動範囲内にHonda スマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。
	<ul style="list-style-type: none"> • Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときに、警告音と同時に表示 	<p>▶ Honda スマートキーの取り扱いと電池交換 P.230</p>
	<p>CMBS 装備車</p> <ul style="list-style-type: none"> • 前方の車両に追突するおそれがあるときに、警告ブザーと同時に表示 	<p>▶ CMBS(衝突軽減ブレーキ)* P.177</p>
	<p>CMBS 装備車</p> <ul style="list-style-type: none"> • エンブレムが汚れてレーダーセンサーが前の車両を検知しにくいときに表示 	<p>▶ CMBS(衝突軽減ブレーキ)* P.177</p>


警告メッセージ	表示される状況	アドバイス
	<ul style="list-style-type: none"> 以下のとき、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ設定をすると表示 <ul style="list-style-type: none"> セレクタレバーが P 以外のとき 	<p>☒ カスタマイズのしかた P.90</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ロービームヘッドライトの機能に異常があると表示 	<ul style="list-style-type: none"> 運転中に表示された場合は、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。
	<ul style="list-style-type: none"> オーディオ / インフォメーション画面でカスタマイズ中に、マルチインフォメーションディスプレイでカスタマイズ操作をすると表示 	<ul style="list-style-type: none"> オーディオ / インフォメーション画面とマルチインフォメーションディスプレイの両方で同時にカスタマイズ設定は行えませんが、 ☒ カスタマイズ機能 P.89
	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードがアクセサリモードまたは ON モードのときに表示 	<p>☒ パワーシステムの起動 P.158</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ハンドルのロックが解除されていないときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> ハンドルを左右に動かしながら POWER を押してください。

警告メッセージ	表示される状況	アドバイス
	<ul style="list-style-type: none"> セレクトレバーが P 以外のとき、POWER を押すと表示 	<ul style="list-style-type: none"> セレクトレバーを P にして、POWER を 2 回押してください。
	<ul style="list-style-type: none"> Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときや Honda スマートキーが車内にないときに、警告音と同時に表示 	<p>➤ Honda スマートキーの電池が切れたとき P.255</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 「キーでスイッチに触れてください」と表示された後、Honda スマートキーを POWER に接触させた数秒後に表示 ▶ その後、「システム起動：ブレーキを踏みスイッチを押す」と表示されます。 	<p>➤ Honda スマートキーの電池が切れたとき P.255</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 12V バッテリーセンサーの機能に異常があると表示 12V バッテリーが充電されていないと表示 	<ul style="list-style-type: none"> ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 12V バッテリー充電警告灯が同時に点灯しているとき＝電気の消費量を減らすため、エアコンやリヤデフロスターなどを OFF にし、対処してください。 ➤ 12V バッテリー充電警告灯が点灯した P.263

警告メッセージ	表示される状況	アドバイス
	<ul style="list-style-type: none"> • ドア / トランクが完全に閉まっていないときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> • ドア / トランクを完全に閉めてください。
	<ul style="list-style-type: none"> • パワーシステムの温度が高いときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> • 加速しにくくなります。また、上り坂などでの発進が困難になる場合があります。 • 安全な場所に車を止め、冷却してください。 ▶ オーバーヒート P.260
	<ul style="list-style-type: none"> • パワーシステムの温度が低いときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> • 加速しにくくなります。また、上り坂などでの発進が困難になる場合があります。 • メッセージを表示させないようにするためには、車両を車庫に保管するか、事前に走行して高電圧バッテリーを温めておきます。
	<ul style="list-style-type: none"> • 高電圧バッテリーの温度が極端に低いときに表示 (−30℃以下) 	<ul style="list-style-type: none"> • ガレージ内で保管するなど、高電圧バッテリーが極低温状態にならないようにしてください。 • 必要に応じて Honda 販売店に相談してください。

警告メッセージ	表示される状況	アドバイス
	<ul style="list-style-type: none"> • パワーシステムが自己診断モードになると表示 	<ul style="list-style-type: none"> • 車速を維持できない場合があります。また、減速する場合があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • 自己診断の結果によっては、パワーシステム警告灯も点灯する場合があります。 ▶ パワーシステム警告灯 P.64
	<ul style="list-style-type: none"> • プラグイン充電システムまたは充電設備に異常があると表示 	<ul style="list-style-type: none"> • この警告表示のみ表示されているとき = 充電設備のコンセントに異常がある可能性があります。 ▶ 充電設備の説明書を確認するか、充電設備の設置業者にご相談ください。 ▶ 充電設備に異常がない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • パワーシステム警告灯と同時に表示されているとき = ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	<ul style="list-style-type: none"> • 充電コネクタを充電口に接続すると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • 充電コネクタが充電口に接続されているときは走行できません。

警告メッセージ	表示される状況	アドバイス
	<ul style="list-style-type: none"> 充電用リッドが開いているときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> 充電用リッドを閉めてください。  充電 P.188
	<ul style="list-style-type: none"> 充電コネクタを接続中にパワーシステムを ON にし、充電コネクタを外すと表示 	<ul style="list-style-type: none"> パワーシステムをOFFにしてください。走行するときは再度パワーシステムをONにしてください。  パワーシステムの起動 P.158
	<ul style="list-style-type: none"> 車両接近通報システムに異常があると表示 	<ul style="list-style-type: none"> ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	<ul style="list-style-type: none"> フューエルリッドが開いている状態で、車速が約15km/h以上で走行すると表示 パワーモードが ON モードのときにフューエルリッドが開いている状態で、30分以上経過すると表示 	<ul style="list-style-type: none"> 安全な場所に車を止め、フューエルリッドを閉めてください。 パワーシステムを OFF にしてからフューエルキャップを締め直し、フューエルリッドを閉めてください。 ▶ 再給油するときは、フューエルリッドオープンスイッチを押してリッドを開きます。

警告メッセージ	表示される状況	アドバイス
 A circular icon with a wrench and the text "まもなくスマートメンテナンス 推奨時期です A234578". <p>まもなくスマートメンテナンス 推奨時期です A234578</p>	<ul style="list-style-type: none">メンテナンス時期が近付くと表示	<ul style="list-style-type: none">メンテナンス推奨時期になると、「スマートメンテナンスを推奨します」と表示され、メンテナンス推奨時期を過ぎると、「メンテナンス推奨時期を過ぎていきます」と表示されます。 ■ スマートメンテナンス P.204

メーターとマルチインフォメーションディスプレイ

メーター

メーターには、スピードメーター、燃料計などの種類があります。
パワーモードが ON モードのとき表示されます。

■スピードメーター

走行速度を km/h で表示します。

■燃料計

燃料タンクに残っている、燃料の量を表示します。
パワーモードが ON モードのとき表示されます。

■パワー表示(POWER)/チャージメーター表示(CHARGE)

モーター出力と高電圧バッテリーへの充電の状態をバーグラフで表示します。

■高電圧バッテリー残量計

高電圧バッテリー内の充電量を表示します。

☒燃料計

燃料計が[E]に近づいたら、早めに給油してください。

燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。

実際の燃料残量と、メーターに表示される量は異なる場合がありますので、ご注意ください。

☒高電圧バッテリー残量計

次のような場合は、高電圧バッテリー残量表示が下がることがあります。

- 12V バッテリーを交換したとき
- 12V バッテリーの端子を外したとき
- 高電圧バッテリー制御システムが残量の誤差を補正したとき

高電圧バッテリーの温度が変化すると、充電容量が上下することがあります。そのため充電量が変わらなくても、高電圧バッテリー残量計の表示が変化することがあります。

マルチインフォメーションディスプレイ

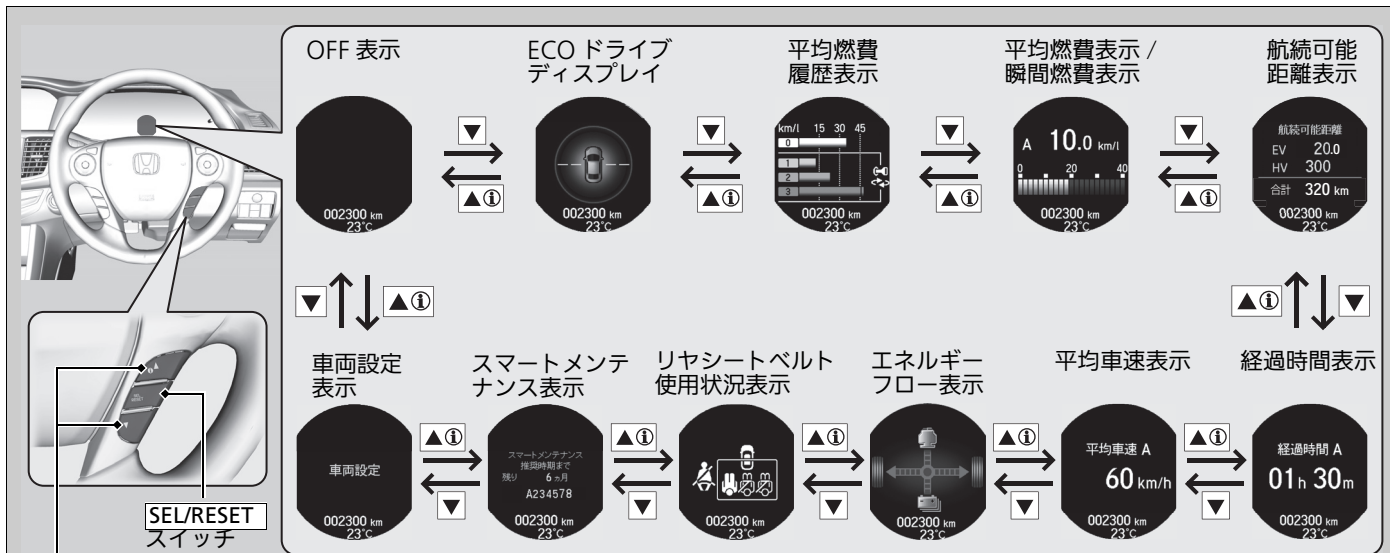
マルチインフォメーションディスプレイには、オドメーター、トリップメーター、外気温表示、燃費情報などが表示されます。

また、異常を検知すると警告メッセージが表示されます。

■表示の切り換えかた

■メインディスプレイ

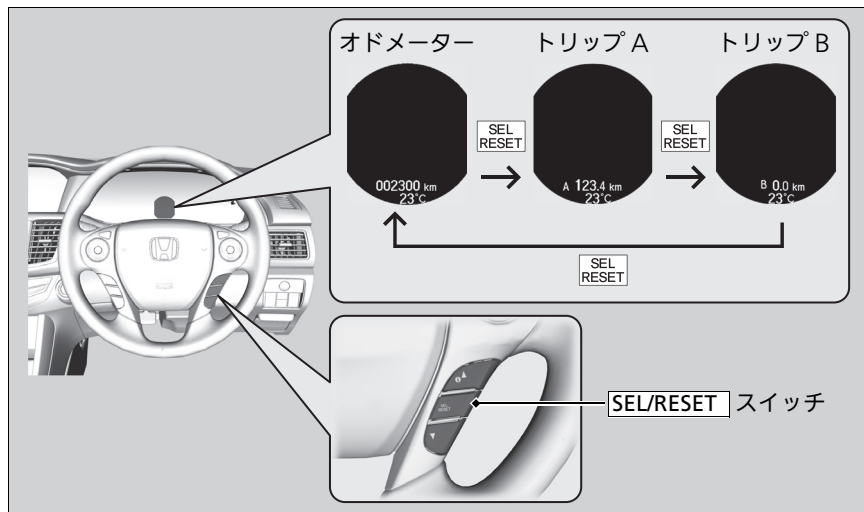
インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押すごとに画面が切り換わります。



インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)

■サブディスプレイ

SEL/RESET を押しごとに画面が切り換わります。



■オドメーター

走行距離の累計を km で表示します。

■トリップメーター

リセットしてからの走行距離を km で表示します。
トリップメーターA と、トリップメーターB があり、それぞれ独立して計測するため 2 つの走行距離を知ることができます。

■トリップメーターをリセットするには

リセットしたいトリップメーターが表示されている状態で、**SEL/RESET** またはセレクト / リセットノブを押し続けてください。トリップメーターが 0.0 にリセットされます。

■瞬間燃費表示

瞬間燃費をバーグラフに km/l で表示します。

■平均燃費表示

トリップメーターA、B と連動し、それぞれの平均燃費を一定時間ごとに更新して km/l で表示します。

トリップメーターA、B をリセットすると、平均燃費表示 A、B、平均車速表示 A、B、経過時間表示 A、B も同時にリセットされます。

※トリップメーター

トリップメーターは走行距離が 9999.9km を超えると、0.0km に戻ります。

トリップメーターA とトリップメーターB は、**SEL/RESET** またはセレクト / リセットノブを押して切り換えられます。

※平均燃費表示

表示される平均燃費は、実際に走行した燃費とは異なる場合があります。

トリップメーターA、B と平均燃費表示 A、B を給油や充電と連動させて自動的にリセットさせることができます。

▶ カスタマイズ機能 P.89

航続可能距離表示

高電圧バッテリーの残量と燃料、平均燃費をもとに推定航続可能距離を km で表示します。

経過時間表示

トリップメーターA、B をリセットしてからの経過時間を表示します。

平均車速表示

トリップメーターA、B をリセットしてからの平均車速を km/h で表示します。

外気温表示

外気温を測定し表示します。

■外気温表示を補正するには

外気温とメーターの表示温度に差がある場合、 $\pm 3^{\circ}\text{C}$ の範囲で補正することができます。

補正するには、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ機能を使用します。

🔧 カスタマイズ機能 P.89

🔍航続可能距離表示

表示される航続可能距離は、実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。
車両停止状態でも EV 航続可能距離が変動する場合があります。

🔍経過時間表示

経過時間表示は 99 時間 59 分まで表示できます。

トリップメーターA、B と経過時間表示 A、B を給油や充電と連動させて自動的にリセットさせることができます。

🔧 カスタマイズ機能 P.89

🔍平均車速表示

トリップメーターA、B と平均車速表示 A、B を給油や充電と連動させて自動的にリセットさせることができます。

🔧 カスタマイズ機能 P.89

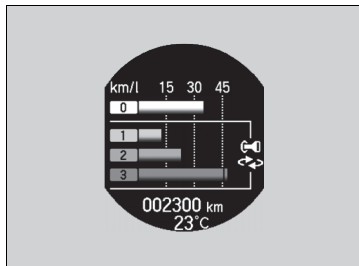
🔍外気温表示

温度センサーはフロントバンパー付近に付いています。

速度がおおよそ 30km/h 以下のときは、表示される温度が、路面の熱、エンジンの熱、周囲の車の排気ガスの影響を受けることがあります。
また、温度の読み取り値が安定するまで更新されないため、温度表示の更新に数分かかることがあります。

外気温表示の補正は、温度が安定してから行ってください。

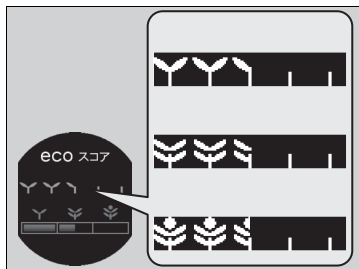
平均燃費履歴表示



走行時の平均燃費履歴を過去3回分表示します。

パワーモードを ON モードにすると更新され、最も古い履歴が消去されます。

ECO スコア



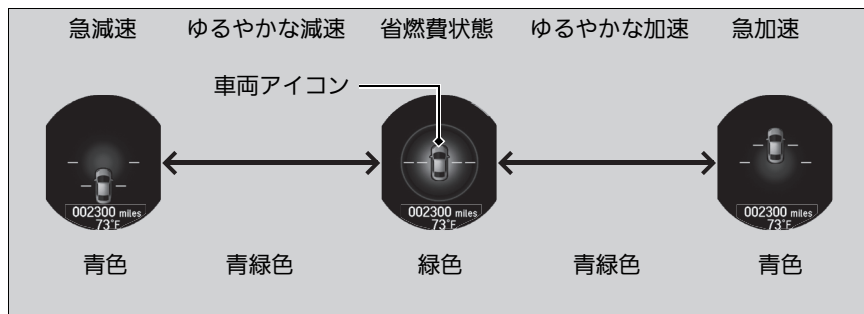
1st ステージから 3rd ステージまで 3 つのランクがあり、運転操作の状態に応じてリーフが増減し、ランクアップ(ダウン)します。

ECO ドライブディスプレイ

運転操作の状態に応じて車両のアイコンが前後に動きます。

急な加速を行うほど車両アイコンが前側に動き、急な減速を行うほど車両アイコンが後側に動きます。

車両アイコンが前後に動かないように運転することで、スムーズな省燃費運転となります。



運転操作の状態に応じて車両アイコンの周囲の色が変化します。

緑色：省燃費状態

青緑色：緩やかな加減速状態

青色：急加減速状態

■エネルギーフロー表示

モーター駆動やエンジン作動、高電圧バッテリーの充電状態などを表示します。



モーターとエンジンからパワー供給



モーターのみからパワー供給



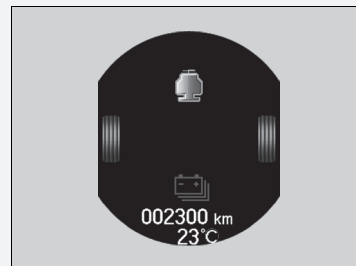
モーターが高電圧バッテリーへ充電



エンジンのみからパワー供給

■エネルギーフロー表示

エンジン作動中に停車していると、下記のような表示になることがあります。



カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイを使って、下表の機能をお好みに合わせてカスタマイズ(設定変更)することができます。

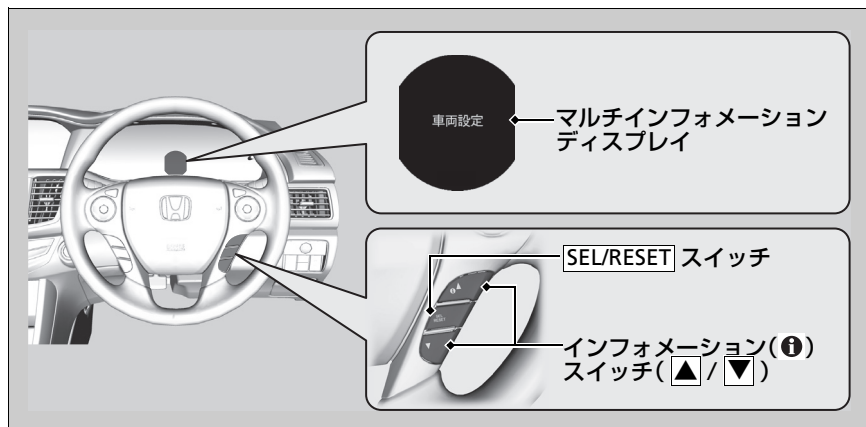
カスタマイズ機能	選択できる設定内容	
運転支援システム設定*	CMBS 警報距離	Far、Normal ^{※1} 、Near
	ヘッドアップワーニング	ON ^{※1} 、OFF
	ACC 先行車検知音	有り ^{※1} 、無し
メーター設定	外気温表示補正	-3℃ ~ ±0℃ ^{※1} ~ +3℃
	TRIP A 自動リセットタイミング	給油連動、充電連動、IGN OFF 連動、手動のみ ^{※1}
	TRIP B 自動リセットタイミング	給油連動、充電連動、IGN OFF 連動、手動のみ ^{※1}
	アンピエントメーター照明色変化設定	ON ^{※1} 、OFF
	交差点案内表示	ON ^{※1} 、OFF
Honda スマートキーシステム設定	アンサーバックブザー音量	大 ^{※1} 、小
	ドアハンドル操作アンサーバックブザー	作動 ^{※1} 、非作動
ライティング設定	インテリアライト点灯時間	60 秒、30 秒 ^{※1} 、15 秒
	オートライト感度	MAX、HIGH、MID ^{※1} 、LOW、MIN
ドア設定	自動ドアロック連動機能	車速連動 ^{※1} 、シフト連動、非連動
	自動ドアアンロック連動機能	シフト連動 ^{※1} 、IGN OFF 連動、非連動
	キーレスアンサーバック	作動 ^{※1} 、非作動
	キーレスリロック時間	90 秒、60 秒、30 秒 ^{※1}
	セキュリティー機能	作動 ^{※1} 、非作動
メンテナンスリセット	キャンセル、A/2/3/4/5/7/8 のみリセット、一括リセット ^{※2}	
工場出荷設定	中止、実行	

※1：工場出荷値の設定

※2：スマートメンテナンス推奨時期が過ぎた項目が複数あるときのみ

■ カスタマイズのしかた

パワーモードが ON モードでセレクトレバーが **P** のときに、インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲ / ▼)を押して「車両設定」を選択します。そして **SEL/RESET** を操作すると、カスタマイズを行うことのできる「カスタマイズグループ」画面に切り換わります。

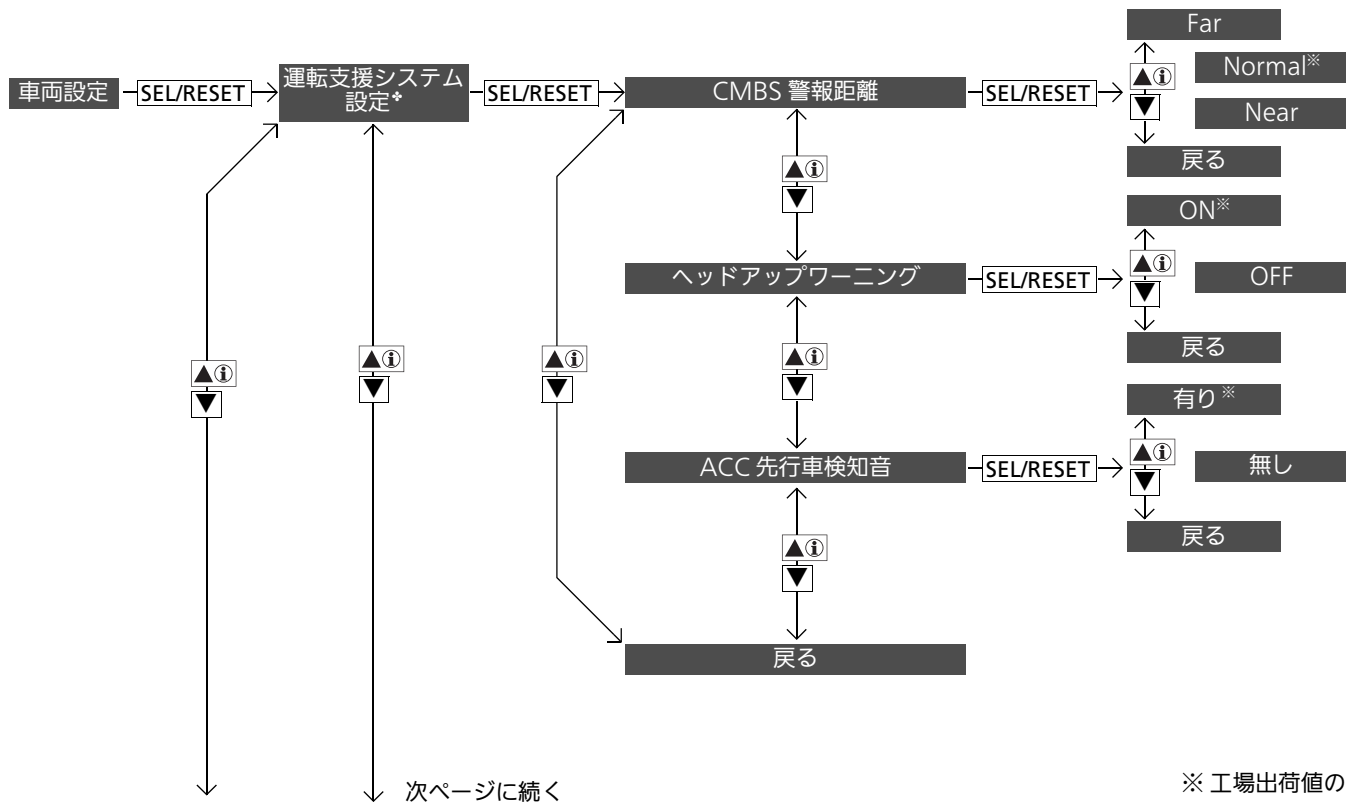


☒ カスタマイズのしかた

- ☒ カスタマイズ操作一覧 P.91
- ☒ カスタマイズ設定の例 P.96

■カスタマイズ操作一覧

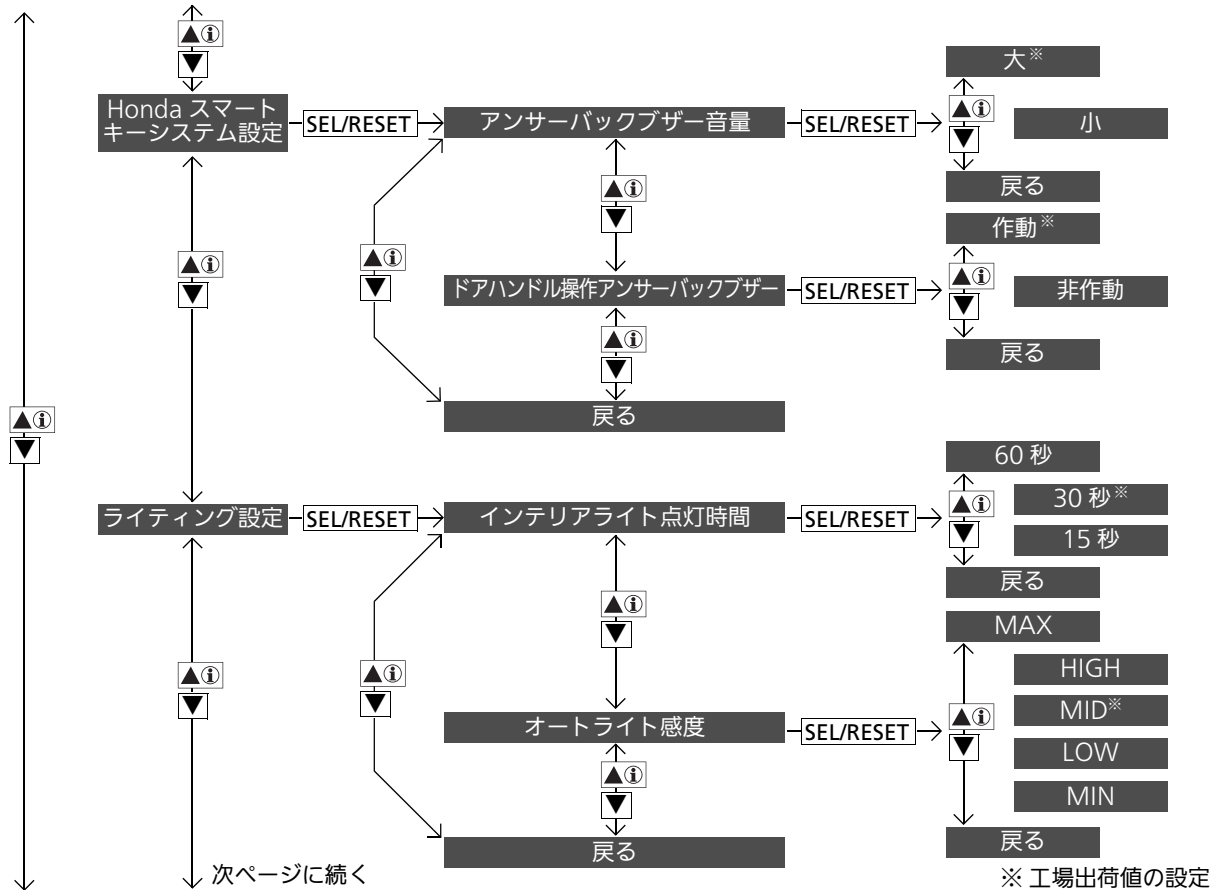
インフォメーション(ℹ)スイッチ(▲/▼)でメニューまたは設定値を切り換え、SEL/RESETで決定します。



計器の見かた

※ 工場出荷値の設定

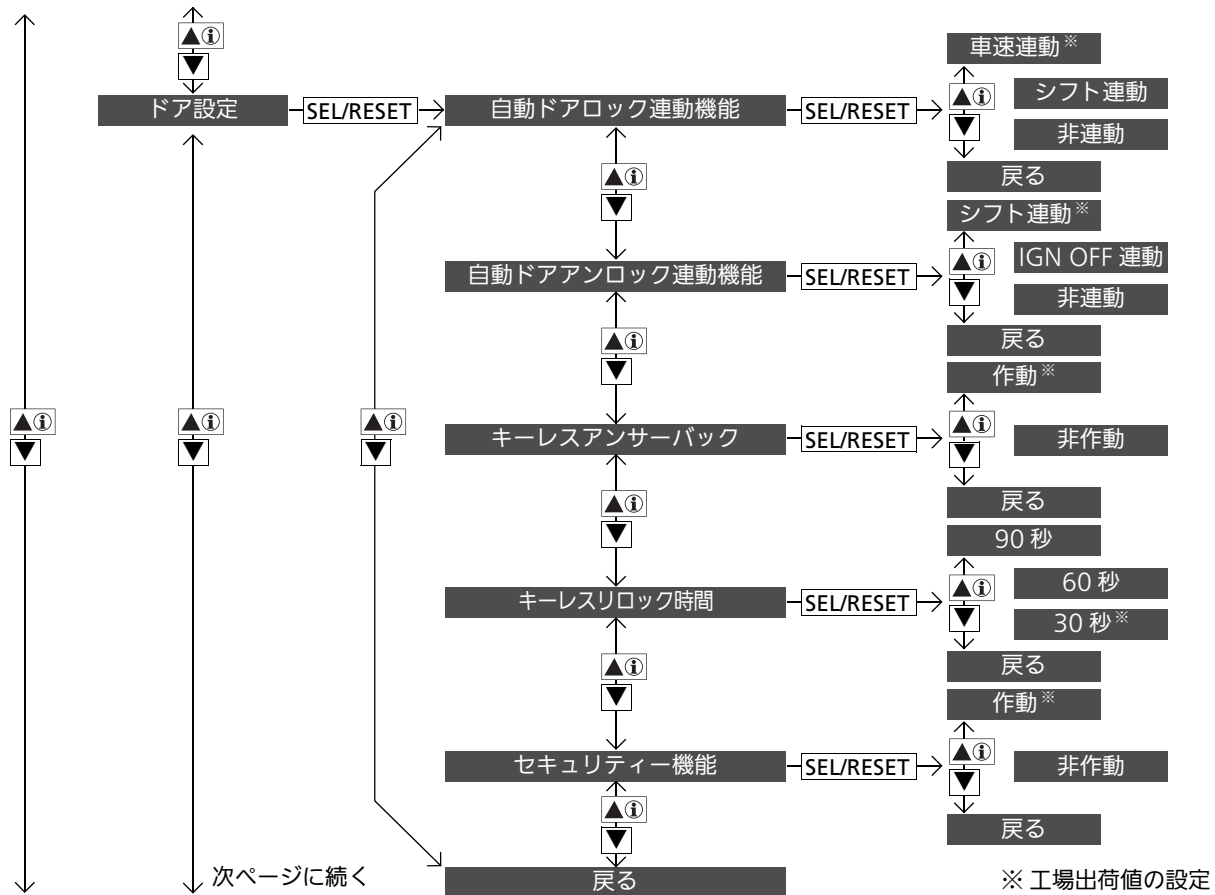
❖ : タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



計器の見かた

※ 工場出荷値の設定

次ページに続く





※ スマートメンテナンス推奨時期が過ぎた項目が複数あるときのみ

計器の見かた

■カスタマイズ設定の例

例えば「TRIP A 自動リセットタイミング」を「給油連動」にする場合、下記の手順で設定します。

「TRIP A 自動リセットタイミング」は工場出荷時の設定では「手動のみ」になっています。



1. インフォメーション(ℹ)スイッチ(▲/▼)を押し、「車両設定」が表示されたら、**SEL/RESET** を操作する。
 - ▶ 「カスタマイズグループ」画面に切り換わり、「メーター設定」が表示されません。
 - ▶ ACC/LKAS 装備車は、最初に「運転支援システム設定」が表示されますので、インフォメーション(ℹ)スイッチ(▲/▼)を押し、「メーター設定」を選択します。
2. **SEL/RESET** を操作する。
 - ▶ 「カスタマイズメニュー」画面に切り換わり、最初に「外気温表示補正」が表示されます。

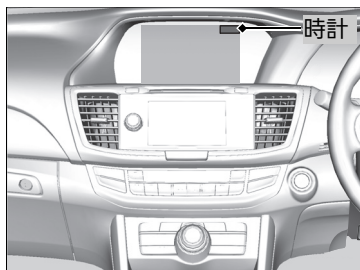


3. インフォメーション(❶)スイッチ(▲/▼)を押し、「TRIP A 自動リセットタイミング」が表示されたら、**SEL/RESET** を操作する。
 - ▶ 「カスタマイズセットアップ」画面に切り換わり、「給油連動」、「IGN OFF 連動」、「手動のみ」が選択できます。
4. 「給油連動」が選択されていることを確認し、**SEL/RESET** を操作する。
 - ▶ 「給油連動に設定しました」という画面が表示された後、「カスタマイズメニュー」画面に戻ります。
5. インフォメーション(❶)スイッチ(▲/▼)を押し、「戻る」が表示されたら、**SEL/RESET** を操作する。
6. 手順 5 の操作を通常画面に戻るまで繰り返す。

各部の操作

この章では、運転に必要な各部の操作方法について記載しています。

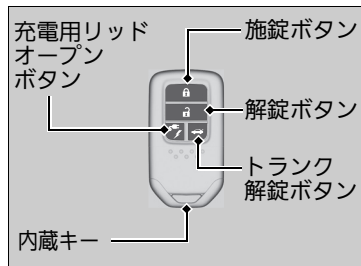
時刻の設定.....	99	ハンドルまわりのスイッチ操作		ミラー類の調節.....	131
ドアの施錠と解錠		POWER スイッチ.....	119	シートの調節.....	134
キーの種類と機能.....	100	方向指示器(ウィンカースイッチ).....	122	ヘッドレスト.....	137
車外でのドアの施錠/解錠.....	103	アクティブコーナリングライト.....	123	アームレスト.....	139
車内での施錠/解錠.....	107	ライトスイッチ.....	124	室内灯/室内装備品.....	140
チャイルドプルーフ.....	109	フォグライトスイッチ.....	125	エアコン	
トランクの開閉.....	111	ワイパー/ウォッシャー.....	126	エアコンの吹き出し口.....	148
セキュリティシステム		イルミネーションコントロール.....	128	オートエアコンの使いかた.....	149
イモビライザーシステム.....	114	リヤデフロスター/ヒータードアミラー			
セキュリティアラームシステム.....	114	スイッチ.....	129		
ウィンドウの開閉.....	116	ハンドルの調節.....	130		



時計は人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。

キーの種類と機能

この車には、以下のキーが付いています。



パワーシステムの起動、停止のほかに、すべてのドア、トランクの施錠・解錠に使用できます。

また、キーについているボタンで、すべてのドア、トランクの施錠 / 解錠の操作ができます。

▼キーの種類と機能

アドバイス

キーには、精密な電子部品が組み込まれています。

故障を防ぐため、下記の点をお守りください。

- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 分解をしない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

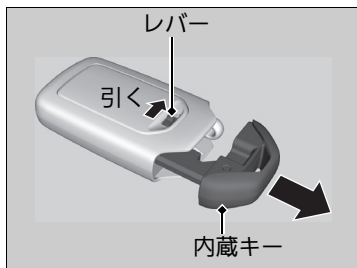
すべてのキーには、イモビライザーシステムがついています。イモビライザーシステムは、車両を盗難から守るためのシステムです。

▼イモビライザーシステム P.114

キーの電子部品が故障すると、パワーシステムの起動やリモート発信が作動しなくなることがあります。

キーが正常に作動しなくなった場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

■ Honda スマートキー



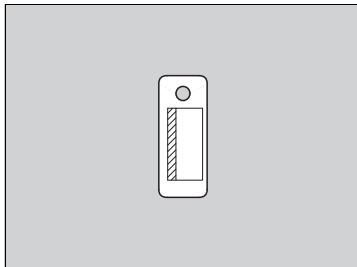
Honda スマートキーの電池が切れたときや車のバッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。

内蔵キーは、レバーを引きながら取り出します。

収納するときは、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

Honda スマートキーの電池の消耗や故障したときのことを考慮して、内蔵キーはHonda スマートキーに収納しておいてください。

■ キーナンバータグ



キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。

※キーの種類と機能

Honda スマートキーは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。以下のことをお守りください。

- 日本国内でのみ使用する
 - 電池交換時以外は分解しない
 - 改造しない
 - キーの内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない
- 分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。**

■ Honda スマートキーの電池が切れたとき
P.255

※キーナンバータグ

キーナンバータグは、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。

キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。キーと一緒に保管せず、車両以外の場所に大切に保管してください。キーを紛失したときや、追加購入したいときは、Honda 販売店に依頼してください。

Honda スマートキーの微弱電波

Honda スマートキーを使用してドア、トランクの施錠 / 解錠操作をするときやパワーモードを ON モードにするとき、Honda スマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されます。

そのため、次のような場合正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- 近くに強い電波を発する設備があるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき

車室内発信器
(インストルメントパネル内)

車室外発信器
(ドアハンドル内)

車室外発信器
(リヤバンパー内)

車室外発信器
(ドアハンドル内)

車室内発信器
(トランク内)

車室内発信器
(センターコンソール内)

車室内発信機
(インストルメントパネル内)

車室外発信機
(ドアハンドル内)

車室内発信器
(トランク内)

車室内発信器
(センターコンソール内)

車室外発信器
(リヤバンパー内)

※Honda スマートキーの微弱電波



注意

植え込み型心臓ペースメーカおよび植え込み型除細動器を使用しているかたは、車両に搭載されている発信機から 22cm 以内に近づかない。

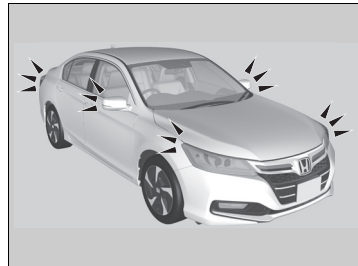
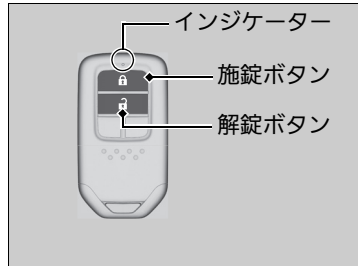
Honda スマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

Honda スマートキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池寿命は、使用状況により異なりますが約 2 年間です。

また、強い電波を受信し続けると電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くには置かないください。

車外でのドアの施錠 / 解錠

■ キーレスエントリーでの施錠 / 解錠



■ 施錠

施錠ボタンを押します。

- ▶ 非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドアとトランクが施錠されます。

■ 解錠

解錠ボタンを押します。

- ▶ 非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドアとトランクが解錠されます。

■ キーレスエントリーでの施錠 / 解錠

パワーモードが OFF モード以外のときは、キーレスエントリーおよび Honda スマートキーによる施錠 / 解錠はできません。

30 秒以内にドアを開けてください。

キーレスエントリーで解錠操作をした場合、30 秒以内にドアを開けないと、ドアは再び自動的に施錠されます。

解錠ボタンを押すと、室内灯が点灯します。

室内灯のスイッチがドアと連動する位置にあるとき、解錠ボタンを押すと室内灯が点灯します。約30秒点灯し、徐々に暗くなります。30秒以内にキーレスエントリーで施錠すると、室内灯はただちに消灯します。

▶ 室内灯 P.140

キーレスエントリーは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。

次の場合、キーレスエントリーは作動しません。

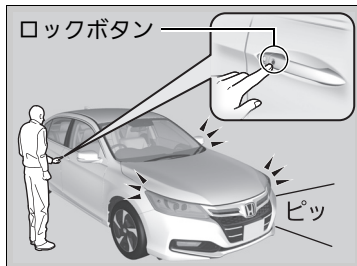
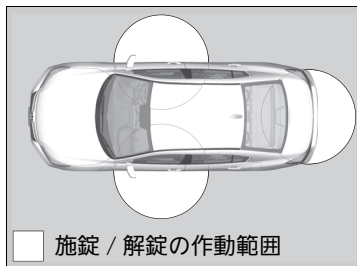
- パワーモードが OFF モード以外のとき
ドアが開いているときは、キーレスエントリーで施錠できません。

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。

ボタンを押したときに、インジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。

▶ 電池交換のしかた P.230

■ Honda スマートキーでの施錠 / 解錠



Honda スマートキーを携帯し、ロックボタン、ドアハンドルを操作することでドア、トランクの施錠や解錠を操作します。ドア、トランクの施錠 / 解錠が作動するのは、運転席または助手席ドアハンドルから周囲約 80cm 以内です。

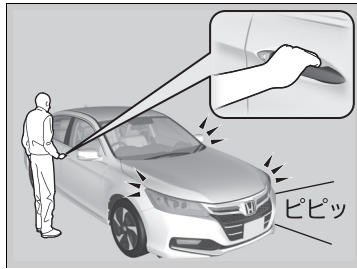
■施錠するには

運転席または助手席ドアハンドルのロックボタンを押します。

- ▶ 「ピッ」というアンサーバックブザーが鳴り非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドアとトランクが施錠されます。

▶▶ Honda スマートキーでの施錠 / 解錠

- Honda スマートキーは運転者が携帯し、車内に残したまま降車しないでください。
- 同じ作動範囲に Honda スマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもロックボタンやドアハンドルで施錠 / 解錠操作ができます。
- 革製やスキー用の手袋などを着用しているときは、ドアハンドルでの解錠操作が遅れたりできなかつたりすることがあります。
- 作動範囲内に Honda スマートキーがあるときは、大雨や洗車などで大量の水がドアハンドルにかかると、解錠されることがあります。
- 施錠後約 2 秒間は、ドアハンドルを握っても解錠操作はできません。
- ドアハンドルを握った直後に引くと、ドアが開かないことがあります。ドアハンドルを握りなおし、解錠されていることを確認してから引いてください。
- ドアハンドルより約 80cm 以内の距離でも、Honda スマートキーが地面の近くや高い位置にあるときは作動しないことがあります。
- ドアやドアガラスに近づきすぎていると作動しないことがあります。



■ 解錠するには

運転席または助手席ドアハンドルを握ります。

- ▶ 「ピピッ」というアンサーバックブザーが鳴り非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドアとトランクが解錠されます。

☒ Honda スマートキーでの施錠 / 解錠

30 秒以内にドアを開けてください。

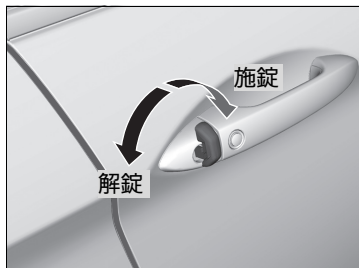
Honda スマートキーでドアの解錠操作をした場合、30 秒以内にドアを開けないと、ドアは再び自動的に施錠されます。

カスタマイズ機能について

施錠 / 解錠時に鳴るアンサーバックブザーは、マルチインフォメーションディスプレイを使って音量を変えたりブザーが鳴らないようにすることができます。

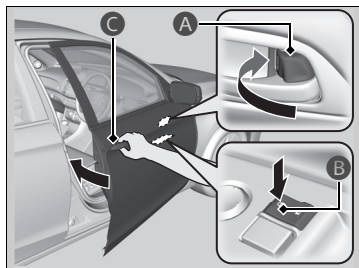
☒ **カスタマイズ機能 P.89**

■内蔵キーを差し込んだでの施錠 / 解錠



内蔵キーを確実に差し込んで、回します。

■内蔵キーを使わないでの施錠



■運転席のドアの施錠

ノブ **A** を押し込むか、マスタードアロックスイッチ **B** を施錠のほうに押し、外側のドアハンドル **C** を引いたままドアを閉めます。

■運転席以外のドアの施錠

ノブを押し込み、ドアを閉めます。

■キー閉じ込み防止装置

Honda スマートキーが車内の作動範囲内に置いてあると、施錠できません。

※内蔵キーを差し込んだでの施錠 / 解錠

運転席ドアに内蔵キーを差し込んで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドアとトランクも同時に施錠 / 解錠されます。

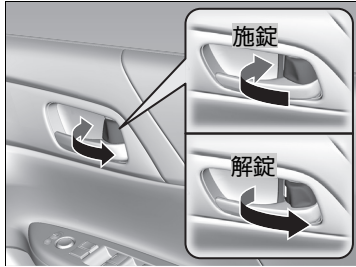
※内蔵キーを使わないでの施錠

運転席ドアで施錠すると、ほかのすべてのドアとトランクも同時に施錠されます。

キー閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠しましょう。

車内での施錠 / 解錠

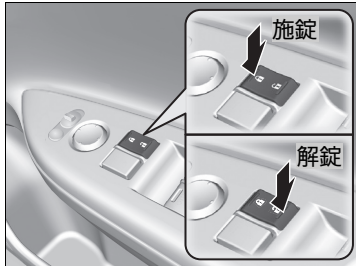
■ ノブでの施錠 / 解錠



■ **施錠するには**
ノブを押し込みます。

■ **解錠するには**
ノブを引きます。

■ マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠



マスタードアロックスイッチを施錠 / 解錠の
ほうに押します。

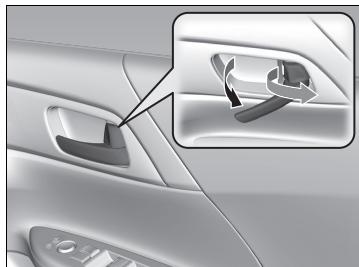
☒ ノブでの施錠 / 解錠

運転席ドアのノブで施錠すると、ほかのすべてのドア、トランクも同時に施錠されます。
運転席ドアのノブで解錠したときは、運転席ドア、トランクのみ解錠されます。

☒ マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠

運転席ドアのマスタードアロックスイッチで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、トランクも同時に施錠 / 解錠されます。

■ 運転席ドアハンドルでの解錠



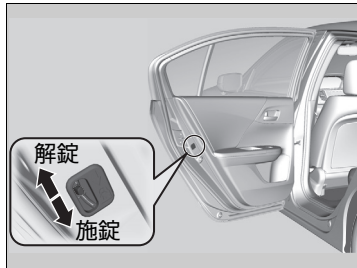
室内の運転席ドアハンドルを引くと、運転席ドア、トランクのみが解錠されます。

チャイルドブルーフ

チャイルドブルーフとは、走行中などにお子さまが車外に放り出されることを防止するため、ノブの位置に関係なく、後席ドアを車内から開けることができないようにする機能です。

お子さまをリヤシートに乗せるときなどにお使いください。

■ チャイルドブルーフのセット



後席ドアについているツマミを、施錠の位置にしてドアを閉めます。

■ ドアを開ける場合

外側のハンドルで開けます。

☒ チャイルドブルーフ

チャイルドブルーフセット時に車内から開けたい場合は、ノブを解錠状態にして後席ウィンドーを下げ、窓から手を出して外側のドアハンドルを引いてください。

衝撃感知ドアロック解除システム

車両に衝撃が加わったときに、自動的にすべてのドア、トランクを解錠するシステムです。

作動するのは以下の場合です。

- 正面からの衝撃：SRS エアバッグが作動したとき
- 側面からの衝撃：サイドエアバッグ/サイドカーテンエアバッグが作動したとき
- 後面からの衝撃：衝撃が大きいとき

いずれの場合も、安全性を考慮して衝撃を受けてから約 10 秒後に解錠します。

オートドアロック / オートドアアンロック

■オートドアロック(車速連動)

オートドアロックとは、車速が約 15km/h 以上になるとすべてのドア、トランクが自動的に施錠される機能です。

■オートドアアンロック(セレクトレバー連動)

ブレーキペダルを踏みセレクトレバーを **P** に入れると、すべてのドア、トランクが自動的に解錠される機能です。

※衝撃感知ドアロック解除システム

衝撃の加わりかたや大きさによっては解錠しない場合があります。

※オートドアロック / オートドアアンロック

マルチインフォメーションディスプレイを使ってオートドアロック / オートドアアンロックの条件をカスタマイズすることができます。

🔧 **カスタマイズ機能** P.89

トランク開閉時の注意

トランク開閉をするときは、下記の点に注意してください。

■トランクを開けているとき

- トランクは上までしっかりと開ける。
 - ▶ 途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。
- 風の強い日は、風にあおられて閉まらないように注意する。
- トランクを開けたまま走行しない。
 - ▶ 車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。

■トランクを閉めるとき

- Honda スマートキーを、トランク内に置き忘れないように注意する。

※トランク開閉時の注意

注意

トランクを閉めるときは、頭をぶつけたり手をはさまないように注意する。

エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないようにする。

やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

トランクルーム内には、人を乗せない。
ブレーキや加速、衝突のときにけがをすることがあります。

トランク内にお子さまが入らないように注意する。

トランクは中から開けることはできません。

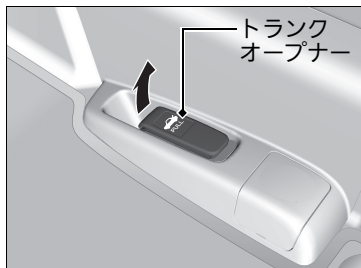
運転席ドアが施錠されているとき：

トランクを閉めると、トランクも施錠されます。

運転席ドアが解錠されているとき：

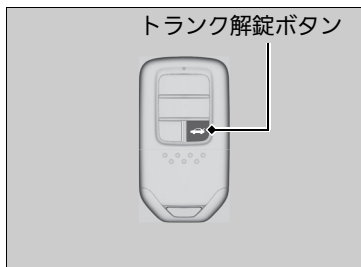
トランクを閉めても、施錠されません。

トランクオープナーで開ける



運転席右下にあるトランクオープナーを引くとトランクが解錠され浮き上がります。

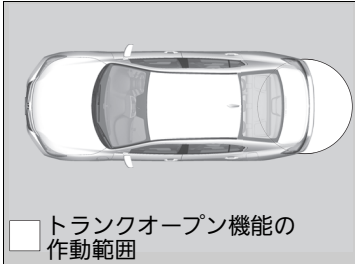
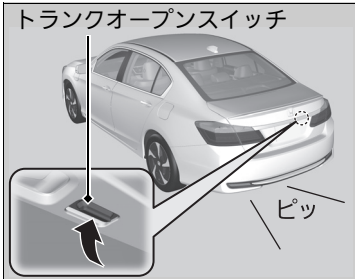
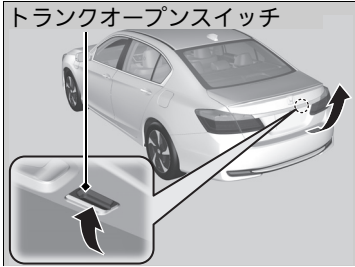
キーレスエントリーで開ける



トランク解錠ボタンを約1秒押すと、トランクが解錠され浮き上がります。

パワーモードが OFF モード以外のときは、キーレスエントリーの解錠ボタンでは開けられません。

トランクオープンスイッチで開ける



運転席ドアを解錠し、トランクオープンスイッチを押すとトランクが浮き上がります。

Honda スマートキーを携帯して、トランクオープンスイッチを押すとトランクが解錠され浮き上がります。このときアンサーバックブザーが「ピッ」と1回鳴ります。トランクオープン機能が作動するのは、トランクオープンスイッチから周囲約80cm以内です。

トランクオープンスイッチで開ける

- 作動範囲内に Honda スマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもトランクオープンスイッチでトランクを開けることができます。
- Honda スマートキーは運転者が携帯し、車内に残したまま降車しないでください。
- トランクオープンスイッチより約80cm以内の距離でも、Honda スマートキーが地面の近くや高い位置にあるときは作動しないことがあります。
- 運転席ドアが解錠されているときは、トランクを開けてもアンサーバックブザーは鳴りません。

カスタマイズ機能について

施錠 / 解錠時に鳴るアンサーバックブザーは、マルチインフォメーションディスプレイを使って音量を変えたりブザーが鳴らないようにすることができます。

■ カスタマイズ機能 P.89

トランク内に Honda スマートキーを置いたままトランクを閉めると、ブザーが鳴りトランクが開きます。

Honda スマートキーを取り出してから、再度トランクを閉めてください。

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムとは、キーに信号を発信する電子部品が組み込まれてあり、あらかじめ登録されたキーでないとモーターの駆動とエンジンの始動ができないようにしたシステムです。

イモビライザーシステムでは、車両とキーの電子照合を行うときに微弱な電波を使用します。パワーモードをアクセサリモードにするときは、下記の点に注意してください。

- **POWER** の近くに強い電波を発するものを近づけない
- キーを金属に触れさせたり、覆ったりしない
- ほかの車両のイモビライザーシステムのキーを近づけない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどをキーと一緒に取り付けない

セキュリティアラームシステム

セキュリティアラームシステムは、Honda スマートキーまたはキーレスエントリー、内蔵キーを使わずにドア、トランク、ボンネットを開けると、警報装置が作動するシステムです。

■作動すると

ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯がすべて点滅します。

■停止させるには

Honda スマートキーまたはキーレスエントリー、内蔵キーで解錠するか、パワーモードをONモードにしてください。システムが停止し、ホーンと点滅も停止します。

❗イモビライザーシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

❗セキュリティアラームシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

警報装置はセキュリティアラームシステムを停止させるまで、最大5分間作動します。

ホーンおよび非常点滅表示灯は、1回の作動につき約30秒間作動し、その警報作動が最大10回行われます。

■セットするには

セキュリティアラームシステムは、以下の条件が整うと自動的にセットされます。

- パワーモードが OFF モードになっている
- ボンネットが閉まっている
- Honda スマートキーまたはキーレスエントリー、内蔵キーですべてのドアとトランクが施錠されている

■セットされると

メーター内にある作動表示灯が点滅し、約 15 秒後に点滅間隔が長くなります。

■セットを解除するには

Honda スマートキーまたはキーレスエントリー、内蔵キーで解錠するか、パワーモードを ON モードにすると解除されます。同時に作動表示灯が消灯します。

※セキュリティアラームシステム

車内に人が乗っているときやウィンドーが開いているときでも、セキュリティアラームシステムは作動します。警報装置の思わぬ作動を防ぐために、人が乗っていたりウィンドーが開いているときには、セキュリティアラームシステムをセットしないでください。

セキュリティアラームシステムをセットした後に 12V バッテリーがあがり、12V バッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。

そのときは、Honda スマートキーまたはキーレスエントリー、内蔵キーでドアを解錠し、セキュリティアラームシステムを解除してください。

ウィンドーの開閉

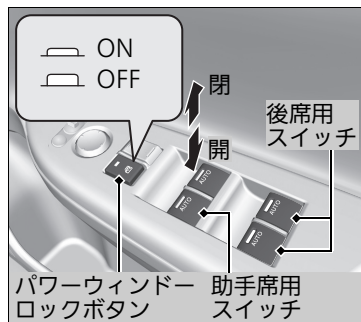
パワーウィンドーの開閉

パワーモードがONモードのときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉はそれぞれのドアにあるスイッチで行います。運転席のスイッチでは、すべてのウィンドーの開閉操作を行うことができます。

運転席以外のウィンドーの開閉は、運転席のパワーウィンドーロックボタンをOFFにしてから行います。パワーウィンドーロックボタンをOFFにすると、ボタンにある表示灯が消灯します。

パワーウィンドーロックボタンをON(表示灯点灯)にしておくと、運転席以外のウィンドーは作動しません。お子さまを乗せているときなどは、パワーウィンドーロックボタンをONにしておいてください。

ウィンドーの開閉



■手動開閉

開けるとき：スイッチを軽く押す

閉めるとき：スイッチを軽く引き上げる

希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

■自動開閉

開けるとき：スイッチを強く押す

閉めるとき：スイッチを強く引き上げる

自動的に全開 / 全閉します。途中で止めるには、スイッチを反対側に軽く上げ / 下げします。

ⓧパワーウィンドーの開閉

⚠警告

パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。

手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

指などはさみ込まないように注意する。 確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

パワーモードをOFFモードにしても、約10分間はキーオフオペレーションによりパワーウィンドーを開閉できます。

この場合、運転席のドアを開閉すると、ウィンドーの開閉はできなくなります。

パワーウィンドーを自動で閉めているときに障害物を検知すると、はさみ込み防止機構によりウィンドーの動きが逆転し止まります。

■ キーレスエントリーでのウィンドーの開閉



キーレスエントリーを使用してパワーウィンドーの開閉が行えます。

開けるとき：キーレスエントリーで解錠後、10 秒以内に再度、解錠ボタンを押し続ける

閉めるとき：キーレスエントリーで施錠後、10 秒以内に再度、施錠ボタンを押し続ける

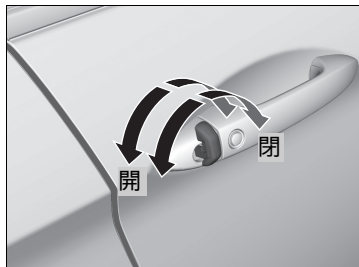
希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。ウィンドーの開閉中に停止したときは、再度同じ操作を繰り返してください。

※ パワーウィンドーの開閉

故障などではさみ込み防止機構が作動し、自動でウィンドーを閉めることができなくなったときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。

路面や走行条件による衝撃などで、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

■ キーシリンダーでのウィンドーの開閉



運転席ドアのキーシリンダーを使用してパワーウィンドーの開閉が行えます。

開けるとき： 運転席ドアのキーシリンダーに内蔵キーを差し込んで解錠後、内蔵キーを戻してから 10 秒以内に再度、解錠側いっばいに内蔵キーを回したままにする

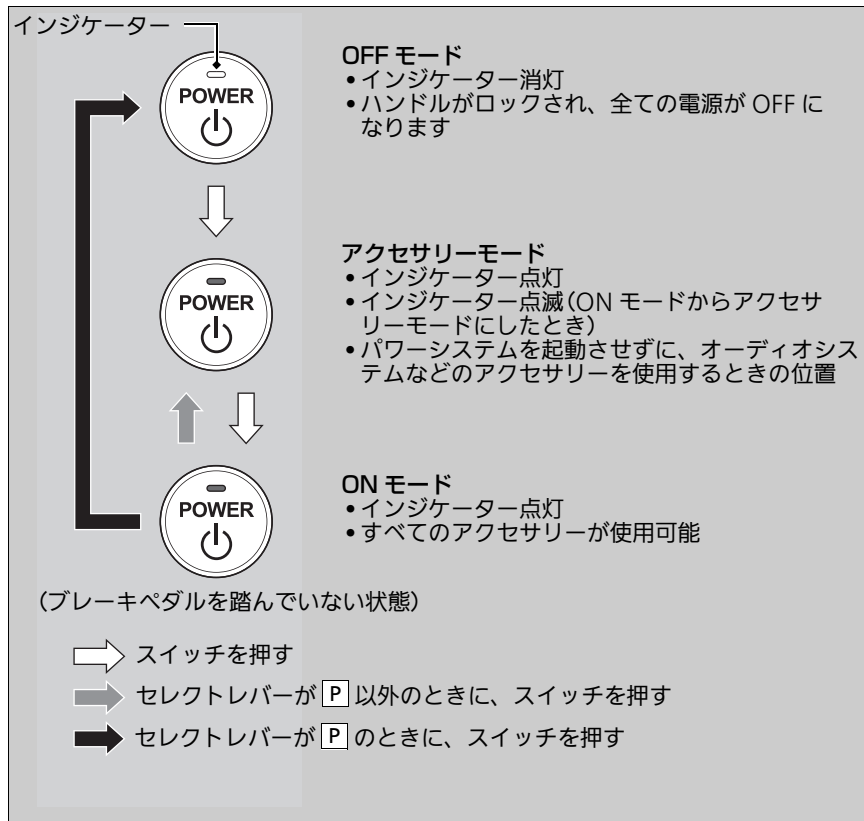
閉めるとき： 運転席ドアのキーシリンダーに内蔵キーを差し込んで施錠後、内蔵キーを戻してから 10 秒以内に再度、施錠側いっばいに内蔵キーを回したままにする

希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

ウィンドーの開閉中に停止したときは、再度同じ操作を繰り返してください。

POWER スイッチ

■ パワーモードの切り換えかた



☒ POWER スイッチ

Honda スマートキーが車内にある場合パワーモードを ON モードにできます。パワーモードの ON 機能が作動する範囲は、インストルメントパネル上、カーゴスペースやグローブボックス、ドアポケットなどの各種小物入れを除く車内です。



Honda スマートキーが車外にあっても、ドアやドアガラスに近づきすぎていると、パワーモードを ON モードにできることがあります。

POWER のパワーモードが OFF モードからアクセサリモードに切り換わらないときは、**ハンドルロックを解除**します。

ハンドルを左右に回しながら、**POWER** を押してください。

ハンドルロックが解除されます。

■ パワーモードオートオフ機能

セレクトレバーが **P** でパワーモードがアクセサリーモードのときに 30分～60分経過すると、バッテリー保護のため自動的にパワーモードが OFF モードになります。

このときはハンドルはロックされません。またキーレスエントリーおよび Honda スマートキーによる施錠 / 解錠ができなくなります。

POWER を押してパワーモードを再度 OFF モードに切り換えてください。

■ パワーモード警告ブザー

次の状態で車を離れようとして運転席ドアを開けた場合、警告ブザーが鳴ります。

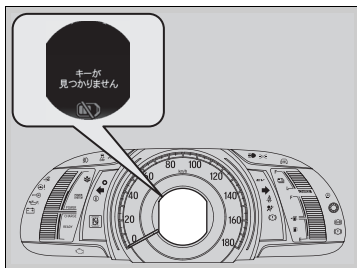
- パワーモードがアクセサリーモードのとき

※ POWER スイッチ

Honda スマートキーの電池が消耗したときは、ブザーとともにマルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されます。

※ **Honda スマートキーの電池が切れたとき**
P.255

■ Honda スマートキー持ち去り警告



警告ブザーには、車内警告ブザー(ピーッピーッピーッピーッ)と車外警告ブザー(ピピピピピピ)の2種類があります。警告状態が続くときは、Honda スマートキーの携帯位置を変更してください。

■パワーモードがONモードのとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、メーター内に警告を表示するとともに、車内警告ブザーと車外警告ブザーが鳴ります。

■パワーモードがアクセサリモードのとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、車外警告ブザーが鳴ります。

☒ Honda スマートキー持ち去り警告

パワーモード ON の作動範囲内に Honda スマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。

Honda スマートキーを、インストルメントパネル、グローブボックスなどに置いた場合、電波状態により警告ブザーが鳴ることがあります。

Honda スマートキーを持ち出した状態で、パワーモードをOFFモードにすると、パワーモードの操作ができなくなります。

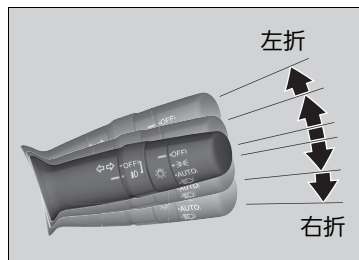
パワーモードを操作するときは、Honda スマートキーを持っていることを確認してください。

窓からの受け渡しでは、Honda スマートキー持ち去り警告は作動しません。

Honda スマートキーがパワーモードONの作動範囲内にあっても、周囲の環境や電波状態によりHonda スマートキー持ち去り警告が行われることがあります。

故障ではありませんので、Honda スマートキーを持っていることを確認してください。

方向指示器(ウィンカースイッチ)



パワーモードが ON モードのときに使用できません。

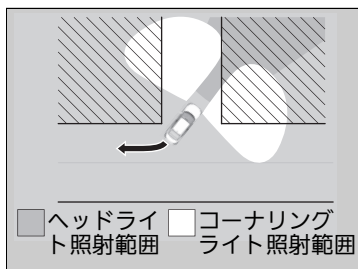
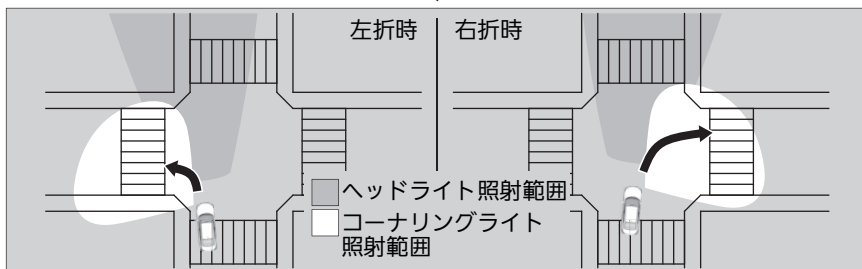
■ワンタッチターンシグナル

レバーを軽く押し下げ / 押し上げて離すと、方向指示器と方向指示器表示灯が3回点滅します。

アクティブコーナリングライト

パワーモードが ON モードで、車速が 35 km/h 以下のときにヘッドライトが点灯していると、方向指示器やハンドル操作、セレクトレバーを[R]にしたとき、アクティブコーナリングライトが点灯し、夜間走行時にコーナーでの視認性を向上させることができます。

■方向指示器、ハンドル操作による点灯



■セレクトレバー操作による点灯

ヘッドライトが点灯しているときにセレクトレバーを[R]にすると、左右のアクティブコーナリングライトが同時に点灯します。

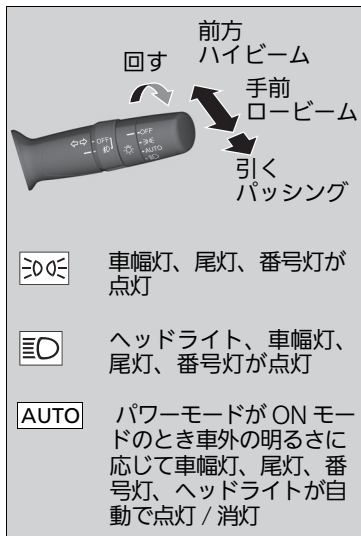
※アクティブコーナリングライト

アクティブコーナリングライトを5分以上連続点灯させると、自動的に消灯します。

消灯後に再度、方向指示器、ハンドル操作を行うか、セレクトレバーを[R]に入れると点灯します。



ライトスイッチ



スイッチを回すとパワーモードの状態に関係なく、点灯/消灯します。

■ハイビーム

「カチッ」と音がするまでレバーを前方に押しします。

■ロービーム

ハイビームのときは、レバーを手前に引きます。

■追越合図(パッシング)

レバーを手前に引き、離します。

☒ ライトスイッチ

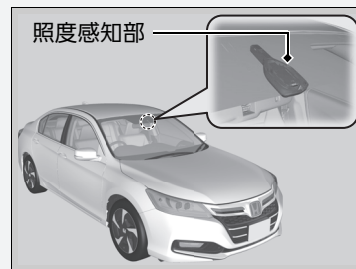
ライトを点灯したまま OFF モードにすると、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

ライト類が点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。

☒ 表示灯 P.69

パワーシステムが停止しているときにライト類を点灯したままにしていると、12V バッテリーあがりの原因となります。

照度感知部は、図の位置にあります。感知部の上にものを置かないでください。



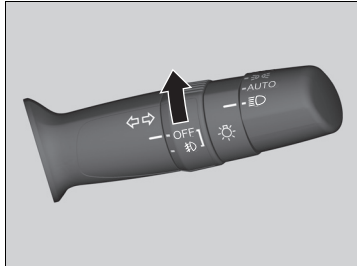
■ヘッドライトオートオフ機能

パワーモードをOFFモードにして、Honda スマートキーまたはキーレスエントリーですべてのドアを施錠すると、ヘッドライト、フォグライト、車幅灯、尾灯、番号灯やインストルメントパネルの照明が消灯します。

ライトスイッチを **AUTO** にしているときはパワーモードをOFFモードにすると消灯します。

▶ 運転席ドアを開けると再び点灯し、ライト消し忘れ警告ブザーが鳴りません。

フォグライトスイッチ



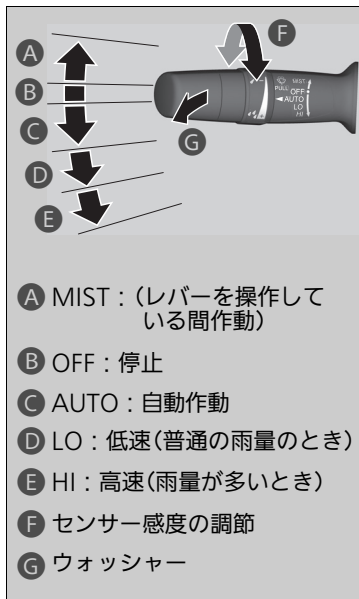
ライトスイッチが **OFF** 以外のとき (**AUTO** のときは、車幅灯が点灯しているとき) に、フォグライトスイッチを回して点灯することができます。

☒ フォグライトスイッチ

フォグライトが点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。

☒ **表示灯** P.69

ワイパー/ウォッシャー



パワーモードが ON モードのときに使用できません。

■MIST

レバーを押し上げている間、高速で作動します。
霧や小雨のときに使用します。

■ワイパースイッチ(OFF、LO、HI)

雨量に応じてワイパースイッチを切り換えて使用します。

■自動作動(AUTO)

☑ オートワイパー P.127

■ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。
レバーを引いている間はワイパーが作動し、レバーを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

☒ワイパー/ウォッシャー

⚠注意

寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。

ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

ワイパーを乾拭きさせないでください。

ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。

ポンプ故障の原因となります。

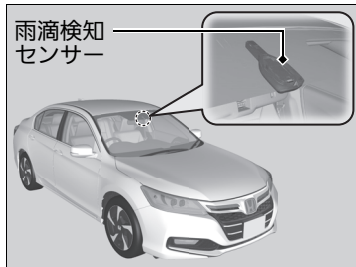
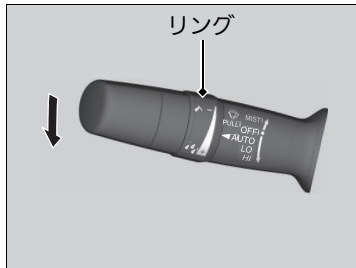
間欠作動中は、車速が速くなると間隔が停止時より数秒短くなります。また、発進時にワイパーが1回作動します。

間欠時間を短いほうにいっぱい回している状態で車速が速くなると、ワイパーが間欠から低速作動に切り換わります。

寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくことがあります。

ワイパー故障の原因となりますので、デフロスターでフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

オートワイパー



レバーを **AUTO** の位置にするとワイパーが 1 回作動し、その後は自動作動に切り換わります。フロントガラス上部にある雨滴検知センサーが検出した雨滴量に応じて、停止、間欠作動、低速作動、高速作動のいずれかの作動をします。

ワイパー作動中に雪などがたまると雨滴検知をしていなくてもワイパーが作動し続けることがあります。

レバーをOFFの位置にすると、ワイパーを停止することができます。

■ センサー感度の調節

リングを回して、雨滴検知センサーの感度を調節します。



鈍感：雨滴に対して、より鈍感に反応してワイパーを作動します。

敏感：雨滴に対して、より敏感に反応してワイパーを作動します。

⊗ ワイパー / ウォッシャー



フロントガラスのお手入れをするときは、レバーを必ず OFF にしてください。
 パワーモードが ON モードでレバーが **AUTO** のとき、雨滴センサー上部のガラス面に手で触れたり、布で拭き取ったりすると、ワイパーが作動することがあり、手をけがしたりワイパーが損傷するおそれがあります。

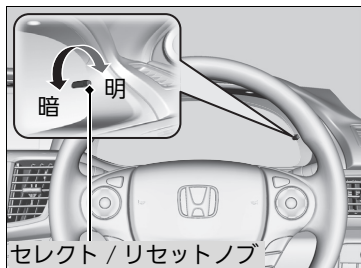
ワイパー作動中に雪などがたまり続け、ワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してください。

パワーモードをアクセサリモードまたは OFF モードにしてから、ワイパーが作動できるように障害物を取り除いてください。

ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。

ワイパーモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、ブレーカーが作動し一時的にワイパーが停止することがあります。数分経過すると、ブレーカーが復帰し、通常通り使用できるようになります。

イルミネーションコントロール



パワーモードが ON モードのとき、車外が暗くなるとセレクト / リセットノブでインストールメントパネルの明るさを調節することができます。

明るくする：ノブを右に回す

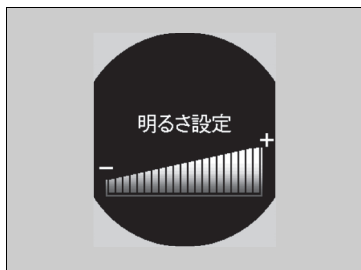
暗くする：ノブを左に回す

明るさが最大 / 最小になると電子音が鳴ります。また、明るさの調節後、数秒経過するとマルチインフォメーションディスプレイが元の表示に戻ります。

■明るさ調節表示

セレクト / リセットノブを回すとマルチインフォメーションディスプレイが明るさ調節表示に切り換わります。

■ ■ ■ が右に増えていくほど、メーター照明が明るく表示されます。



※イルミネーションコントロール

車外が暗いときと明るいときでは、メーター照明の明るさは異なります。

ライトスイッチを [OFF] または [AUTO] ([AUTO] のときは、車幅灯やヘッドライトが点灯しているとき) にすると、まぶしさを軽減するためにメーター照明が暗くなります。

- 明るさ調節中にセレクト / リセットノブまたはインフォメーション (i) スイッチ ([▲] / [▼]) を押すと、マルチインフォメーションディスプレイは元の表示になります。
- 車幅灯点灯時に ■ ■ ■ が全て表示されるまでノブを右に回すと、「ピッ」という音がして車幅灯消灯時の設定になります。

リヤデフロスター/ヒータードアミラースイッチ



パワーモードがONモードのときに、リヤガラスとドアミラーを暖め、曇りをとりたいときに使用します。

スイッチを押すと表示灯が点灯し、リヤデフロスターとヒータードアミラーがONになります。

外気温に応じて約 10 ～ 30 分経過すると、リヤデフロスターとヒータードアミラーは自動的に停止します。ただし、外気温が 0 °C 以下のときは自動的に停止しません。

☒ リヤデフロスター/ヒータードアミラースイッチ

リヤガラスの内側を清掃するときは、電熱線を傷付けないよう注意してください。

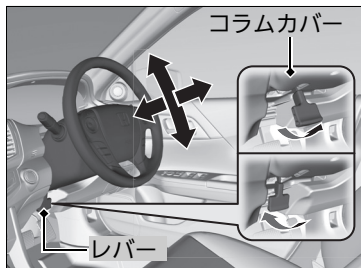
必ず、デフロスターの電熱線とアンテナ線に沿って左右方向に拭いてください。

この装置は消費電力が大きいため、曇りが取れたら OFF にしてください。

また、パワーシステムが停止しているときに長時間使わないでください。12V バッテリー容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

ハンドルの調節

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドルの位置を調節することができます。



1. ハンドル位置調節レバーを引き上げる。
▶ ハンドル位置調節レバーは、コラムカバーの下にあります。
2. ハンドルの位置を調節する。
▶ 調節した位置で、メーターや表示灯が見えることを確認してください。
3. ハンドル位置調節レバーを押し下げ、ハンドルを固定する。

※ハンドルの調節

⚠ 注意

走行中にハンドル位置を調節しない。

走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあります。衝突して重大な傷害を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

位置調節後、ハンドルに上下前後方向の力を加え、ハンドルがしっかり固定されていることを確認してください。

ルームミラー

ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置でミラーを調節してください。

自動式防眩ミラー



夜間走行時、後続車のヘッドライトの反射を自動的に弱くできます。

パワーモードがONモードで、オートミラースイッチがONのときに作動します。スイッチを押すごとに ON、OFF が切り換わります。

ON にすると表示灯が点灯します。

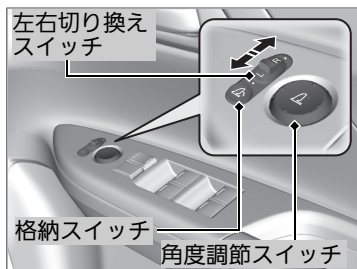
※ミラー類の調節

ミラー類の調節は走行前に行ってください。

※自動式防眩ミラー

セレクトレバーを **R** に入れているときは、自動式防眩ミラーは解除されます。

ドアミラー



パワーモードがONモードのときに、ドアミラーの操作を行えます。

■角度調節

左右切り換えスイッチ：右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。

角度調節スイッチ：上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

■格納

格納スイッチを押すごとに ON と OFF が切り換わります。

	格納スイッチの状態	ミラーの状態
ON		
OFF		

■ リバース連動ドアミラー

後退時、車両の左側面の視界をよりよく確保するため、セレクトレバーの **R** と連動して助手席側ドアミラーが自動的に下向きになります。



パワーモードがONモードで、ドアミラーの左右切り換えスイッチが左側にあることを確認します。

セレクトレバーを **R** の位置にすると、助手席側ドアミラーが下向きになります。

セレクトレバーを **R** 以外の位置にすると元の位置に戻ります。

☒ リバース連動ドアミラー

次の場合にも、ミラーが元の位置に戻ります。

- 左右切り換えスイッチを左側以外の位置にしたとき
- パワーモードをONモード以外にしたとき

リバース連動ドアミラーは、ドアミラーの左右切り換えスイッチが左側以外の位置にあるときは作動しません。作動させるには左右切り換えスイッチを左側にしてください。

シートの調節

フロントシート

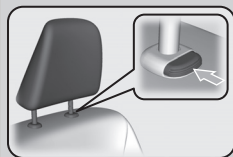
運転者は、正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。

正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。

■フロントパワーシート/ヘッドレストの動かし方

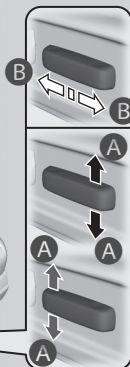
■ヘッドレストの調節

- 高くするときは、引き上げる
- 低くするときは、ノブを押しながら下げる



B ■前後位置の調節

スイッチを前後に動かして、前後位置を調節



■背もたれの角度調節

スイッチを前後に動かして調節



A ■高さの調節(運転席)

スイッチを上下に動かして、高さを調節

※フロントパワーシート/ヘッドレストの動かし方

⚠ 注意

走行中にシートの調節はしない。

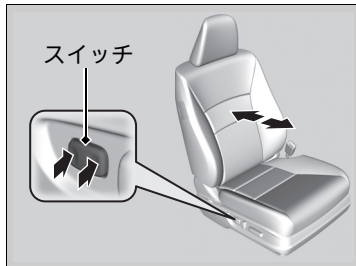
走行中に調節すると思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行ってください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

フロントシートは、エアバッグからなるべく離れた位置に調節してください。

同乗者もシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。

運転席ランバーサポートの調節



シート腰部の固さを調節できます。

硬くする：スイッチを前側に押す。

やわらかくする：スイッチを後側に押す。

フロントシートの調節



■シート位置の調節

運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。

助手席の同乗者のシートも同様に、ダッシュボードのSRSエアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げます。

▶▶ フロントシートの調節



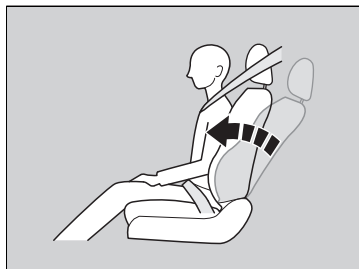
警告

SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。

ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

背もたれを必要以上に倒さない。

背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。



■背もたれ角度の調節

シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるように背もたれを起こし調節します。

助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるように背もたれ角度を調節します。

※フロントシートの調節



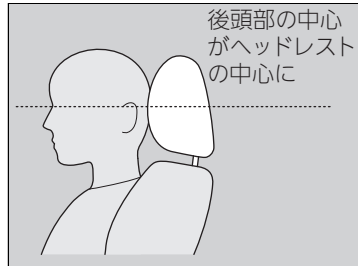
警告

背もたれと背中の中にクッションなどを入れない。

正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

ヘッドレスト

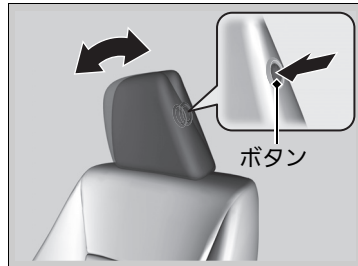
■ フロントシート、リヤシート（外側）ヘッドレストの調節



後頭部の中心が、ヘッドレストの中心に来るようにヘッドレストの高さを調節します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げます。
低くするとき：ノブを押しながら下げます。

■ ヘッドレストの傾き調節



フロントシートのヘッドレストは、姿勢に合わせて傾きを調節してください。

前方へ調節するとき：ヘッドレストを後から前へ押します。
後方へ調節するとき：解除ボタンを押しながらヘッドレストを前から後ろへ押します。

⊗ ヘッドレスト

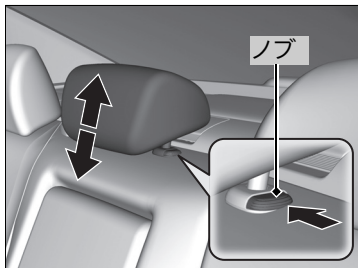


警告

ヘッドレストは必ず正しい位置に調節する。
ヘッドレストの高さが適切でないと、ヘッドレストの効果が低くなり、衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

ヘッドレストを外した状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ リヤシート(中央)ヘッドレストの位置変更



乗車するときは、走行する前にヘッドレストを引き上げて、確実に固定します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げます。

低くするとき：ノブを押しながら下げます。

※ リヤシート(中央)ヘッドレストの位置変更



警告

ヘッドレストを下げた状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ ヘッドレストの取り外しと取り付け

ヘッドレストは、掃除や修理のために取り外すことができます。

ヘッドレストの取り外し：

ヘッドレストを引き上げ、ノブを押して取り外します。

ヘッドレストの取り付け：

ヘッドレストの脚を元の位置に差し込んでください。ノブを押しながらヘッドレストの位置を適切な位置に合わせてください。ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定します。

アームレスト

■ リヤシートアームレストの操作



前に倒して使用します。

※アームレスト

⚠ 注意

シートベルト着用時にアームレストに引っかかない。

万一のときにシートベルトの機能が発揮できないことがあります。

アドバイス

アームレストに腰をかけたり荷物を載せるなどの大きな力を加えないでください。

アームレストが破損するおそれがあります。

室内灯

■室内灯スイッチ



■ON

ドアの開閉に関係なく室内灯が点灯。

■ドア連動

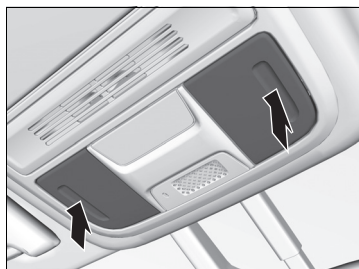
以下のときに室内灯が点灯。

- いずれかのドアを開けたとき
- 運転席ドアを解錠したとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき

■OFF

ドアの開閉に関係なく室内灯が消灯。

■マップランプ



レンズを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

▣室内灯

ドア連動で室内灯が点灯している場合は、ドアを閉めると約30秒後に減光しながら消灯します。

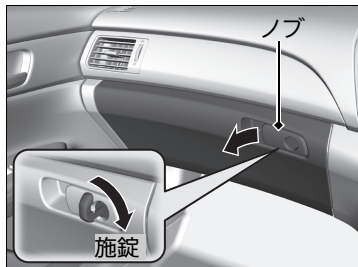
また、以下の操作を行うと室内灯はすぐに消灯します。

- 運転席ドアを施錠したとき
- パワーモードがOFFモード以外で運転席ドアを閉めたとき
- パワーモードをONモードにしたとき

パワーモードがOFFモードのときにいずれかのドアを開けたままにすると、約15分後に消灯します。

室内装備品

■ グローブボックス



ノブを引くと開きます。
内蔵キーを差し込んで施錠することができます。

☒ グローブボックス



警告

走行中は必ずグローブボックスを閉める。
グローブボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

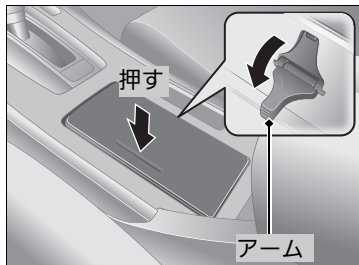
グローブボックスを開くと照明灯が点灯します。

■ コンソールボックス



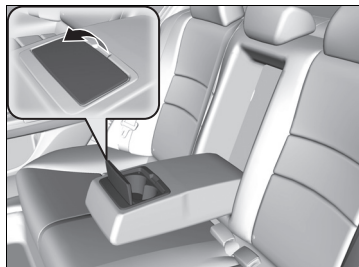
ノブを引くと開きます。

■ドリンクホルダー



■フロントシート用ドリンクホルダー

矢印部を押すとフタが開きます。
アームを倒して使います。



■リヤシート用ドリンクホルダー

アームレストを前に倒して使います。
フタを開きます。

☒ドリンクホルダー

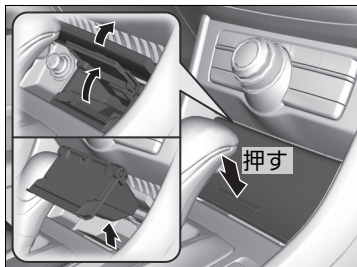


注意

飲みものなどを電装品にこぼさないように注意する。

スイッチなどの電装品に飲みものがかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。

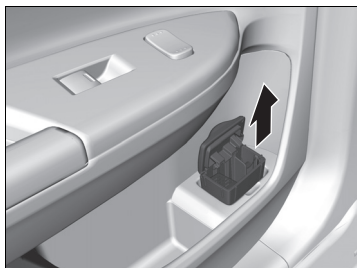
灰皿



■フロントシート用

矢印部を押すとフタが開きます。

- ▶ 清掃するときはフタを開け、灰皿本体を引き抜きます。



■リヤシート用

フタを開きます。

- ▶ 清掃するときは灰皿本体を引き抜きます。

※灰皿

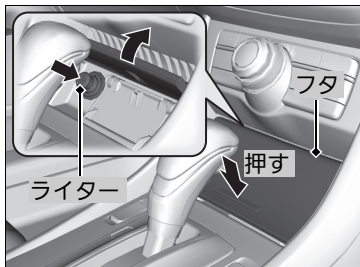
⚠ 注意

タバコ、マッチなどは確実に火を消して、灰皿は必ず閉める。

吸がらをためすぎたり、紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

タバコの火が燃え広がるおそれがあります。

シガレットライター

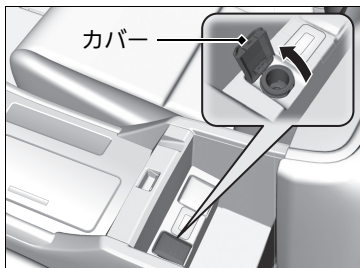


パワーモードがアクセサリモードまたは ON モードのときに使えます。

矢印部を押してフタを開きます。ライターを押し込んで手を離し、元の位置に戻るまで待ちます。

▶ ヒーター部が赤熱すると自動的に戻ります。

アクセサリソケット



コンソールボックスの中にあります。パワーモードがアクセサリモードまたは ON モードのときに使用できます。

カバーを開けて使います。

シガレットライター



シガレットライターの金属部分に触れない。

やけどをするおそれがあります。

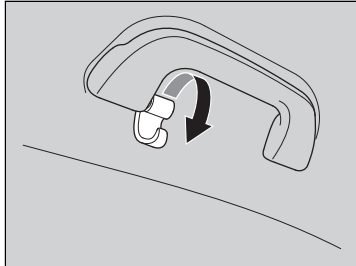
アクセサリソケット

消費電力 180W(15A)以下のアクセサリに、直流 12V の電源を供給します。

シガレットライターは差し込まないでください。発熱するおそれがあります。

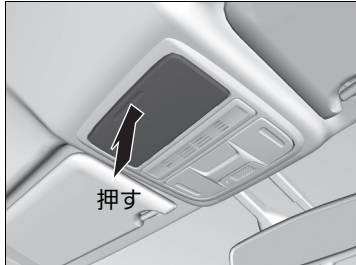
12V バッテリーあがりを防ぐため、パワーシステムが起動している状態でご使用ください。

コートフック



リヤシート右側のグラブレールに付いています。
回転させて使います。

サングラスボックス



矢印部を押すと開きます。
もう一度押すと格納されます。

サングラスなどを入れることができます。

コートフック

⚠ 注意

グラブレールにもものをかけたり、コートフックに重いものやとがったものをかけたりしない。

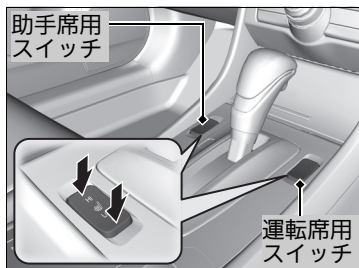
サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりしてけがをするおそれがあります。

サングラスボックス

炎天下での駐車は高温になりますので、メガネなどを入れたままにしないでください。
レンズやフレームが、変形やひび割れをおこすことがあります。

開閉は停車中に行い、走行中は必ず閉めておいてください。

■ フロントシートヒーター



パワーモードがONモードのときに使用できます。運転席、助手席のシートを暖めることができます。

スイッチの **HI** 側か **LO** 側を押します。作動中、押している側の表示灯が点灯します。

スイッチを切るときは、反対側を軽く押し、表示灯を消します。

※ フロントシートヒーター



注意

低温やけどに注意する。

次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。

- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いかた
- 疲労の激しいかた

また、毛布などの保温性の高いものをかけて使用すると低温やけどをすることがあります。

この装置は消費電力が大きいので、パワーシステムが停止しているときは長時間使わないでください。

12Vバッテリーの容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

リヤシートヒーター



パワーモードがONモードのときに使用できます。リヤシート外側2座席を暖めることができます。

スイッチの**HI**側か**LO**側を押します。作動中、押している側の表示灯が点灯します。

スイッチを切るときは、反対側を軽く押し、表示灯を消します。

リヤシートヒーター

⚠ 注意

低温やけどに注意する。

次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。

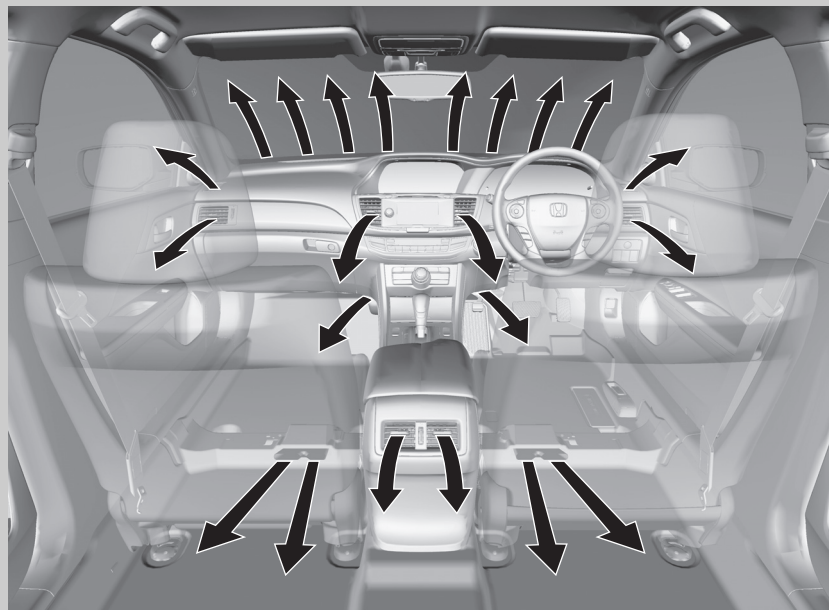
- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いかた
- 疲労の激しいかた

また、毛布などの保温性の高いものをかけて使用すると低温やけどをすることがあります。

この装置は消費電力が大きいため、パワーシステムが停止しているときは長時間使わないでください。

12Vバッテリーの容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

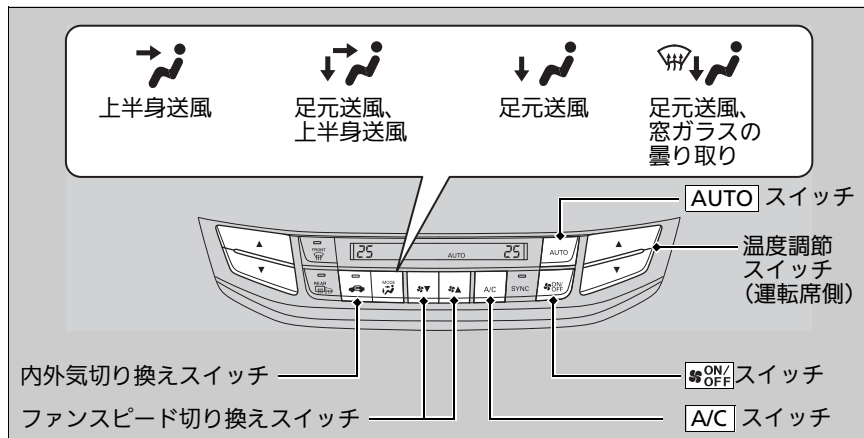
エアコンの吹き出し口



■エアコン

音声操作の詳細は、別冊の「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

オートエアコンの使いかた



パワーシステムを起動した状態で使用します。

1. **AUTO** を押す。
2. 運転席側の温度調節スイッチで室内の温度を設定する。
3. 停止するときは、**ON/OFF** を押す。

■内気 / 外気の切り換え

状況に合わせて **内外気** を押して、内気 / 外気を切り換えます。

- 内気(表示灯点灯)：トンネルや渋滞などで、汚れた空気を車内に入れたくない場合
- 外気(表示灯消灯)：換気を行う場合

■除湿暖房

暖房中に **A/C** を押すと、除湿暖房となります。

※オートエアコンの使いかた

オート (AUTO) で使用中いずれかのスイッチを押すと、押したスイッチの機能が優先されます。

このとき「AUTO」の表示灯は消灯しますが、押したスイッチ以外の機能は自動制御されます。

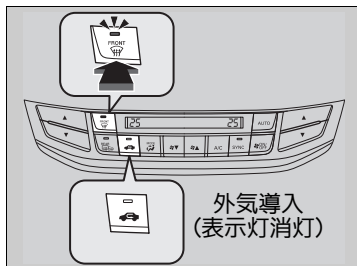
外気温が低いときは、冷風の吹き出しを防ぐため、**AUTO** を押してもすぐにファンが回転しないことがあります。

炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

設定温度表示で「Lo」は最大冷房を、「Hi」は最大暖房を示します。

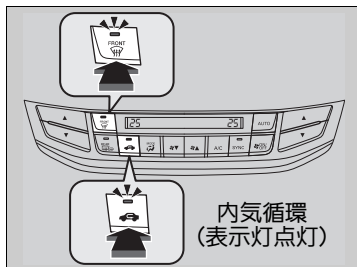
ON/OFF を押すたびに ON や OFF に切り換わりません。ON すると OFF する前の状態に戻りません。

■ 前面・側面ガラスの曇り止め (デフロスター) の使いかた



FRONT DEF を押すとエアコンが作動し、自動的に外気導入に切り換わります。

FRONT DEF をもう一度押すと曇り止めが停止し、前の状態に戻ります。



■ 急速に霜を取りたいとき

1. **FRONT DEF** を押す。
2.  を押す。

▶▶ 前面・側面ガラスの曇り止め (デフロスター) の使いかた

設定温度を最大冷房付近にしないでください。

冷風が前面ガラスに当たると、ガラスの外側が曇ることがあります。

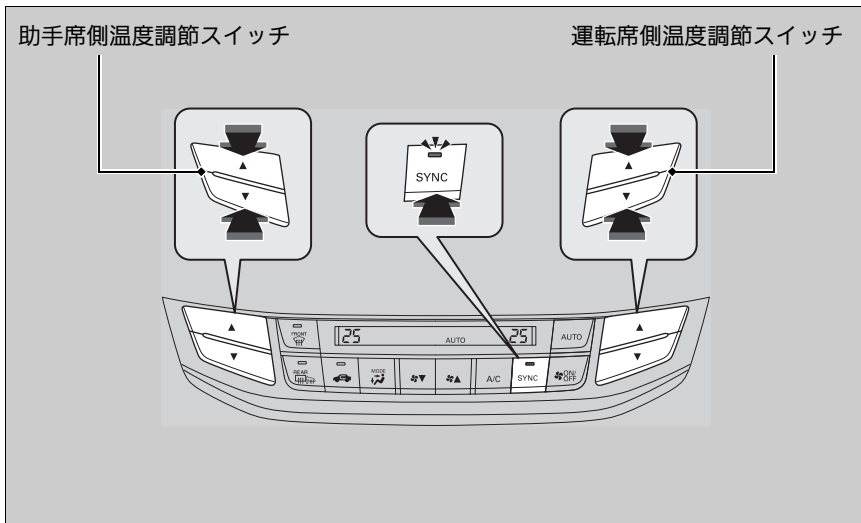
側面ガラスが曇ったときは、吹き出し風が側面ガラスに当たるよう、側面吹き出し口を調節してください。

▶▶ 急速に霜を取りたいとき

霜が取れたら、ただちに外気導入に切り換えてください。

内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。

連動作動(シンクロ)モード



エアコンの設定操作を独立モードから連動作動モードに切りかえます。運転席側と助手席側の設定温度を連動させて設定することができます。

1. **SYNC** を押す。
▶ 連動作動モードに切り換わります。
2. 運転席側の温度調節スイッチで室内の温度を設定する。

独立モードに戻すときは、**SYNC** または助手席側の温度調節スイッチを押します。

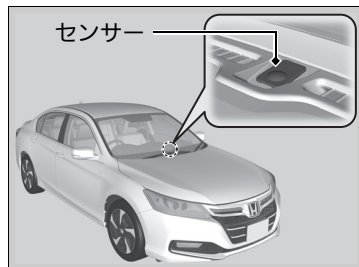
連動作動(シンクロ)モード

FRONT を押すと、連動作動モードに切り換わりません。

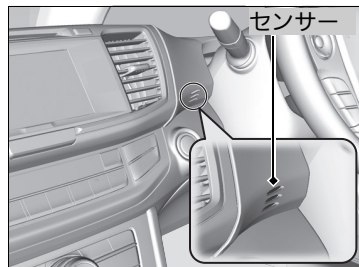
独立モードの場合は、エアコンの設定温度を運転席側と助手席側で個別に設定できます。

連動作動モードにすると、運転席側の設定温度に切り換わります。

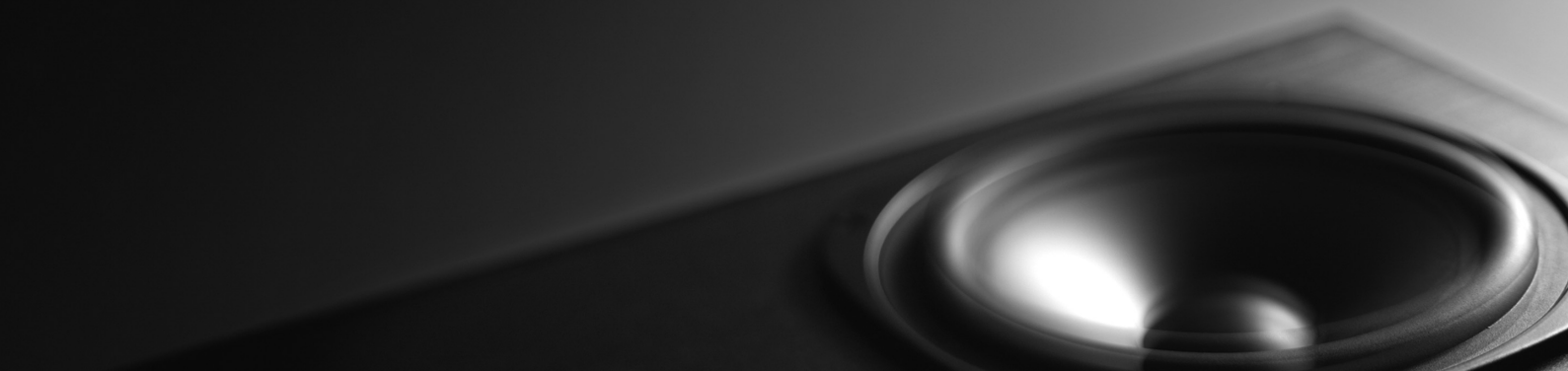
オートエアコンのセンサー



オートエアコンには、センサーが付いています。センサーの上にものを置いたり、水をかけたりしないでください。



オーディオ



オーディオ装置 154

オーディオ・テレビ・DVD の取り扱いについては、別冊の「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

運転

この章では、運転操作、給油、アクセサリなどについて記載しています。

運転の前に	156
運転操作	
パワーシステムの起動.....	158
走行時の注意点	160
オートマチックについて	162
シフト操作.....	163
ECON スイッチ.....	165
車両接近通報装置.....	166
クルーズコントロール*.....	167
VSA(ピークルスタビリティ アシスト).....	170

ブレーキ操作	
ブレーキシステム.....	172
ABS(アンチロックブレーキ システム).....	174
電子制御ブレーキアシスト	175
エマージェンシーストップシグナル... ..	176
CMBS(衝突軽減ブレーキ)*	177
駐停車操作	182
給油	
指定燃料について	184
給油のしかた	185

充電	
充電の準備.....	188
普通充電	189
コントロールボックス.....	193
高電圧バッテリーの特性	197
タイマー充電	198
アクセサリと改造	200

運転の準備

運転を始める前に下記の項目を確認してください。

車外での確認項目

- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか？
 - ▶ 霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
 - ▶ 屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除きます。
氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
 - ▶ 足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除きます。
- ボンネットは完全に閉まっているか？
 - ▶ 走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- タイヤは正常か？
 - ▶ 空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないか確認します。
❏ **タイヤの点検と整備** P.225
- 車の周囲に子供はいないか？
車の周りに障害物はないか？
 - ▶ 運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認します。

車内での確認項目

- フロアマットがペダルに引っかかっているか？
- フロアマットが固定されているか？
- フロアマットを重ねていないか？
 - ▶ ブレーキやアクセルの操作が確実にできないおそれがあり危険です。

❏ 車外での確認項目

アドバイス

ドアが凍結しているときは、無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。

無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。お湯をかけた後は、凍結防止のため、水分をよく拭き取ってください。

ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。

凍結すると、キーが差し込めなくなります。

エンジンルーム内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか確認してください。

車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

❏ 車内での確認項目

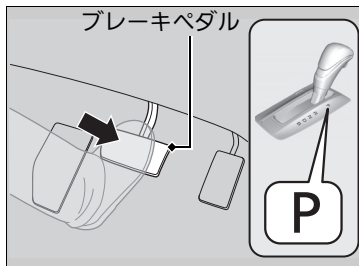
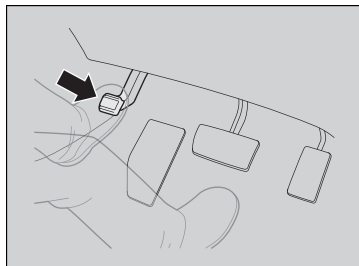
運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。

運転者が運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車に合ったフロアマットをお使いください。

- フロントシートの足元にものを置いていないか？
- 荷物はシートの高さを越えていないか？
 - ▶ 後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか？
 - ▶ 不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか？
 - ▶ 運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シート位置などが適切に調節されているか？
 - ▶ 不適切なシート位置での走行は危険です。
 - シートの調節 P.134
- ルームミラー、ドアミラー、ハンドルは適切に調節したか？
 - ▶ 正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
 - ミラー類の調節 P.131
 - ハンドルの調節 P.130
- すべての乗員がシートベルトを締めているか？
 - ▶ すべての乗員は必ずシートベルトを着用します。
 - シートベルトの着用 P.37
- ドア、トランクが確実に閉まっているか？
 - ▶ 走行前にすべてのドア、トランクが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認します。
 - 車内での施錠 / 解錠 P.107
- パワーシステムを起動したとき、メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか？
 - ▶ 異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
 - 警告灯 P.63

パワーシステムの起動



1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する。

2. セレクトレバーが **P** であることを確認し、右足でブレーキペダルを踏む。

▶ **N** でも起動できますが、安全のため駆動輪が固定される **P** で行ってください。

☒ パワーシステムの起動

⚠ 警告

12V バッテリー液が不足しているときは、パワーシステムを起動しない。

12V バッテリーが破裂するおそれがあります。

⚠ 注意

パワーシステムを起動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

寒いときのパワーシステムの起動は、すべての電気アクセサリをOFFにしてから行います。

寒いときのパワーシステムの起動は、バッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコン、リヤデフロスターなどの電気アクセサリをすべてOFFにしてから行ってください。

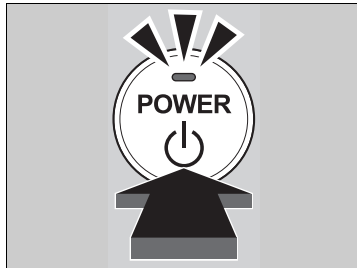
車を盗難から守るため、イモビライザーシステムのキーを採用しています。そのため、あらかじめ登録されたキーでないとパワーシステムの起動とエンジンの始動ができません。

☒ **イモビライザーシステム** P.114

Honda スマートキーの電池が切れたときは、キーで **POWER** に触れてください。

☒ **Honda スマートキーの電池が切れたとき**

P.255



3. アクセルペダルを踏まずに、**POWER** を押す。

- ▶ パワーシステムが起動すると、ブザー音がなり、マルチインフォメーションディスプレイに「READY TO DRIVE」が表示され、運転することができます。
- ▶ パワーシステム起動後は、**POWER** のインジケーターは消灯します。

パワーシステムの停止

車が完全に停止しているとき、パワーシステムを停止することができます。

1. セレクトレバーを **P** にする。
2. **POWER** を押す。

発進時の操作

1. 右足でブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを **D** にする。
 - ▶ 後退する場合は **R** にします。
2. パーキングブレーキを解除する。
 - ▶ ブレーキ警告灯が消灯したことを確認してください。
 - **パーキングブレーキ** P.172
3. ブレーキペダルを徐々に離し、アクセルペダルをゆっくりと踏んで発進する。

■ヒルスタートアシストシステム

急な坂道からの発進をするときに、ブレーキペダルから足を離した後、ブレーキ力を約1秒間保持することで車両の後退を緩和し、発進を容易にするシステムです。

▶▶ パワーシステムの起動

パワーモードをONモードにしたとき、ブレーキペダルが押し込まれる感じを受けることがありますが、ブレーキ装置の作動によるものであり、異常ではありません。

排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのおいが消えないときは、排気系や燃料系の異常が考えられます。

Honda 販売店で点検を受けてください。

▶▶ 発進時の操作

⚠ 注意

アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しない。
急発進して思わぬ事故の原因となります。

坂道での発進時は、必ずパーキングブレーキを併用してください。

車が後退しないよう、パーキングブレーキをかけたまま、先にブレーキペダルを離してアクセルペダルに踏みかえてから、パーキングブレーキを解除してください。

▶▶ ヒルスタートアシストシステム

緩やかな坂道ではシステムが作動しないことがあります。

走行時の注意点

■霧が出たときは

霧が出たときは視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレール、前走車のテールランプなどを目安にして、速度を落として走行してください。

■風が強いときは

風が強く車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、速度を徐々に落として進路を立て直します。

トンネルの出口、橋、土手の上、山を削った切り通しの走行時や大型トラックの追い越し時などには、特に横風の影響を受けやすいため、十分に注意してください。

※走行時の注意点

走行中はパワーシステムを停止しないでください。

下記のような状態になり危険です。

- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

走行中はセレクトレバーを **N にしないでください。**

回生ブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

車を移動するときは、必ずパワーシステムを起動してください。

下り坂を利用しての移動などは、思わぬ事故の原因となります。

1,000km走行するまでは、エンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

雨が降っているときは

雨天時は路面が滑りやすくなっているため、急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く運転してください。

わだちなどの水のたまりやすい場所ではハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。エンジンの破損や電装品の故障につながるおそれがあります。

その他の注意点

走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードや燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。

☒雨が降っているときは

ハイドロプレーニング現象に注意してください。
ハイドロプレーニング現象とは、路面が水でおおわれているところを高速で走行したときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いてハンドルやブレーキが効かなくなる状態のことをいいます。

☒その他の注意点

アドバイス

停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけ保持するなどして EPS(電動パワーステアリング)システムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。

システムの温度が下がると復帰しますが、システム保護がはたらくような使いかたを断続的に繰り返すと、システム破損の原因となります。

オートマチックについて

■クリーブ現象

パワーシステムが起動しているとき、セレクトレバーが **P** **N** 以外に入っているとオートマチック装備のガソリン車と同様に、クリーブ現象によりアクセルペダルを踏まなくても、車がゆっくり動き出します。

■キックダウン

セレクトレバーが **D** **B** で走行中にアクセルペダルをいっぱい踏み込むと、オートマチック車のキックダウンのように、力強い加速を得ることができます。

※クリーブ現象

上り坂での停車時、クリーブ現象による前進の力よりも、後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退する場合があります。

ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

※キックダウン

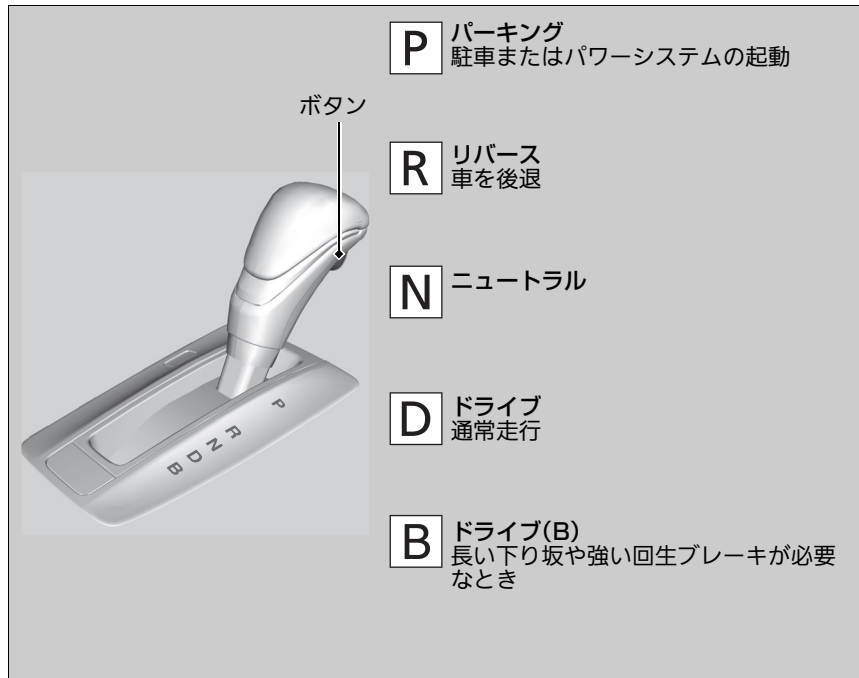
上り坂などでアクセルペダルを踏み込んだとき、エンジン回転数が上がり、モーターの出力が大きくなることで速度が出すぎてしまうことがあります。

アクセルペダルは慎重に操作してください。滑りやすい路面やカーブでは、特に注意が必要です。

シフト操作

走行状態に応じてセレクトレバーで切り換えます。

■セレクトポジションの名称とはたらき



※シフト操作

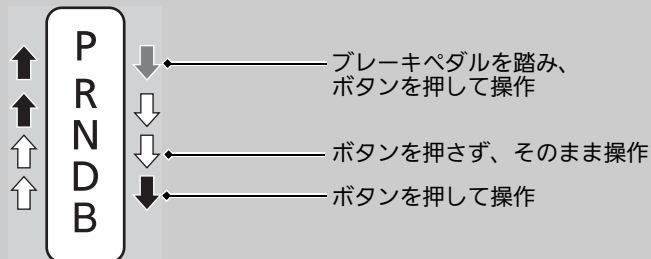
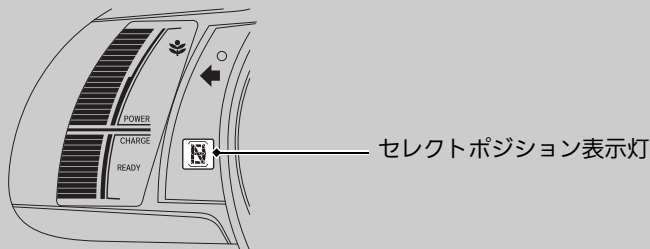
バッテリーの充電量が満充電に近い状態のとき、またはバッテリーの温度が低いときは、回生ブレーキの効きが弱くなることがあります。

セレクトレバーが **P** 以外の場合は、パワーモードが OFF モードになりません。

R のポジションのときは、チャイム音が鳴り運転者にセレクトレバーが **R** に入っていることを知らせます。

■ セレクトレバーの操作

セレクトポジションは、メーター部にあるセレクトポジション表示灯と連動し、現在のポジションを表示灯の点灯で表示します。



※セレクトレバーの操作

アドバイス

前進から後退、後退から前進するときは車を完全に止め、ブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーを操作してください。

車が完全に止まっていない状態でレバーを操作すると、トランスミッションを破損するおそれがあります。

車を発進させるときは、思い違いによる事故を防ぐためにセレクトポジション表示灯でもセレクトレバーの位置を確認してください。

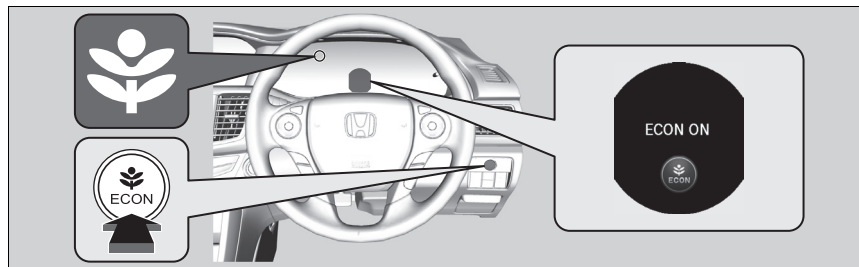
走行中にセレクトレバーをどのポジションにしても表示灯が点滅しているときは、トランスミッションに異常があります。

急加速を避け、Honda 販売店で点検を受けてください。

セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、セレクトレバーの操作ができないことがあります。

先にブレーキペダルを踏んでください。

ECON スイッチ



モーター、エンジン、トランスミッション、オートエアコン、クルーズコントロールの作動を制御して、省エネ運転をしやすいように制御します。

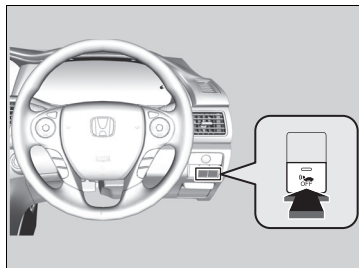
※ECON スイッチ


ECON モードのときは、走行中にエアコンの効きが弱くなる場合があります。


車両接近通報装置

約 20km/h 以下で走行しているときに、歩行者に車両の接近を知らせるため、走行音を発生させるシステムです。

車両接近通報装置の ON と OFF



車両接近通報を停止 (OFF) 状態にするには、 を押してください。
車両接近通報が停止状態になります。

再度使用 (ON) するには、 を押します。

車両接近通報装置

前回の走行時に OFF にした場合でも、再度パワーシステムを起動させると自動的に ON になります。

クルーズコントロール*

高速道路のような加速 / 減速操作の少ない自動車道などで、定速運転をするときアクセルペダルを踏まなくても車速を一定に保つための装置です。

※クルーズコントロール*

こんなときに

■使用できるシフトポジション

D のとき

■使用できる車速

約 30km/h ~ 100km/h の希望値

十分な車間距離がある

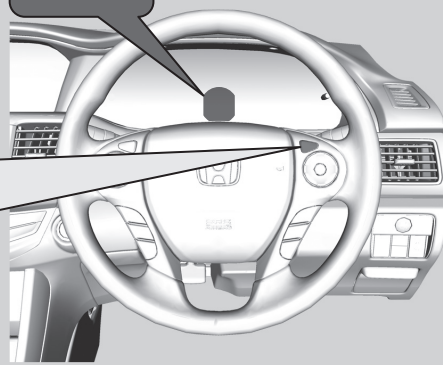


操作

■ハンドルの **CRUISE** を押す



メーターの **CRUISE MAIN** が点灯
クルーズコントロールが ON になります。



警告

下記のような道路で、クルーズコントロールを使用しない。

道路状況によっては、思わぬ事故につながります。

● **混んでいて、車間距離が十分にとれない道路**

道路状況に合った速度で走行できません。

● **急な下り坂のある道路**

回生ブレーキが十分効かず、セットした速度を超えてしまうことがあります。

● **凍結や積雪などで滑りやすい道路**

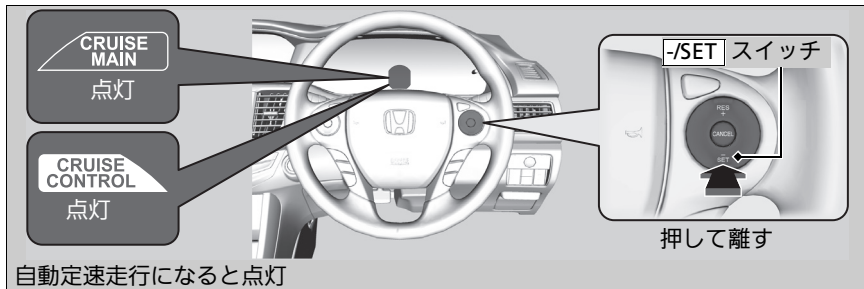
タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。

パワーモードをアクセサリモードまたは OFF モードにするとクルーズコントロールは自動的に OFF になります。

上り坂や下り坂では、条件により一定速度を保てない場合があります。

ECON モードのときは、よりスムーズな加速となります。

車速をセットするには



希望の車速になったらペダルから足を離し、**[-/SET]** を押します。

[-/SET] を離すと、離れたときの車速にセットされ自動定速走行になります。同時に、**CRUISE CONTROL** 表示灯が点灯します。

⚠車速をセットするには

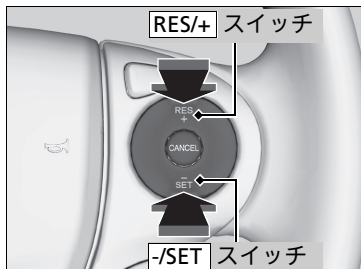
自動定速走行をしないとき

安全のため **CRUISE** を押して OFF にしてください。

パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにすると、**CRUISE** は自動的に OFF になります。

車速を調節するには

手元の **[RES/+]** と **[-/SET]** の操作で、車速を上げ / 下げすることができます。



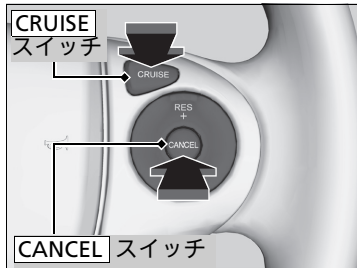
[RES/+] スイッチ

- 1 回押すごとに約 1.5km/h ずつ車速が上がる
- 押し続けると車速が上がり、手を離れたときの車速に固定

[-/SET] スイッチ

- 1 回押すごとに約 1.5km/h ずつ車速が下がる
- 押し続けると車速が下がり、手を離れたときの車速に固定

解除するには



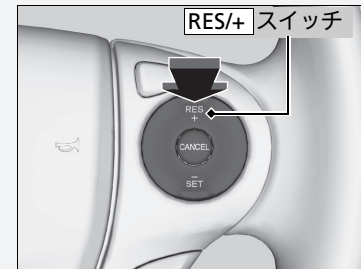
次の操作をすると、自動定速走行が解除されます。同時に、**CRUISE CONTROL** 表示灯が消灯します。

- **CANCEL** を押す
- **CRUISE** を押す
- ブレーキペダルを踏む

解除するには

解除前の設定車速に復帰させる

自動定速走行を解除したあとでも、30km/h以上の車速で走行中に **RES/+** を押すことで、解除前の設定車速の自動定速走行に戻すことができます。



ただし、下記の場合は復帰できません。

- 解除後、車速が 30km/h 未満になったとき
- **CRUISE** で OFF 操作をしたとき

車速が 25km/h 以下になると

自動的に自動定速走行が解除になります。

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

VSA とは、ABS 機能、TCS 機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

■ABS(アンチロックブレーキシステム)機能 ■ P.174

■TCS(トラクションコントロールシステム)機能

滑りやすい路面などでの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力、操舵能力を確保しようとする機能です。

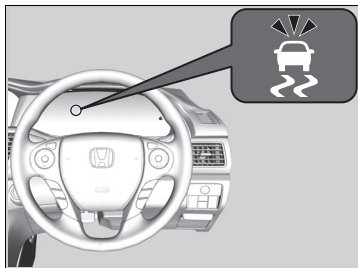
■横滑り抑制機能

急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。

さらに、緊急制動時に運転者のブレーキ操作を補助する電子制御ブレーキアシストも装着しています。

▶ 電子制御ブレーキアシスト P.175

■ VSA の作動と警告灯



TCS 機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA 警告灯が点滅します。

▶▶ VSA(ビークルスタビリティアシスト)

アドバイス

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、VSA が正常に機能しないことがあります。タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

VSA が作動した状態でも車両の安定性の確保には限界がありますので、無理な運転はしないでください。

- カーブ手前では十分に速度を落とす
- 雪道、凍結路を走行するときは、スノータイヤまたはタイヤチェーンを装着し控えめな速度で運転する

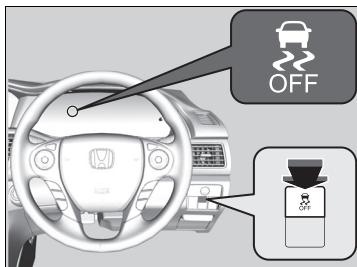
新雪やぬかるみから脱出したいときに、**図6**で VSA を OFF にすると TCS 機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなるので効果的な場合があります。


新雪やぬかるみから脱出した後は、すみやかに VSA を ON にしてください。VSA を OFF にしたままでの走行は、お勧めしません。

VSA 警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。


通常の運転には支障はありませんが、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

■ VSA OFF スイッチ



VSA 機能を部分的に停止(OFF)状態にするには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押してください。

TCS機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなります。

再度使用(ON)するには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。

☒ VSA(ビークルスタビリティアシスト)

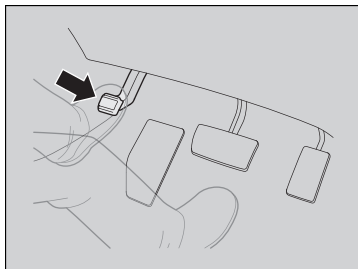
前回の走行時に OFF にした場合でも、再度パワーシステムを起動させると自動的に ON になります。

パワーシステムの起動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

ブレーキシステム

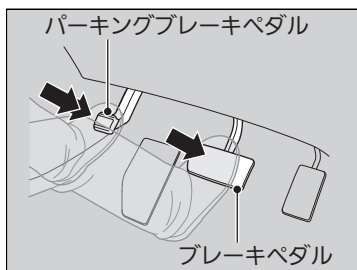
■パーキングブレーキ

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。パーキングブレーキペダルにより操作します。



■パーキングブレーキをかける

左足でパーキングブレーキペダルをいっばいに踏み込む。



■パーキングブレーキを解除する

1. 右足でブレーキペダルを踏む。
2. 左足でパーキングブレーキペダルを踏み、ゆっくりと戻す。

※ブレーキシステム

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキ装置の作動のため、エンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

※パーキングブレーキ

アドバイス

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、リヤブレーキと車軸が損傷するおそれがあります。パーキングブレーキは完全に解除した状態で、走行してください。

パーキングブレーキが完全に解除されていない状態で走行すると、パーキングブレーキ戻し忘れ警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングブレーキを解除して下さい」と表示が出ます。完全に解除すると、ブザーは止まります。停車したときも、ブザーは止まります。

駐車するときは、車が動き出さないように必ずパーキングブレーキをかけてください。

寒冷時は、凍結を防ぐためパーキングブレーキをかけないでください。

セレクトレバーを[P]にして、石などで輪留めをしておきます。

■ フットブレーキ

車の減速や停止をするためのメインのブレーキです。ブレーキペダルで操作します。

ブレーキのロックを防止する ABS(アンチロックブレーキシステム)で、安全性の向上を図っています。

❏ ABS(アンチロックブレーキシステム) P.174

❏ フットブレーキ

水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。

効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパッドを交換する必要があります。

Honda 販売店で点検を受けてください。

長い下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり危険です。そのため、長い下り坂などでは回生ブレーキを使用します。

アクセルペダルから足を離し、セレクトレバーを[D]から[B]にすると、回生ブレーキが強くなります。

ABS(アンチロックブレーキシステム)

■ ABS とは

ABS(アンチロックブレーキシステム)とは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

■ABS の作動と警告灯

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがあります。これはABSの正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。なお、低速(車速約10km/h以下)ではABSは作動せず、通常のブレーキと同じ作動となります。



ABS 警告灯

パワーモードを ON モードにすると数秒間点灯し消灯するのが正常な状態。

※ABS(アンチロックブレーキシステム)

アドバイス

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、ABSが正常に機能しないことがあります。タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

ABS 警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。

通常のブレーキ操作には支障はありませんが、ABSが作動していない可能性があります。ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

ABS は、制動距離を短くするためのものではありません。

ABSを装備していない車両と同様に、路面が滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。ABSが作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、過信せず安全運転に心がけてください。また、次のような場合、ABSの装着されていない車両に比べ、制動距離が長くなる場合があります。

- 砂利道、深い新雪、凸凹路などの悪路
- 舗装の継ぎ目やマンホールなどの段差
- タイヤチェーン装着時

パワーシステムの起動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

電子制御ブレーキアシスト

■ 電子制御ブレーキアシストとは

緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

■ 電子制御ブレーキアシストの作動

ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。

ブレーキアシストが作動すると、ペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえたりすることがあります。これはブレーキアシストが作動しているときの現象で異常ではありません。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

☞ VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.170

E-プリテンショナー装備車

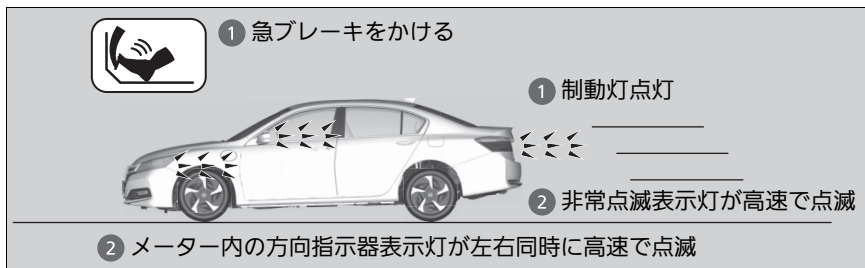
ブレーキアシストの作動と同時に運転席と助手席のシートベルトが引き込まれます。

☞ E-プリテンショナー* P.37

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを非常点滅表示灯が自動的に高速で点滅して後続車に知らせ、追突される可能性を低減するシステムです。60 km/h 以上で走行しているときに急ブレーキをかけると作動します。

■作動のしくみ



エマージェンシーストップシグナルは、以下の状態になると作動が停止します。

- ブレーキペダルを離したとき
- ABS が停止したとき
- 急減速でなくなったとき
- ハザードスイッチを ON にしたとき

※エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、追突されるおそれを低減するシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

ハザードスイッチがON のときは、エマージェンシーストップシグナルは作動しません。

ABS が一定時間以上作動しないとき、システムが作動しない場合があります。

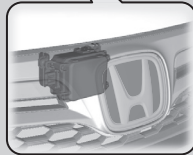
CMBS(衝突軽減ブレーキ)*

自車が、前方の車両のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車に正面から衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突を回避したり衝撃を軽減する装置です。

自車の車速が 5km/h 以上になるとレーダーセンサーが前方の車両の検知を開始。



エンブレムの奥に、
CMBS のレーダー
センサーを装備



自車との速度差が 5km/h 以上ある車両に対して衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。
対向車に対しては、自車が 80km/h 以下で走行中に衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。
さらに、30km/h ~ 80km/h で走行中に CMBS が作動する状況においてステアリングを制御することで運転者の回避操舵を支援します。
ステアリング制御機能 P.178
CMBS が作動し、停車した後に、自動ブレーキは解除されます。

CMBS(衝突軽減ブレーキ)



警告

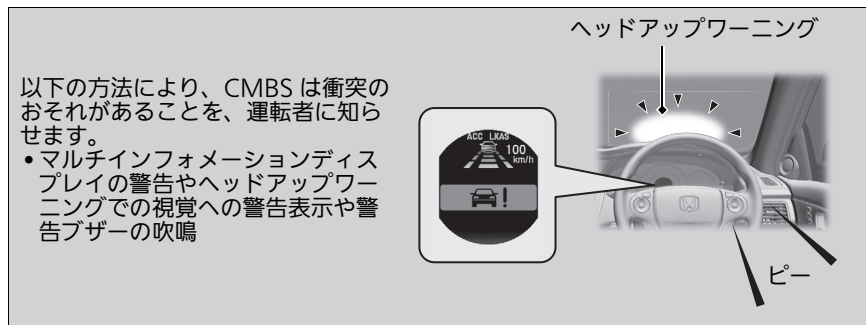
CMBS は、あらゆる状況で衝突を回避できるシステムではありません。

正しく運転しないと衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

次のような場合には、車両を正しく検知できず、CMBS が作動しない場合があります。

- 前方の車両との車間距離が極端に短いとき
- 自車と前方の車両との相対速度差が大きいとき
- 自車の前方に別の車両が割り込み、急な減速を行ったとき
- 急加速を行い、前方の車両に接近しているとき
- 自車の前方に対向車が急に飛び出したとき
- 自車が対向車の前に急に飛び出したとき
- 交差点などで、自車の前方に車が飛び出したとき
- 雨、霧、雪などの悪天候で、レーダーが検知しにくいとき
- カーブなど、道路状況によりレーダーで車両を正しく検知できないとき
- 自転車や二輪車など、レーダーが検知しにくいとき
- フロントグリルのエンブレムが汚れているとき
- 衝突を回避しようとして、運転者がブレーキやハンドルを操作した場合
- 狭い鉄橋を走行しているとき

■CMBS の警告のしかた



■ステアリング制御機能

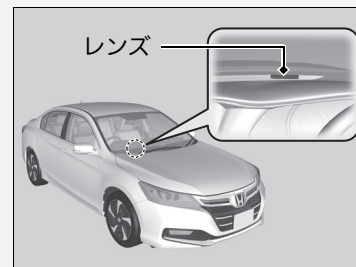
対向車に対して衝突のおそれがあるときは、視覚への警告に加え、ハンドルに短時間の弱い振動と弱い反力で運転者に注意を喚起します。

運転者がハンドルで回避操舵を行った場合は、EPSの操舵アシスト量を高めて運転者の回避操舵を支援します。

- ▶ ブレーキやハンドルを操作するなどの適切な行動で衝突を回避してください。

▶CMBS(衝突軽減ブレーキ)

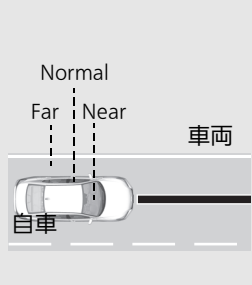
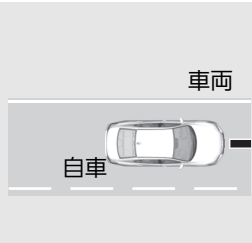



ヘッドアップワーニングのレンズは、ダッシュボード前方にあります。レンズを物でふさいだり、液体をこぼしたりしないでください。



EPS 警告灯が点灯しているときは、ステアリング制御機能が停止します。

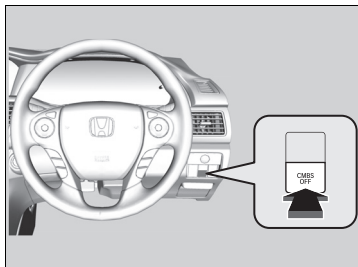
CMBS 作動の流れ

CMBSの作動には衝突の可能性に応じて3つの段階があります。しかし、状況によっては途中の段階から作動することがあります。

車両と自車の距離	状況	E-プリテンショナー	ブザーと表示による警告	ブレーキ	ステアリング制御
<p>第1段階</p> 	<p>車両への衝突のおそれが出てきた状況</p>	—	<p>ヘッドアップワーニングと警告表示が2回点滅する さらに接近するとヘッドアップワーニング、警告表示およびブザーによる警報を行う</p> <p>▶ 衝突警報距離を変更することができます。(Far、Normal、Near)</p> <p>■ カスタマイズ機能 P.89</p>	—	<ul style="list-style-type: none"> 対向車の場合、ハンドルの短時間の弱い振動と弱い反カトルクを発生 運転者がハンドルで回避操作を行った場合は、EPSの操舵アシスト量を高める
<p>第2段階</p> 	<p>衝突の危険が増し、衝突するまでの余裕が少なくなった状況</p>	<p>運転席のシートベルトを数回軽く引き込み、注意をうながす</p> 	<p>ヘッドアップワーニング、警告表示およびブザーによる警報を行う</p>	軽いブレーキ	<p>運転者がハンドルで回避操作を行った場合は、EPSの操舵アシスト量を高める</p>
<p>第3段階</p> 	<p>回避が困難な状況</p>	<p>運転席と助手席のシートベルトを強く引き込む</p> 		強いブレーキ	

運転

■ CMBS の ON と OFF



CMBS OFF ボタンを約 1 秒押して、システムの ON と OFF を切り換えます。

CMBS が OFF に切り換わったとき CMBS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに CMBS OFF とメッセージが表示されます。

CMBS を OFF にした状態でパワーシステムを停止すると、再起動時に CMBS は OFF となっています。

※CMBS(衝突軽減ブレーキ)

以下の場合、CMBS が自動的に停止し、警告灯が点灯することがあります。

- 山岳路や悪路を長時間走行したとき
- パーキングブレーキをかけて走行したとき
- 雨、霧、雪などの悪天候になったとき
- フロントグリルのエンブレムがほこり、泥、落ち葉、湿った雪などで覆われているとき
- タイヤの異常を検出したとき

CMBS が作動できる状態になると、CMBS は自動復帰します。

パワーモードを ON モードにするときは、車を静止させてください。駐車場のターンテーブル上など、車両が動いているときにパワーモードを ON モードにすると、ヨーレートセンサーが正しく機能しなくなり、走行中に他の車両を正しく検知できないことがあります。

シャシーダイナモやフリーローラーを使用するときは CMBS を OFF にしてください。

衝突の可能性のない場合の作動について

衝突の可能性がなくても、以下のとき、CMBS が作動することがあります。周囲の状況に注意して、走行してください。

- 左折、または右折している前方車両がいるとき
- 追い越し時に前方の車両や交差点などで対向車に接近して走行するとき
- 低いゲートや狭いゲートなどの間を規制速度を越えるような速度で通過しようとするとき
- 段差のある道路、線路、工事の鉄板などの上を走行するとき
- カーブ途中の道路脇に標識やガードレールなどがあるとき
- カーブ走行などで自車の正面に対向車がいるとき
- 駐車時等、停止している車両や壁に接近するとき

CMBS (衝突軽減ブレーキ)

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- エンブレムは常にきれいにしておく
- エンブレムのお手入れにベンジン、シンナー類、クレンザーなどの磨き粉類を使わない
- エンブレムにステッカーを貼らない
- エンブレムを交換しない

次の場合は、Honda 販売店にご相談ください。

- レーダーセンサーに衝撃が加わったとき
- フロントグリル周辺の修理を行うとき

サスペンションの改造はしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを使用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

次のようなときは、システムが正常に作動しないことがあります。

- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- タイヤが指定空気圧に調節されていないとき

駐車する

1. セレクトレバーは **[D]** のまま、ブレーキペダルをしっかりと踏む。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかける。
3. セレクトレバーを **[P]** に入れる。
4. パワーシステムを停止する。
 - ▶ 車から離れるときは必ず施錠してください。

坂道に駐車するときは、必ずパーキングブレーキをかけてください。

駐停車操作



注意

駐車時はパワーシステムを停止する。

万一、セレクトレバーが **[P]** **[N]** 以外に入っていた場合、クリープ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。駆動系の破損の原因となるため、以下のことをしないでください。

- アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏む
- 車が完全に止まらないうちに **[P]** に入れる

枯草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。

排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

植え込みなどの近くに駐停車するときは、排気ガスが植え込みに当たらないように車の向きを決めてください。

仮眠するときは、パワーシステムを停止してください。

- ▶ 無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

☒ 駐車する

車内の見えるところに貴重品などを置かないでください。

車内にライターや炭酸飲料缶を放置しないでください。

車内温度上昇によりライターなどの可燃物が自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

積雪時は、ワイパーアームを起こしてください。

雪の重みでアームの取り付け部が破損することがあります。

指定燃料について

■指定燃料

無鉛レギュラーガソリン
レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)

■タンク容量

46 リットル

☒指定燃料について

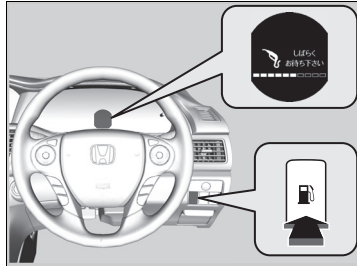
指定燃料以外の燃料(粗悪ガソリン、軽油、灯油等)を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。

以下のような状態になるおそれがあります。

- 触媒装置などの損傷
- エンジンや燃料系などの損傷
- エンジンなどへの悪影響

プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

給油のしかた



1. 助手席側にガソリンスタンドの給油機がくるように車を停める。
2. セレクトレバーを **[P]** にする。
3. パワーシステムを停止させる。
4. ハンドルの右側にあるフューエルリッドオープンスイッチを押す。
 - ▶ マルチインフォメーションディスプレイに「しばらくお待ちください」とメッセージが表示されます。
5. マルチインフォメーションディスプレイに「給油準備が完了しました」と表示され、フューエルリッドが自動的に開く。
 - ▶ フューエルキャップを開けて給油することができます。

給油のしかた



警告

燃料補給時は火気厳禁。

燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。

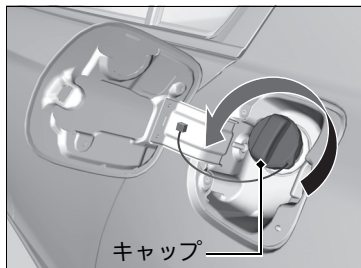
- エンジン常時止める
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱い屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

この車の燃料タンクには圧力がかかっています。燃料タンク内の圧力が高いときは、減圧するために約 10 秒かかります。減圧が完了すると、マルチインフォメーションディスプレイのメッセージが「しばらくお待ち下さい」から「給油準備が完了しました」に変わります。

フューエルリッドオープンスイッチを押した後、マルチインフォメーションディスプレイに「給油準備が完了しました」とメッセージが表示されているにもかかわらずフューエルリッドが開いていないときは、手動でフューエルリッドを開けることができます。

▶ **フューエルリッドが開かないとき** P.271



6. ツマミをゆっくり回し、フューエルキャップを開ける。

給油のしかた

警告

燃料補給作業は、フューエルキャップを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。

静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

注意

キャップはゆっくり開ける。

急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

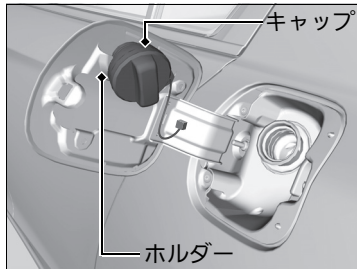
「シュー」という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。

燃料補給は、静電気を放電した人のみで行ってください。

燃料補給中に車内に戻ると、再び帯電することがあります。再度、静電気を放電してください。

燃料蒸気を吸わないでください。

燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。



7. キャップをホルダーにかける。
8. 給油ノズルを奥まで差し込み、給油する。
▶ 満タンになると、給油ノズルの自動停止がはたらき、給油が停止します。
9. 給油後、「カチッ」という音が1回以上するまでキャップを締め付ける。
▶ フューエルリッドは、手で押さえつけて閉めます。

※給油のしかた

⚠ 注意

給油ノズルの自動停止後は、追加補給しない。

気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

キャップが確実に閉まっていることを確認する。

閉まっていないと燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

Honda 純正以外のキャップを使わないください。

純正品を使用しないと、火災などを起こすおそれがあります。

気温などの変化により燃料があふれないように、タンク容量に達すると燃料タンクに空間を残して給油ノズルの自動停止がはたらくようになっています。

自動停止後に追加補給をすると、燃料が満タン容量以上に入ることがあります。

充電の準備

充電を始める前に下記の項目を確認してください。

確認項目

- 接地施工された 15A 以上の専用回路を使用しているか？
 - ▶ 施工状態がわからないときは、電気工事業者に確認を依頼してください。
- 充電専用コンセントに充電ケーブルのプラグを直接差し込んでいるか？
 - ▶ 延長コード、コードリール、プラグ変換アダプターは使用しないでください。
たこ足配線はしないでください。
- 充電ケーブルは伸ばした状態で使用をしているか？
 - ▶ 伸ばした状態で使用をしてください。
- コントロールボックスや充電コネクタ、充電ケーブルが破損していないか？
 - ▶ 破損している場合は、Honda 販売店に連絡をしてください。
- 充電コネクタや充電口に異物が入っていないか？
 - ▶ 異物が入っている場合は、Honda 販売店に連絡をしてください。
充電コネクタおよび充電口は常に清潔な状態にしてください。
- 充電ケーブルを水で濡らさないか？
 - ▶ 水の近くや濡れた手で充電ケーブルの使用をしないでください。

ⓘ 充電

⚠ 警告

15A 以上のブレーカーに単独配線をされ、接地施工された充電専用コンセントを使用する。

適切な電源回路を使わないときは、火災になるおそれがあります。

施工状態がわからないときは、電気工事業者に確認を依頼してください。



以下の状態のときに高電圧バッテリーに充電をすると、感電や火災の原因になり、重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。

- 落雷のおそれがあるときは充電を行わない
 - 水の近くや濡れた手で、充電ケーブルの使用をしない
 - コントロールボックスや充電ケーブルが破損している場合は、使用しない
- これらの状態のときは、充電をしないでください。

普通充電

普通充電とは、主にご家庭で日常的に行う高電圧バッテリーへの充電のことをいいます。

充電は、AC200V または AC100V の電源を使用します。

充電ケーブル	満充電までの時間	コンセント形状
AC200V	1.5 時間(90 分)*	
AC100V	260 分*	

※：充電時間は、バッテリー残量や気温により異なります。

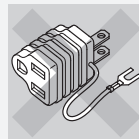
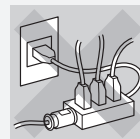
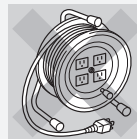
満充電までの時間は、気温が 25℃ で走行中にエンジンが始動した状態を基準とした時間です。

充電

警告

充電機器の不適切な取扱いは火災や重大な傷害につながるおそれがあるため、次のことを守る。

- 接地施工された適切なコンセントを使用すること
- 延長コードやコードリールは使用せずにコンセントに直接プラグを差し込むこと
- たこ足配線はしないこと
- 発電機は使用しないこと
- 充電コネクタや充電口に異物が入っていないことを確認すること



警告

損傷や改造された充電機器を使用することは、感電や火災の原因となり、重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。

決して分解や改造をしないでください。もし、充電機器に損傷があるときは、使用を中止し、Honda 販売店に相談をしてください。

■ 普通充電のしかた



1. パワーモードが OFF モードになっていることと、セレクトレバーが **P** になっていることを確認する。
2. Honda スマートキーの充電用リッドオープンボタンを押すか、充電用リッドオープンスイッチを長押しします。
▶ 車の左側の充電用リッドが開きます。

▶▶ 充電

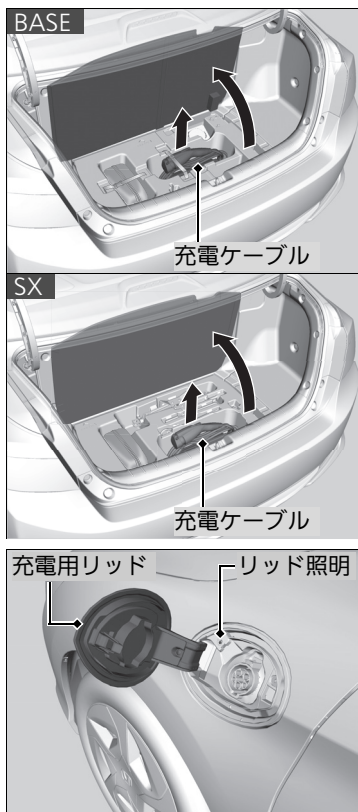
⚠ 注意

ペースメーカ(植込み型心臓ペースメーカおよび除細動機能なし植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ)を装着されているお客様は、充電時には充電スタンドや充電ケーブルに植込み部位を近付けず離してください。

充電により、ペースメーカの動作に影響を与えるおそれがあります。

充電を行うには専用のコンセントが必要です。詳しくは Honda 販売店にご相談ください。

充電には漏電遮断器付コンセントを使用することをおすすめします。取り付けの際は Honda 販売店に確認してください。



3. トランクを開け、カーゴリッドを開けて充電ケーブルを取り出す。

▶ ケーブルは伸ばした状態で、使用してください。

4. 充電用リッドを開ける。

▶ リッド照明が数分間点灯します。

※充電

本田推奨工事仕様については Honda 販売店に確認してください。

充電中は冷却風取り入れ口をふさがないでください。

充電システムの冷却が適正に行われず、充電時間が長くなります。

充電ケーブルに傷、亀裂、割れなどがないか確認をします。

異常が見つかった場合は使用を中止し、Honda 販売店に点検を依頼してください。

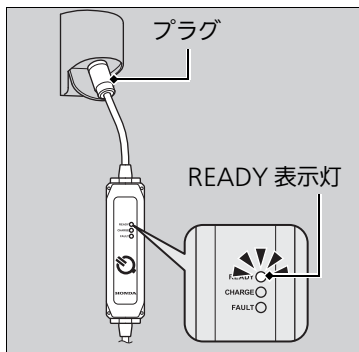
充電ケーブルに、汚れや水滴が付着している場合は、乾いたきれいな布で拭き取ってください。

水洗いやケミカル類を使用しての掃除は行わないでください。

充電中は、電磁波によるノイズのために、ラジオが聞こえなくなることがあります。

充電口とコネクターの金属部分が損傷や腐食している場合は、Honda 販売店へご連絡をしてください。

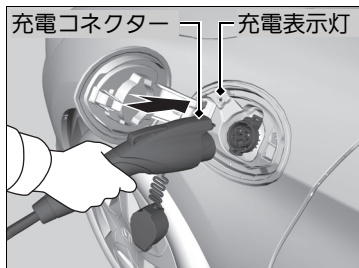
充電中に停電が発生したときは、電力が復旧して、充電システムが充電可能な状態になると自動的に充電が再開されます。



5. プラグを AC200V の充電用コンセントに接続をする。

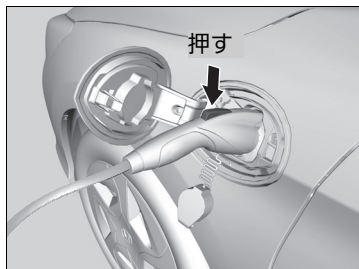
▶ プラグを根元まで差し込んでください。

6. コントロールボックスのREADY が点灯していることを確認する。



7. 充電コネクタのキャップを外し、充電口に「カチッ」という音が出るまで、差し込む。

▶ 充電表示灯が数秒点滅した後、点灯します。



■充電が完了したとき

充電コネクタのリリースボタンを押して、充電口から取り外します。

▶ 充電が完了すると充電表示灯が消灯します。

※充電

充電コネクタを充電口に接続していても、充電ができないときは、以下の場合があります。

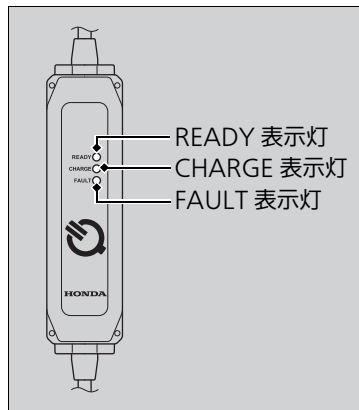
- 充電タイマーがセットされている場合
- 屋内ブレーカや手元スイッチがOFFになっている場合

充電機器の損傷を防ぐために、次の点に注意してください。

- 充電機器に強い衝撃をあたえない
- ケーブル部分を引っ張らない、ねじらない、折り曲げない、踏みつけない、引きずらない
- 充電機器は、ヒーターなどの温度が高くなるものに近づけたり、高温場所で保管や使用しない

充電を途中でやめたいときは、充電コネクタを抜き取ってください。
充電は自動的に中止されます。

コントロールボックス



状態	コントロールボックスの表示灯			充電 表示灯	状況	● 消灯	○ 点灯	☾ 点滅
	READY 表示灯	CHARGE 表示灯	FAULT 表示灯					
起動	○	○	○	●	充電の準備中			
準備	○	●	●	☾ ゆっくり 点滅	充電待機中			
充電中	○	○	●	○	充電中			
充電終了	○	●	●	●	充電終了			

状態	コントロールボックスの表示灯			充電表示灯	状況	● 消灯	○ 点灯	☼ 点滅
	READY表示灯	CHARGE表示灯	FAULT表示灯					
異常・故障	☼	☼	☼	○	充電設備に異常がある可能性があり、プラグが発熱するおそれがあります。充電スピードを落として充電は続けて行われますが、安全のため、充電ケーブルを外してください。 そして、この車とコントロールボックスを持って Honda 販売店で点検を受けてください。			
	☼	●	☼		プラグが発熱していたため、充電スピードを落として充電を行っていました。充電設備に異常がある可能性があり、プラグが発熱するおそれがあります。 この車とコントロールボックスを持って Honda 販売店で点検を受けてください。 点検を受ける前に、充電は行わないでください。			
	☼	●	●	●	アースが接続されていません。コンセントを点検し、電気工事業者に相談してください。			
	○	●	☼		漏電しています。充電をただちに中止し、Honda 販売店に相談をしてください。			
	○	●	○		充電ケーブルに異常が発生しました。充電をただちに中止し、Honda 販売店に相談をしてください。			
	●	●	●		電源供給異常や内部回路故障の可能性あります。まず、他の適切なコンセントで充電をし、充電が可能か試してください。			

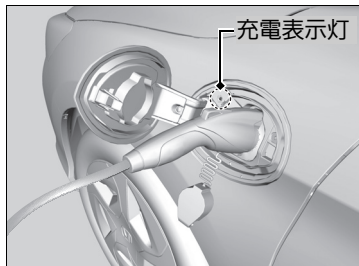
充電が開始されないとき

READY 表示灯が点灯後、充電コネクタを差しても充電が開始されない場合は、以下の操作をしてください。

充電が開始されない理由	操作方法
タイマー充電設定をしたが開始時刻になっていないため。	<p>Honda スマートキーで充電を開始する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ タイマー充電設定中でも、Honda スマートキーの充電用リッドオープンボタンを長押しすることでタイマー設定を解除して、すぐに充電を開始することができます。 ▶ タイマー充電の設定時間は保持されます。 <p>マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズでタイマー充電の設定を OFF にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ タイマー充電の設定は解除されます。 <p>🔌 タイマー充電 P.198</p>
セレクタレバーが P 以外になっているため。	セレクタレバーを P にする。
パワーモードが ON モードになっているため。	パワーモードをアクセサリモードまたは OFF モードにする。
普通充電コネクタが正しく接続されていないため。	充電口からコネクタを取り外し、充電口に「カチッ」という音が出るまで、差しこんでください。

以上の操作をしても、充電が開始されない場合は、Honda 販売店で 12V バッテリーの点検を受けてください。

■ 充電表示灯



充電表示灯は高電圧バッテリーの充電状態を表示します。

充電コネクタを接続し、表示灯が点滅した後に、点灯すれば充電が開始されています。

表示灯の状況	車の状態
ゆっくり点滅	<ul style="list-style-type: none"> • 充電待機状態のとき。 • 充電タイマーが設定されているとき。 ▶ 点滅から約 15 秒後に消灯します。 • 充電中にパワーモードが ON モードにされたとき。
点灯	<ul style="list-style-type: none"> • 充電をしているとき。
消灯	<ul style="list-style-type: none"> • 充電が終了したとき。
早く点滅	<ul style="list-style-type: none"> • 充電システムが異常のとき。 ▶ 点滅から約 15 秒後に消灯し、充電は開始されません。

高電圧バッテリーの特性

長期間駐車をすると、高電圧バッテリーは少しずつ放電をします。

バッテリーの性能を維持するために、少なくとも3ヶ月に一度パワーシステムを30分以上作動させてください。パワーシステムが起動するとガソリンエンジンが始動し、充電が開始されます。パワーシステムを起動してもエンジンが始動しない場合がありますが、そのままパワーシステムの作動を30分以上継続させてください。

外気温により性能が変化することがあります。特に低温時はEV走行の航続可能距離が短くなり、充電が長くなります。

バッテリーの寿命を長くするために、日陰への駐車や、走行直前に満充電にすることをおすすめします。

▶ **パワーシステムの起動** P.158

▶▶ 高電圧バッテリーの特性

高電圧バッテリーは時間の経過や使用状況により蓄電能力が低下します。蓄電能力の低下に伴い航続可能距離が短くなります。

高電圧バッテリーが放電しすぎないように注意をしてください。

充電量が0の状態で長期間放置されるとエンジンが始動できなくなるおそれがあります。

タイマー充電

Honda インターナビシステムのカスタマイズ機能を使ってタイマー充電を行うことができます。

充電コネクタが車に接続されているときは、設定された時刻で自動的に充電を開始します。

タイマー充電の設定



1. Honda インターナビシステムの **設定** を押す。
2. コマンドホイールを回して「タイマー充電設定」を選択し、**実行**を押す。
▶ 「タイマー充電」画面に切り換わりま

3. タイマーがONになっていることを確認します。
▶ タイマーが OFF のときは、コマンドホイールを回して「タイマーON」を選択し、**実行**を押します。
4. コマンドホイールを回して「時間編集」を選択し、**実行**を押す。



タイマー充電の設定

タイマーON：タイマー充電をONにします。
タイマーOFF：タイマー充電をOFFにします。
時間編集：タイマー充電開始時刻を設定します。
充電量設定：充電量の上限を設定します。
丘陵地などにお住まいのかたは、坂を下ることによって高電圧バッテリーを充電できるため、充電量を下げしておくことで充電を効率的に行うことができます。



5. コマンドホイールを回して「時」を選択し、**実行**を押す。
6. コマンドホイールを回して「分」を選択し、**実行**を押す。
7. コマンドホイールを下に押しして「設定完了」が表示されたら、**実行**を押す。
▶ 充電タイマーがセットされました。

☒ タイマー充電の設定

充電設備が丘陵地の上にあるような場合で、充電後に坂を下るのであれば、高電圧バッテリーを満充電にする必要はありません。これは坂を下っているときに、モーターがジェネレーターとして回生エネルギーを高電圧バッテリーに充電するためです。充電についてのカスタマイズ機能で充電量の設定をすることができます。

アクセサリー

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーをフロントガラスに取り付けていないか？
 - ▶ アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。また、吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。
- フロントガラス、ドアガラスやフロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーを取り付けていないか？
 - ▶ サイドカーテンエアバッグの作動の妨げになるので、上記の場所にはアクセサリーを取り付けしないでください。

車の改造

Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。

- 適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故のもとになったりします。
- Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。
- 車の改造はしないでください。不正改造は、法律に触れることはもちろん、思わぬ事故を起こす場合があります。
- 無線装置などの取り付けの際には、必ず Honda 販売店にご相談ください。装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

車の改造

車の性能、品質を維持するために、Honda 車に最も適した Honda 純正部品をお使いください。純正部品には下記のマークが付いています。



HONDA
GENUINE PARTS

お求め、装着に際しては、Honda 販売店にご相談ください。

メンテナンス

この章では、基本的なメンテナンスについて記載しています。



メンテナンスの前に	
点検整備について.....202	
メンテナンスを安全に行うために.....203	
メンテナンスに関する注意事項.....203	
スマートメンテナンス	
スマートメンテナンスの使いかた.....204	
エンジンルーム内のメンテナンス	
エンジンルーム内のメンテナンス項目...209	
ボンネットを開ける.....210	
推奨エンジンオイル.....211	
ウィンドウォッシャー液の補給.....211	
電球の交換212	
ワイパーブレードラバーの点検と整備 ...223	
タイヤの点検と整備	
タイヤの点検.....225	
タイヤのローテーション.....227	
冬期のタイヤ.....229	
Honda スマートキー	
Honda スマートキーの取り扱いと 電池交換.....230	
エアコンのお手入れ	
エアクリーンフィルター.....232	
清掃	
日常のお手入れ.....234	
車内の清掃.....234	
車外の清掃.....235	

点検整備について

道路運送車両法により、法定点検と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。

普段と違う点(音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど)に気づいたら、Honda 販売店で点検を受けてください。

点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートも併せてご覧ください。

■点検整備の種類

■日常点検

長距離走行前や洗車・給油時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■定期点検

12か月および24か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

■その他

新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

※点検整備について

作業に不慣れな場合や難しい場合は Honda 販売店にご相談ください。

メンテナンスを安全に行うために

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。

お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

メンテナンスを行う場所や備品についての安全事項

- 火災や爆発防止のため、タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざける。

車についての安全事項

- エンジンの排気ガスに含まれる一酸化炭素の毒作用に注意する。
 - ▶ エンジンをかけるときは必ず十分な換気を行ってください。
- 熱くなった部品によるやけどに注意する。
 - ▶ 部品に触れる前に、エンジンと排気システムを十分に冷やしてください。
- 可動部品によるけがに注意する。
 - ▶ 指定されたとき以外は、パワーモードを OFF モードにして作業してください。ONモードでは、ガソリンエンジンが自動的に動きだしたり、エンジン停止中でも冷却ファンが回りだすことがあります。
- エンジンルーム内の、タオルや可燃物の置き忘れに注意する
 - ▶ 火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

メンテナンスに関する注意事項

メンテナンスサービスで使用する部品やオイル

メンテナンスサービスを受けるときは、Honda 純正部品やオイル類を使用することをおすすめします。Honda 純正部品は、車で使われている部品と同じ高品質の基準に基づいて製造されているため、性能と耐久性の面で安心です。

⚠️ メンテナンスを安全に行うために



警告

適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。

走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。

必ず、この取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。

メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。必ず、この取扱説明書に記載されている手順と注意事項を守ってください。

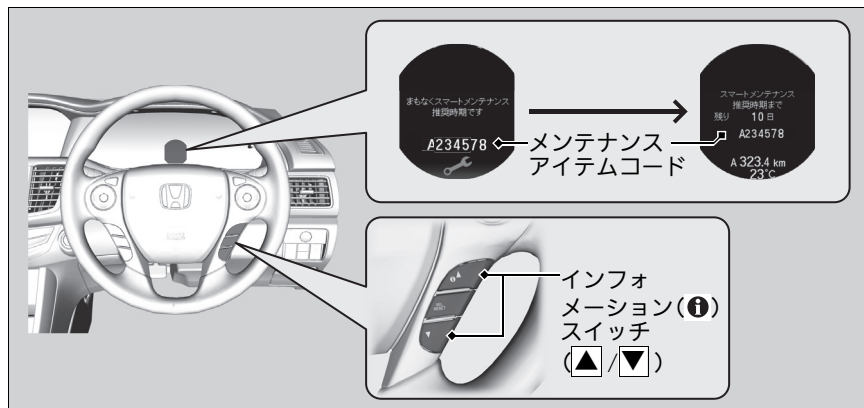
30日以内にメンテナンスが必要な項目がある場合は、パワーモードをONモードにするたびにスマートメンテナンスのメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

メッセージが表示されたときは Honda 販売店でメンテナンスを受けてください。

スマートメンテナンスの使いかた

■スマートメンテナンスの表示

1. パワーモードをONモードにする。
2. マルチインフォメーションディスプレイにスマートメンテナンス画面が表示されるまで、インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押す。









■スマートメンテナンスの表示

エンジンの運転状態とエンジンオイルの状態をもとに、次のメンテナンス時期までの残日数を計算しています。

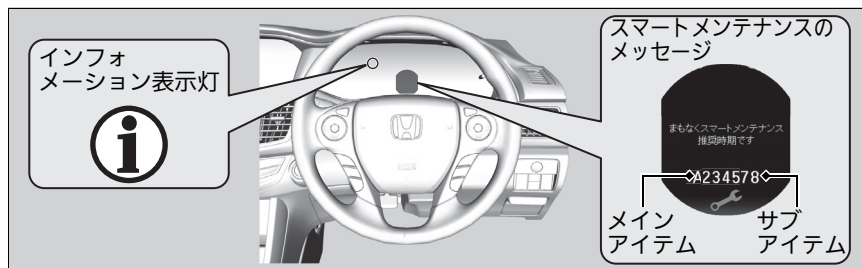
走行条件によっては、残日数が実際の経過日数よりも減る場合があります。

走行距離の累計が150kmを超えると自動的に残日数の計算が開始されます。それまでの間はスマートメンテナンス画面の残日数は「-」が表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージとスマートメンテナンス情報

警告メッセージ	スマートメンテナンス情報	説明	情報
		30 日以内にメンテナンス時期になる項目があるとき	1 日ごとに残日数が減っていきます。
		10 日以内にメンテナンス時期になる項目があるとき	できるだけ早めにメンテナンスを受けてください。
		メンテナンス時期を過ぎている項目があるとき	メンテナンス時期を過ぎている項目があります。 メンテナンスを受けたらすぐにスマートメンテナンスをリセットしてください。

■メンテナンスサービス項目



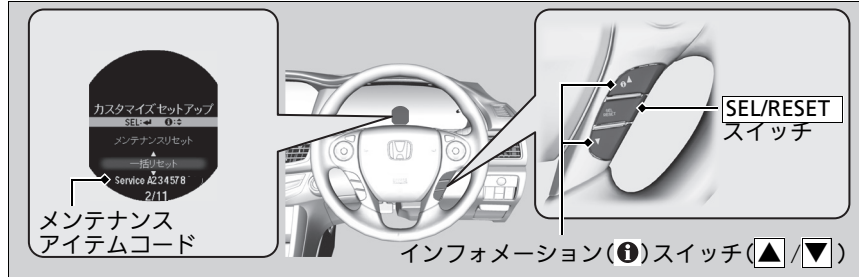
コード	メンテナンスメインアイテム
A	エンジンオイル、フィルター交換

コード	メンテナンスサブアイテム
2	• エアクリーンフィルターの交換
3	• トランスミッションフルードの交換
4	• 点火プラグの交換
5	• エンジン冷却水の交換
7	• ブレーキフルードの交換
8	• エアクリーナーエレメントの交換*

※：粉じんの多い場所での走行が多い場合は、25,000 kmごとにエアクリーナーエレメントを交換してください。

リセットのしかた

メンテナンスを行った後は、スマートメンテナンスの表示をリセットします。



1. パワーモードを ON モードにする。
2. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押して、「車両設定」を選択し、**SEL/RESET** を押す。
3. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押して、「メンテナンスリセット」を表示させる。
4. **SEL/RESET** を押す。
▶ マルチインフォメーションディスプレイにスマートメンテナンスリセットモードが表示されます。

リセットのしかた

アドバイス

メンテナンス後にスマートメンテナンスをリセットしないと、メンテナンス時期を正しくお知らせできないため、故障につながる可能性があります。

Honda 販売店でメンテナンスを受けた後は担当者がスマートメンテナンスの表示をリセットします。

インターナビシステム/メンテナンスリセット画面を使用してスマートメンテナンスの表示をリセットすることができます。

▶ Honda インターナビシステム取扱説明書

5. すべての項目を一度にリセットするときは、インフォメーション(❶)スイッチ(▲/▼)を押して「一括リセット」を選択し **SEL/RESET** を押す。

▶ メンテナンス項目表示が消えます。

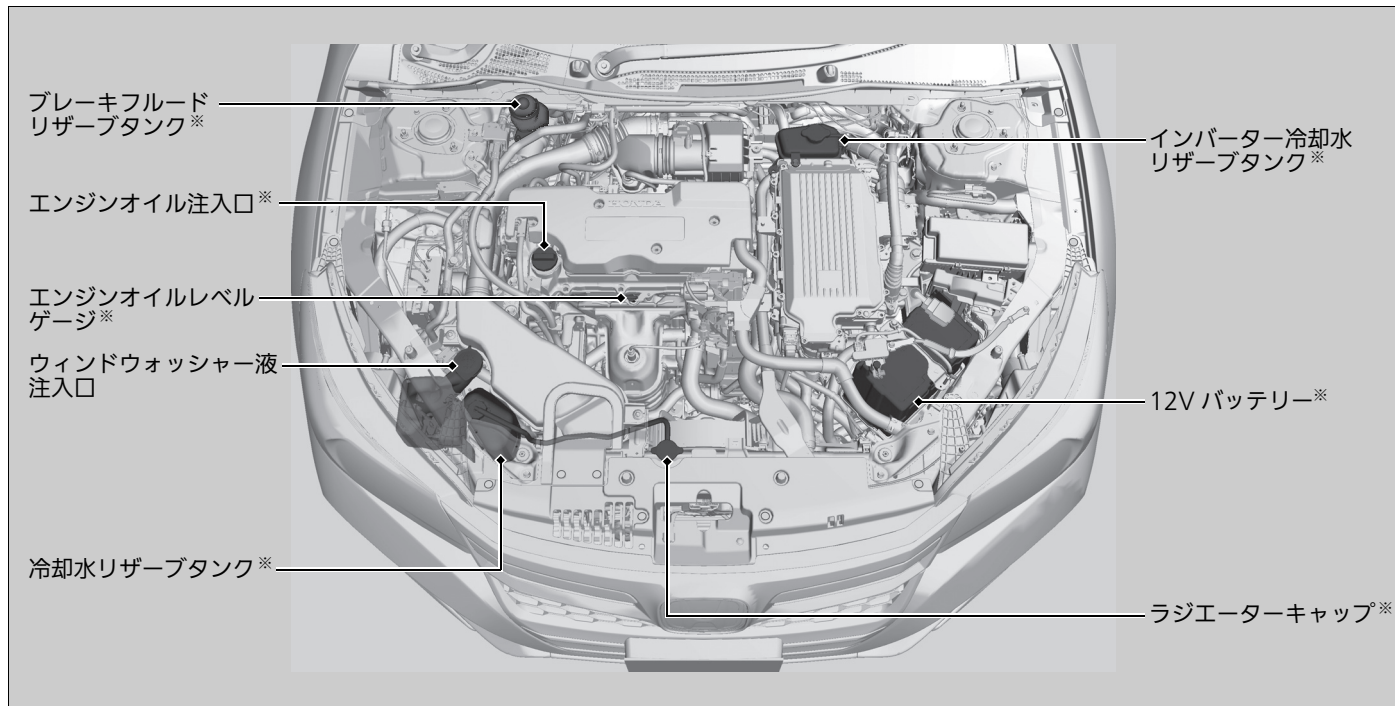
メンテナンス項目を個別にリセットするときは、インフォメーション(❶)スイッチ(▲/▼)を押して「○のみリセット」を選択し、 **SEL/RESET** を押します。

▶ メンテナンス項目表示が消えます。

メンテナンスマインダーのリセットを中止するときは、インフォメーション(❶)スイッチ(▲/▼)を押して「キャンセル」を選択し、 **SEL/RESET** を押します。

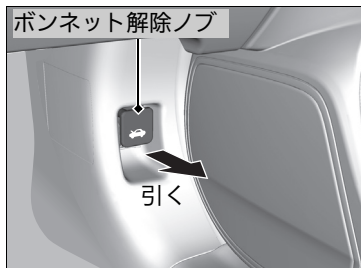
エンジンルーム内のメンテナンス

エンジンルーム内のメンテナンス項目

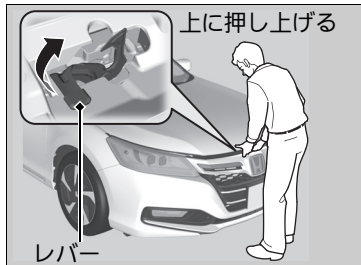


※：点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

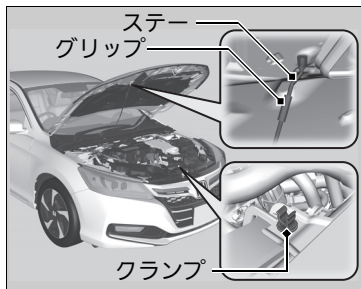
ボンネットを開ける



1. 車を止め、パーキングブレーキをかける。
2. 運転席足元にある、ボンネット解除ノブを引く。
▶ ボンネットが少し浮き上がります。



3. ボンネット中央のレバーを上押し上げロック機構を解除し、ボンネットを開ける。



4. グリップを持ってステーをクランプから取り外し、ステーをボンネットにかける。

閉めるときは、ステーを外しクランプに納めてからボンネットを静かに下げて、約30cmの高さから手を離します。

▶▶ ボンネットを開ける



注意

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。

ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷することがあります。

ボンネットを閉めたときは、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

推奨エンジンオイル

エンジンオイルは、量が少なかったり劣化したものを使用していると、エンジンの不調や破損につながる場合があります。



推奨エンジンオイル：

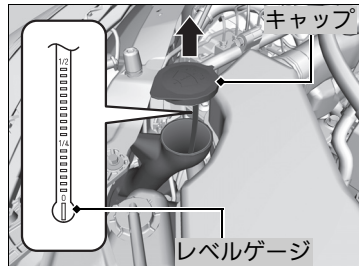
Honda 純正エンジンオイル

▶ Honda 純正エンジンオイル P.274

API SM 級または SN 級以上かオイル缶に API CERTIFICATION(エーピーアイサーティフィケーション)マークの入ったエンジンオイル

ウィンドウォッシャー液の補給

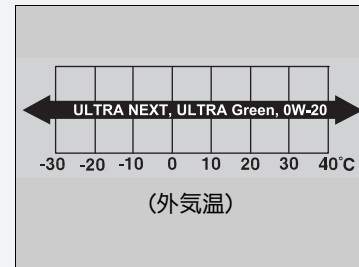
ウォッシャー液の量は、キャップに付いているウォッシャー液レベルゲージにより確認します。



減っていた場合は、ウォッシャー液キャップを外し、ウォッシャータンクに補給します。

▶▶ 推奨エンジンオイル

市販のエンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを下表にもとづきお使いください。



冬期はエンジンオイルの劣化が激しくなります。冬期に主として短距離、市街地を運転する場合は、早めに交換してください。

▶▶ ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液以外の液体を、タンクに入れないでください。

冬期はウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

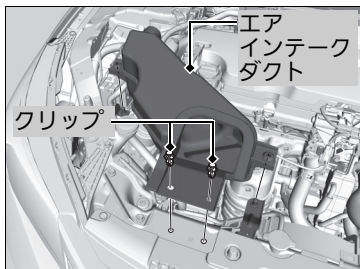
ヘッドライト電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

ロービームヘッドライト : LED

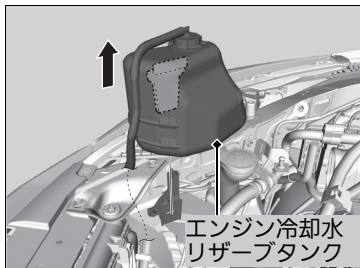
ハイビームヘッドライト : 12V-60W

■ハイビームヘッドライト



右側ハイビームヘッドライト

1. クリップを外し、エアインテークダクトを取り外す。



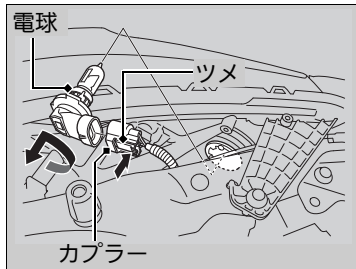
2. エンジン冷却水リザーブタンクを取り外す。

※ハイビームヘッドライト

アドバイス

ハロゲン球は非常に熱くなります。取り扱うときは、熱が冷めてから行ってください。また、ガラスに油、汗、傷がつくと、電球が過熱し割れるおそれがあります。

扱うときは口金の部分を持ち、ガラスが肌や固いものに触れないようにしてください。ガラスに汚れがついたときは、中性洗剤の薄い水溶液を含ませたきれいな布で拭いてください。



右側・左側ハイビームヘッドライト

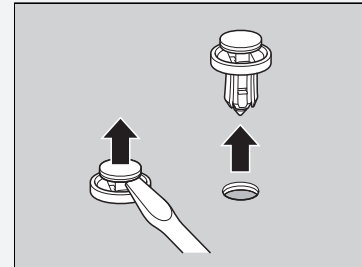
3. カプラーを外す。
▶ カプラーはツメを押しながら外します。
4. 古い電球を左に回して抜き取る。
5. 新しい電球を右に回して固定する。
6. カプラーを押し込み、電球に取り付ける。

ロービームヘッドライト

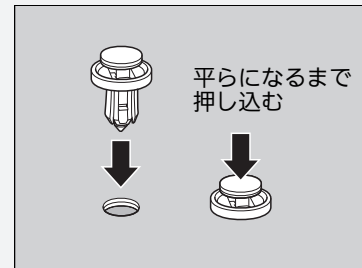
ロービームヘッドライトはLEDを使用しています。点検や交換は必ず Honda 販売店に依頼してください。

☒ヘッドライト電球

クリップを外すときは、マイナスドライバーを差し込んで、中央部のピンを起こして取り外します。



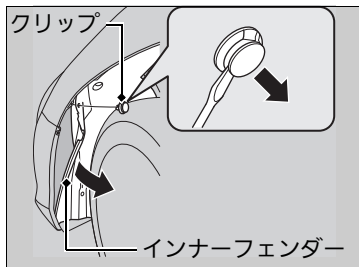
クリップを取り付けるときは、クリップ中央部のピンを起こしたまま差し込み、ピンを平らになるまで押してください。



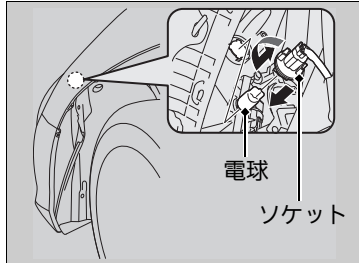
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯：12V-21W(橙色)



1. 交換する側と反対にハンドルをいっぱい切る。
右側：ハンドルを左に切る
左側：ハンドルを右に切る
2. クリップを外し、インナーフェンダーをめくる。



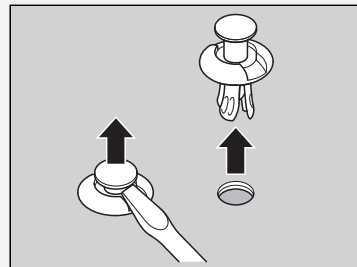
3. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
4. 新しい電球を差し込む。

車幅灯電球

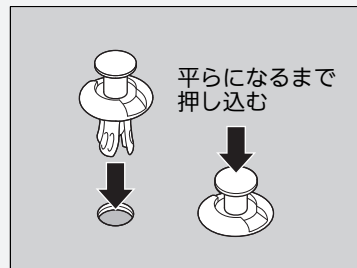
車幅灯はLEDを使用しています。点検や交換は必ずHonda販売店に依頼してください。

▶▶ 前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球

クリップを外すときは、マイナスドライバーを差し込んで、中央部のピンを起こして取り外します。



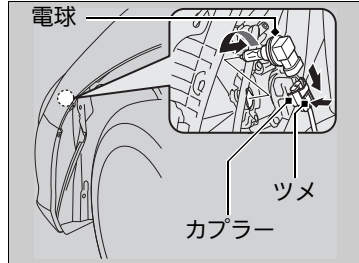
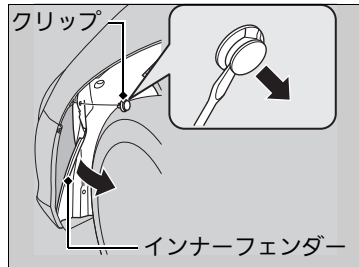
クリップを取り付けるときは、クリップ中央部のピンを起こしたまま差し込み、ピンを平らになるまで押ししてください。



アクティブコーナリングライト電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

アクティブコーナリングライト：12V-35W



1. 交換する側と反対にハンドルをいっぱい
に切る。
右側：ハンドルを左に切る
左側：ハンドルを右に切る
2. クリップを外し、インナーフェンダーを
めくる。
3. カプラーを外す。
▶ カプラーはツメを押しながら外します。
4. 古い電球を左に回して抜き取る。
5. 新しい電球を右に回して固定する。
6. カプラーを押し込み、電球に取り付ける。

※アクティブコーナリングライト電球

アドバイス

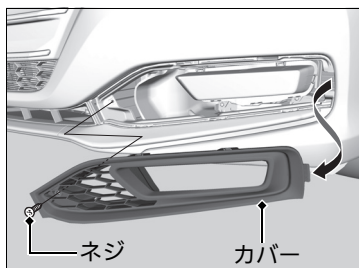
ハロゲン球は非常に熱くなります。取り扱う
ときは、熱が冷めてから行ってください。ま
た、ガラスに油、汗、傷がつくと、電球が過
熱し割れるおそれがあります。

扱うときは口金の部分を持ち、ガラスが肌や
固いものに触れないようにしてください。
ガラスに汚れがついたときは、中性洗剤の薄
い水溶液を含ませたきれいな布で拭いてくだ
さい。

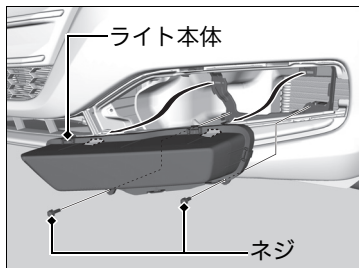
フォグライト電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

フォグライト：12V-35W



1. ネジを外してカバーを取り外す。



2. ネジを外してライト本体を取り外す。

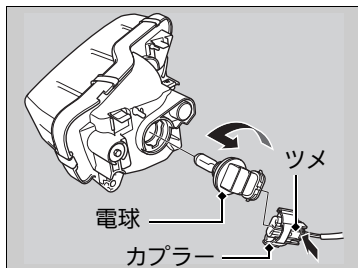
※フォグライト電球

アドバイス

ハロゲン球は非常に熱くなります。取り扱うときは、熱が冷めてから行ってください。また、ガラスに油、汗、傷がつくと、電球が過熱し割れるおそれがあります。

フォグライトはハロゲン球です。

扱うときは口金の部分を持ち、ガラスが肌や固いものに触れないようにしてください。ガラスに汚れがついたときは、中性洗剤の薄い水溶液を含ませたきれいな布で拭いてください。



3. カプラーを外す。
 - ▶ カプラーはツメを押しながら外します。
4. 古い電球を左に回して抜き取る。
5. 新しい電球を右に回して固定する。
6. カプラーを押し込み、電球に取り付ける。

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球

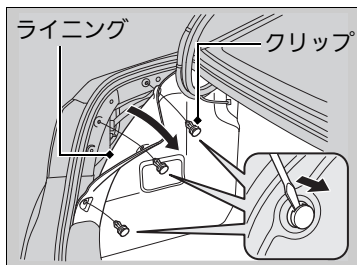
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

制動灯 / 尾灯、後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯 / 後部側方灯電球

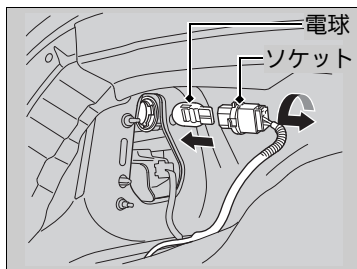
制動灯 / 尾灯、後部側方灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

制動灯 / 尾灯	: LED
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	: 12V-21W(橙色)
後部側方灯	: LED



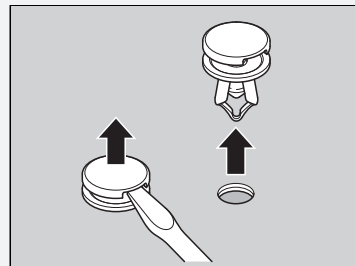
1. マイナスドライバーでトランク内のクリップを外し、ライニングをめくる。



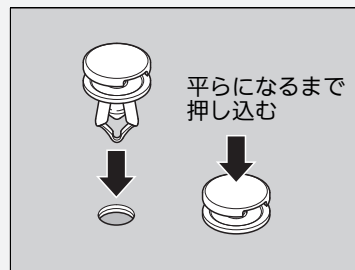
2. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

制動灯 / 尾灯、後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯 / 後部側方灯電球

クリップを外すときは、クリップの切り欠き部にマイナスドライバーを差し込んで、中央部のピンを起こして取り外します。



クリップを取り付けるときは、クリップ中央部のピンを起こしたまま差し込み、ピンを平らになるまで押してください。

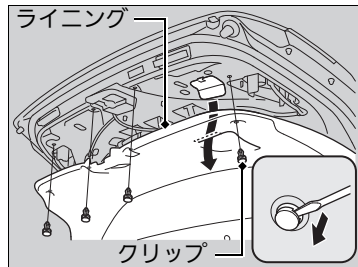


尾灯 / 後退灯電球

尾灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

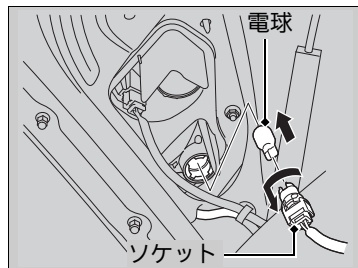
交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

尾灯	: LED
後退灯	: 12V-16W



1. マイナスドライバーでトランクリッド内側のクリップを外し、ライニングをめくる。

☒ クリップの外しかた P.218

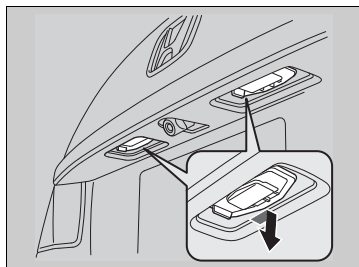


2. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

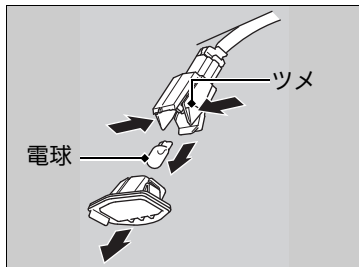
番号灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

番号灯：12V-5W



1. レンズの側面を押してランプ本体を外す。



2. ツメを押してカバーを外す。
3. 古い電球を抜き取る。
4. 新しい電球を差し込む。

ハイマウントストップランプ電球

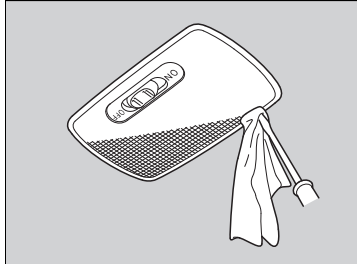
ハイマウントストップランプはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

その他の電球

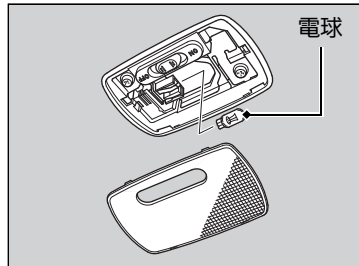
室内灯電球

下記の電球をご使用ください。

室内灯：12V-8W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

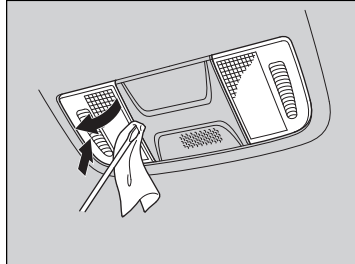


2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

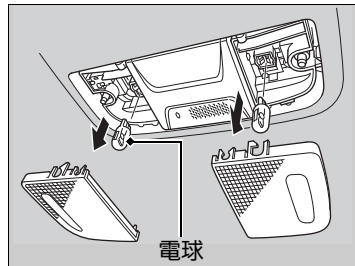
マップランプ電球

下記の電球をご使用ください。

マップランプ：12V-8W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

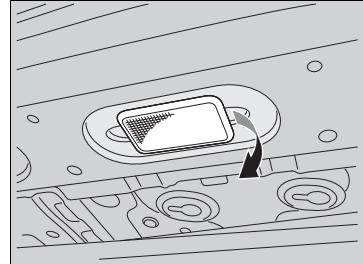


2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

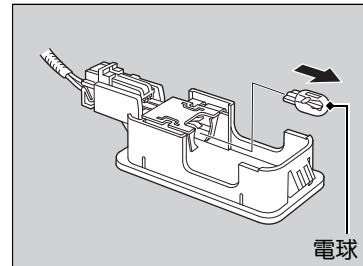
トランク照明灯電球

下記の電球をご使用ください。

トランク照明灯：12V-5W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

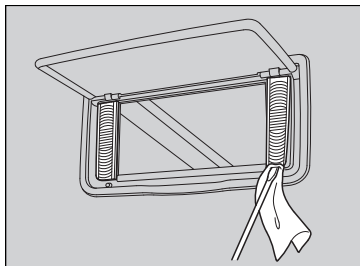


2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

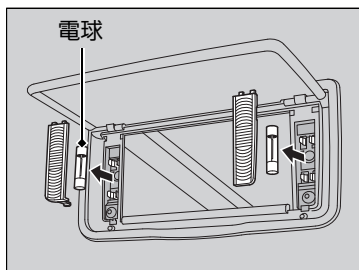
■ バニティミラー照明灯電球

下記の電球をご使用ください。

バニティミラー照明灯：12V-1.4W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

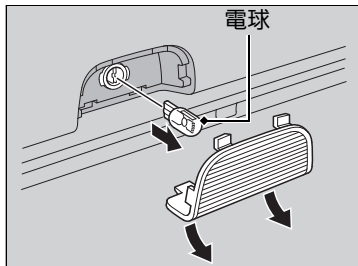


2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

■ ドア開閉灯電球

下記の電球をご使用ください。

ドア開閉灯：12V-2CP(3.8W)



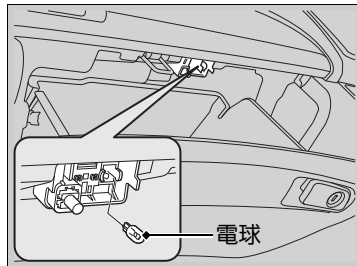
1. レンズの下側を押しながら、レンズを引いて外す。
2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

■ グローブボックス照明灯電球

下記の電球をご使用ください。

ドア開閉灯：12V-3.4W

1. グローブボックスを開ける。



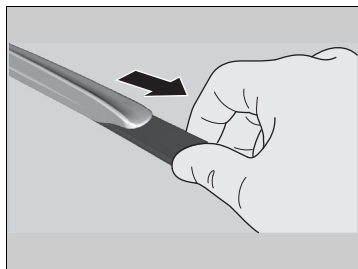
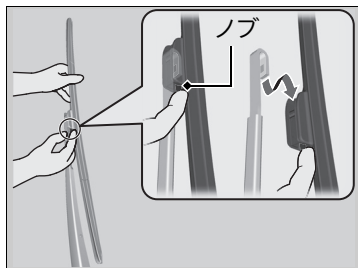
2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

ワイパーブレードラバーの点検と整備

ワイパーブレードラバーの点検

ワイパーブレードラバーが傷んでいると、拭きムラになったり、ウィンドーガラスを傷つけたりします。定期的にワイパーブレードの状態を点検し、傷んでいる場合は交換してください。

ワイパーブレードラバーの交換



1. 運転席側、助手席側の順にワイパーアームを起こす。
2. ノブを押し上げながら、アームからブレードをスライドさせて外す。
3. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。

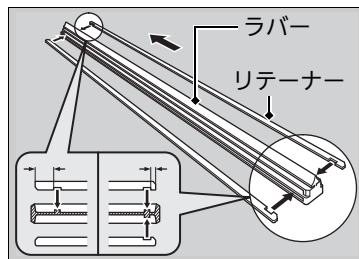
※ワイパーブレードラバーの交換

アドバイス

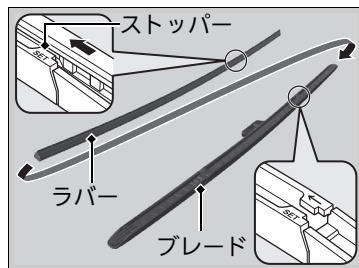
ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーアームを損傷します。

アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。



4. 引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付ける。
▶ ラバーの突起部とリテーナーの溝を正しく合わせてください。



5. ラバーをストッパーがない側からブレードに沿って差し込む。
▶ ラバーのストッパーがブレードのツメに挿入されるまで差し込み、確実に固定します。その後、ブレードをワイパーアームに取り付けます。

❏ ワイパーブレードラバーの交換

ワイパーアームを戻すときは、助手席側、運転席側の順に戻してください。

タイヤの点検

■タイヤの点検について

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができな
いばかりか乗り心地も損なわれます。

安全な走行のために求められるタイヤの条件は下記のとおりです。

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

これらの条件を満たすために下記の点検を行い、常にタイヤを最適な状態に
保ってください。

■日常的な点検

乗車前に必ず行う点検です。下記の項目を確認し、状況によってはメンテナ
ンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか？
▶ つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか？
▶ 状況に応じて、タイヤを交換してください。

■タイヤの点検について



警告

**摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でない
タイヤを使用しない。**

不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害
や死亡に至る事故につながるおそれがあり
ます。

**必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用
する。**

不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害
や死亡に至る事故につながるおそれがあり
ます。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってある
ラベルにも記載されています。

この取扱説明書が手元がない場合は、車のラ
ベルをご覧ください。

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種
類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお
使ってください。

サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタ
イヤを使用すると、ABS、VSA、CMBS*、
ACC*、LKAS* などが正常に機能しなくな
ったり、動力伝達装置に悪影響を与えたりしま
す。

■空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。

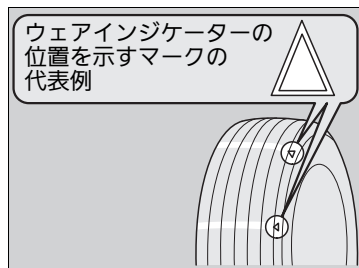
タイヤの指定空気圧は、巻末の資料を参照してください。

▶仕様 P.274

■損傷、異物、摩耗の点検

下記の項目を点検してください。

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か？
 - ▶ 異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか？
 - ▶ 裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- 接地面とウェアインジケーターが同じ高さになっていないか？



ウェアインジケーター(摩耗限界表示)

ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が1.6mm浅くなっています。

接地面が摩耗して、ウェアインジケーターと同じ高さになったら、タイヤを交換してください。

▶▶ タイヤの点検について

タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。

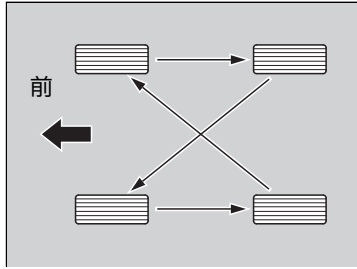
必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。

タイヤが高温のときに空気圧を測っても、低温のときより高めになるため正しく測定できません。

タイヤのローテーション

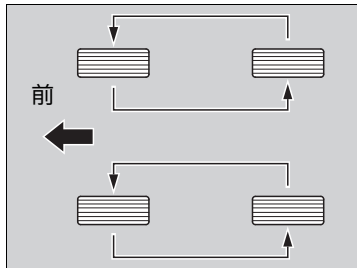
5,000km 走行したごとにタイヤローテーションをしてください。
 タイヤローテーションを行うのは、特定のタイヤが摩耗するのを防ぐためです。

■回転指示マークがないタイヤの場合



左図のように、タイヤをローテーションさせます。

■回転指示マークがあるタイヤの場合

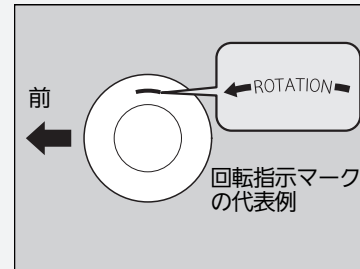


左図のように、タイヤをローテーションさせます。

※タイヤのローテーション

タイヤ回転方向が指定されているタイヤには、**タイヤ回転指示マーク**があります。

下図のように回転指示マークが前へ向くように取り付けてください。

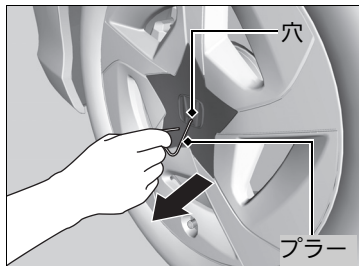


締め付けトルク

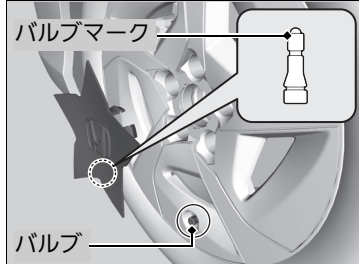
108 N・m (11 kgf・m)

■センターキャップの外しかた

センターキャップを外すと、ホイールナットがあります。

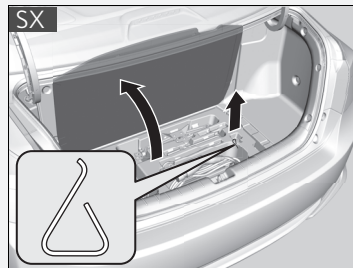
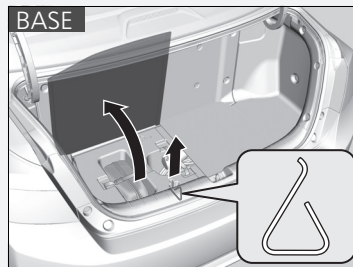


プラーをセンターキャップの穴に差し込み、まっすぐに引くと外れます。



センターキャップを取り付けるときは、裏面にあるバルブマーク部がバルブの位置にくるようにします。

☒センターキャップの外しかた



プラーは、トランク内に収納されています。

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤやタイヤチェーンを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。

また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。

タイヤチェーンおよびスノータイヤは、走行条件や法令により装着が必要とされた場合に使用します。

装着する場合は、下記のポイントを参照してください。

スノータイヤ

- 四輪とも同じ種類のタイヤを選ぶ
- 四輪すべてにスノータイヤを装着する

タイヤチェーン

- Honda 純正スチールチェーンを、付属の取扱説明書にしたがって前輪に装着する
- タイヤサイズに適合したチェーンを装着する
- ブレーキラインやサスペンションと接触していないか確認する
- ゆっくり走行する

❖冬期のタイヤ

アドバイス

サイズが不適切なチェーンを装着したり、装着のしかたが不適切だと、車のブレーキライン、サスペンション、ボディー、ホイールを損傷するおそれがあります。

チェーンが車のどこかに当たる場合、ただちに走行をやめてください。

タイヤチェーンは前輪に装着します。

後輪には、タイヤチェーンを装着しないでください。

タイヤチェーンを装着したときは、30km/h以下の速度で走行してください。

なお、乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したまま走行するのは避けてください。タイヤチェーンの摩耗を早めます。

Honda スマートキーの取り扱いと電池交換

■ 取り扱いについて

Honda スマートキーの取扱いは、下記の点に注意してください。

- 発信器を落としたり投げたりしない
- 温度が極端に高い / 低い場所に置かない
- 液体にひたさない

■ 電池交換のしかた

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。

ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。電池を交換してください。

■ Honda スマートキー



ボタン電池 CR2032

1. レバーを引きながら、内蔵キーを取り出す。

※ 取り扱いについて

Honda スマートキーをなくした場合は、Honda 販売店へご連絡ください。

※ 電池交換のしかた



注意

電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意する。

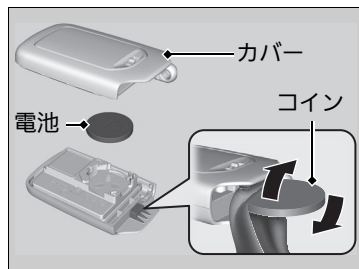
飲み込むと傷害を受けるおそれがあります。

電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、Honda 販売店での交換をおすすめします。

電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。

確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。

電池は Honda 販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。



2. カバーを外す。

- ▶ ボタンを紛失しないよう丁寧に取り外してください。
- ▶ カバーに傷が付かないように、コインに布などを巻いてカバーを取り外します。

3. ⊕と⊖を間違えないよう、電池を交換する。

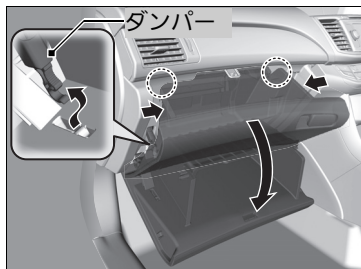
エアークリーンフィルター

■エアークリーンフィルターの交換時期

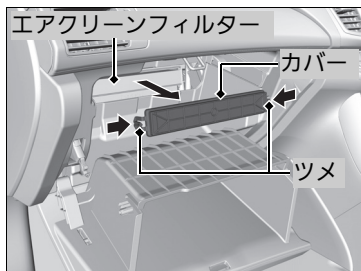
エアークリーンフィルターは、通常 1 年または 15,000km ごとに交換してください。

粉じんなどの多い場所で使用される場合は、早めの交換をおすすめします。

■エアークリーンフィルターの交換



1. グローブボックスを開け、ダンパーを外す。
2. グローブボックスの両側に付いているストッパーを内側に押し込み、グローブボックスを下ろす。



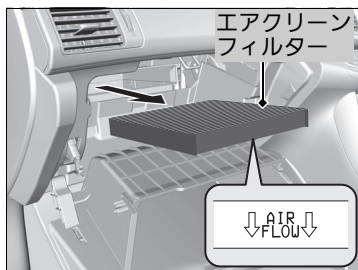
3. 左右にあるツメを押しながら、エアークリーンフィルターケースのカバーを外す。

※エアークリーンフィルター

芳香剤を使用すると脱臭効果が弱くなり、脱臭寿命が短くなることがあります。

エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。

アレルフリー高性能脱臭フィルターは、空気中の花粉・粉じんを集じんし、アレルゲンを処理、排気ガス臭も低減します。



4. エアクリーンフィルターを引き出す。
5. 新品と交換する。
 - ▶ 「AIR FLOW」マークの矢印が、下向きになるように取り付けます。

日常のお手入れ

■ 走行後のお手入れ

走行後は、塗装面に付着したほこりなどを毛はたきなどで払い落としてください。飛び石などによる塗装面の傷は錆の原因になります。見つけたら早めに補修してください。

■ 洗車について

月に一度は洗車をするようにしてください。

以下の場合、必ず洗車をしてください。

- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- 海岸地帯を走行したとき
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき

車内の清掃

内装の清掃は、掃除機で塵やほこりを取り除いてから汚れを落としてください。ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものを柔らかい布に軽く含ませ、固く絞って汚れを落とします。その後、真水を含ませたきれいな布で、洗剤分をきれいに落としてください。

■ シートベルトの清掃

ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものをブラシにつけて清掃し、その後空気乾燥させます。

※ 洗車について

凍結防止剤を散布した道路や、海岸地帯を走行したときの洗車は、フェンダーの内側を念入りに洗ってください。

※ 車内の清掃

室内に水をかけないでください。

オーディオやスイッチなどの電装品に水がかかると故障の原因となります。

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。

故障や車両火災の原因となるおそれがあります。万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda 販売店にご相談ください。

ケミカル類、液体芳香剤は成分により、樹脂部品、布材の変色、しみ、ひび割れなどを起すことがあります。

ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤、酸、アルカリ性の溶剤は使用しないでください。

ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。

使用した布をそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

液体芳香剤は、こぼさないよう確実に固定してください。

■ 本革のお手入れ

本革巻ハンドルなどは、ウール用中性洗剤の 10% 水溶液を柔らかい布に軽く含ませ汚れを落とします。その後、真水を含ませた柔らかい布で洗剤分を拭き取り、風通しをよくして乾燥させます。

汚れが付着したらすぐに拭き取ってください。

■ 車外の清掃

洗車は、十分に水をかけながら、下回り、足回りの汚れを落とします。塗装面は、屋根から順に下のほうへ水をかけながら、スポンジかセーム革のような柔らかいもので洗います。

汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い、水で完全に洗剤を落としてから水が乾かないうちに拭き取ります。

■ 自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納する
- ワイパースイッチを OFF にする

■ 高圧洗浄機を使うとき

- 洗車ノズルと車体の距離を十分に離す
- ウィンドーまわりは、近づけすぎると室内に水が入ることがあるため、特に注意して行う
- エンジンルームには水をかけない

■ 車外の清掃

故意に空気取り入れ口や、エンジンルームに水をかけないでください。

故障の原因になります。



■ワックスをかけるとき

ワックスは、月に1回程度または水をはじかなくなったときにかけてください。洗車した後や、車体表面温度が体温以下に下がっているときにかけるようにしてください。

■バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品に、ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着するとしみや塗膜はがれの原因となります。付着した場合は、すぐに柔らかい布で拭き取ってください。

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■はっ水ガラスについて

前席ウィンドー（ドアガラス）にははっ水膜がコーティングしてあり、水滴をはじきます。水洗いするか、柔らかい湿った布などで拭き取ってください。

ガラスクリーナーを使うと一時的に水はじきが悪くなるがありますが、水洗いをすれば元に戻ります。水はじきが悪くなったときは、Honda 販売店にご相談ください。

※ワックスをかけるとき

アドバイス

みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは、使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。

ワックスは Honda 純正ケミカル用品をお使いください。

※バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品の補修をする場合は、Honda 販売店にご相談ください。

不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

※ガラスのお手入れ

リヤガラスは、ガラスの内側に電熱線やアンテナ線が装着されています。

傷付けないよう、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

水滴をはじく効果の持続時間には限りがあります。長持ちさせるために次のことをお守りください。

- 泥などの汚れがひどいときは、開閉をなるべく行わない
- みがき粉(コンパウンド)入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わない
- 金属製のもので霜取りなどを行わない
- 自動洗車機を使うときは、先に泥などの汚れを落とす

■ アルミホイールのお手入れ

アルミは塩分や汚れを嫌います。道路凍結防止剤や海水が付いたときは、スポンジに中性洗剤を含ませ汚れを早めに落としてください。

■ ヘッドライト、制動灯の曇り

ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的に曇ることがあります。また、ランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。

これは雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。

また、ランプの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。但し、ランプ内に水がたまっている場合や大粒の水滴が付いている場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

■ アクアクリンミラー

雨天時の視認性向上のため、ミラー表面に付着した雨滴を膜のように広げる親水効果を持つコーティングを施しています。

■ 親水効果の回復

ミラー表面に汚れなどが付着して親水効果が低くなったときは、以下の手順を行うことにより効果が回復します。

1. ミラー表面を水洗いし、汚れを落とす。
2. 水を含ませたきれいな布で拭き取る。
 - ▶ 汚れが落ちない場合は純正ガラスクリーナーや家庭用中性洗剤を使用して洗淨後、十分な水で洗い流してください。
3. 5～9時間ほどミラー表面に太陽光を当てる。

※ アルミホイールのお手入れ

この車専用のホイールをお使いください。

専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換は、Honda 販売店にご相談ください。

硬いブラシやコンパウンド(研磨剤)の入った洗剤などは使わない。

変色やしみの原因になったり、傷をつけるおそれがあります。

※ アクアクリンミラー

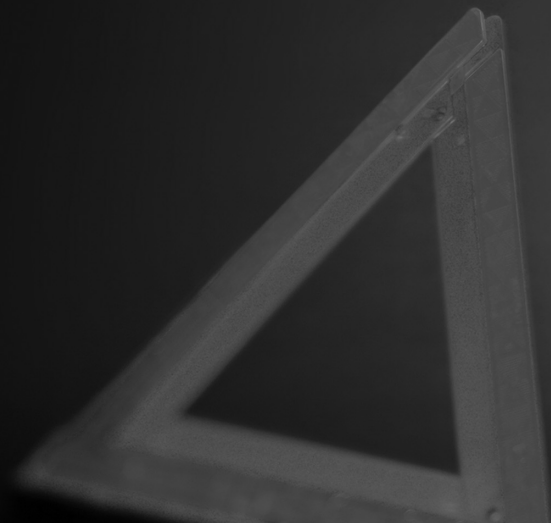
■ アドバイス

ミラーの親水効果が失われますので、以下の点にご注意ください。

- ミラー表面に撥水剤やワックスを付着させない
- 砂の付いた布や油膜取り剤(コンパウンドなど)でミラー表面をこすらない

万一の場合には

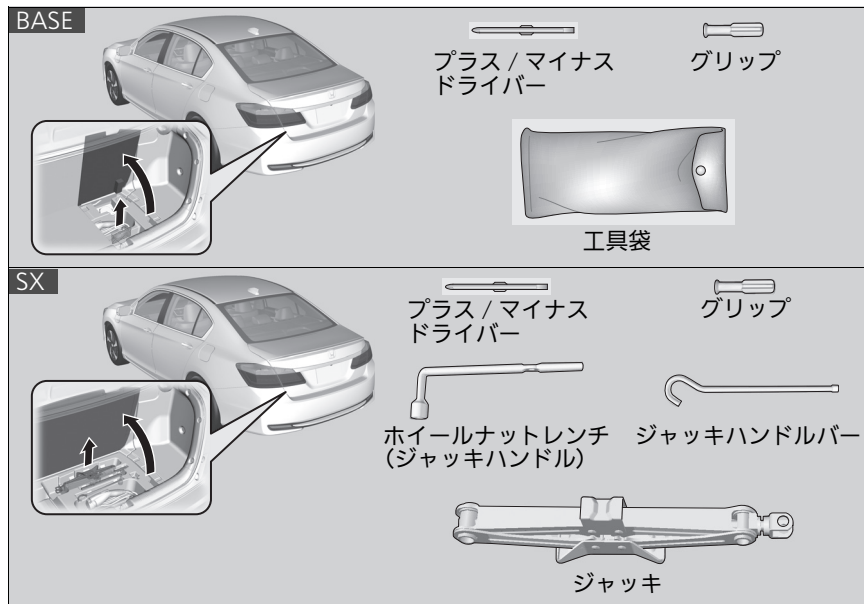
この章では、万一の場合の対応方法について記載しています。



工具、発炎筒.....	239
バンクしたとき.....	240
ジャッキの取り扱い*.....	251
パワーシステムが起動しない パワーシステムの確認.....	253
ジャンプスタート.....	257
セレクタレバーが動かない.....	259
オーバーヒート.....	260
警告灯の点灯 / 点滅.....	263

ヒューズ	
ヒューズの設置場所.....	266
ヒューズの点検と交換.....	269
けん引.....	270
フューエルリッドが開かないとき.....	271
充電用リッドが開かないとき.....	272

工具の種類



発炎筒

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。

発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使いかた
- 使用上の注意
- 発炎時間
- 有効期限

工具の種類

SX

ジャッキのかけかた P.251

発炎筒

警告

ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使わない。

火災や爆発のおそれがあります。

注意

発炎筒を使うときは、以下のことに注意する。

- お子さまにさわらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 顔や身体に向けないでください。思わぬ事故ややけどの原因になります。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

パンクしたタイヤの応急修理

運転中にタイヤがパンクしたときは、ハンドルをしっかりと握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。その後、特殊な薬剤でタイヤの内側から損傷を一時的に補修するタイヤパンク応急修理キットで応急修理をします。

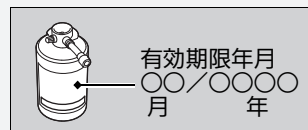
■ 走行中、パンクに気がついたときは

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. セレクトレバーを **P** に入れる。
3. パーキングブレーキをかける。
4. 非常点滅表示灯を点滅させ、パワーモードを OFF モードにする。

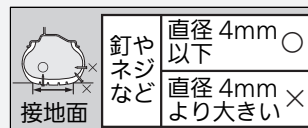
☒ パンクしたタイヤの応急修理

以下のような場合、**タイヤパンク応急修理キットは使用できません。Honda販売店またはロードサービスにご連絡ください。**

- 応急修理剤の有効期限が切れているとき



- タイヤが2本以上パンクしているとき
- 約4mm以上の切り傷や刺し傷によるパンクするとき
- 路面接地部以外が損傷を受けパンクしたとき

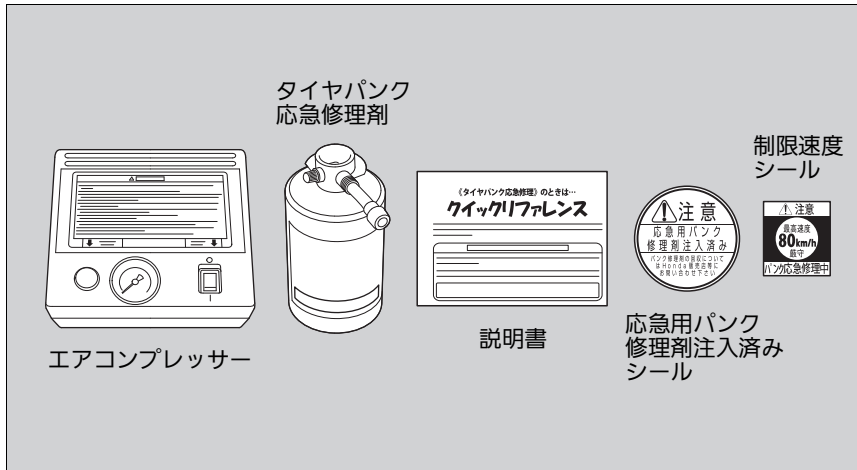


- ほとんど空気が抜けた状態で走行したとき
- タイヤがホイールから外れているとき
- ホイールが破損しているとき

タイヤに刺さったクギなどは抜かないください。

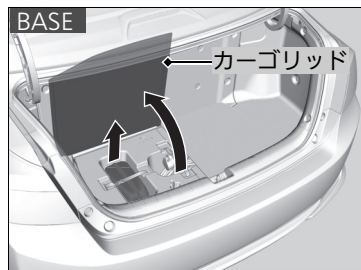
抜いてしまうと、タイヤパンクの応急修理キットでは応急修理が不可能になる場合があります。

タイヤ応急修理の準備

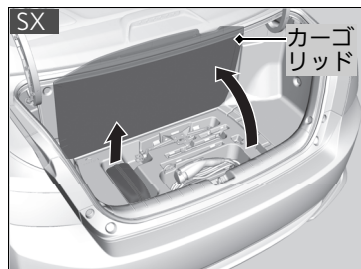


☒タイヤ応急修理の準備

応急修理をスムーズに行うため、タイヤパンク応急修理キットに付属の説明書をお読みください。

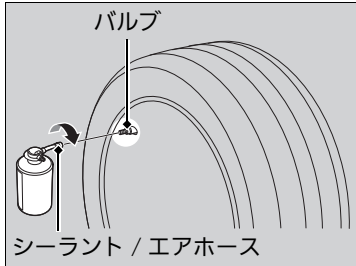
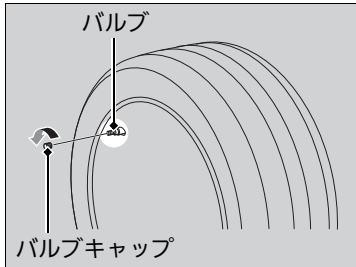


1. カーゴリッドを開ける。
2. タイヤパンク応急修理キットを取り出す。
3. 交通から遠ざけ、パンクしたタイヤ付近にキットを水平に置く。



万
一
の
場
合
に
は

応急修理剤とエアの注入



1. バルブからバルブキャップを取り外す。

2. 応急修理剤のボトルをよく振る。

3. タイヤのバルブにシーラント / エアホースをきつく締め付ける。

▶ シーラントがすべてタイヤに流れ込むようにボトルを垂直にする。

応急修理剤とエアの注入

⚠ 注意

応急用修理剤は、飲用すると有害で、致命的になりうる物質を含んでいます。

誤って飲用した場合、

- できるだけたくさん水を飲んでください。
- ただちに医師の診察を受けてください。

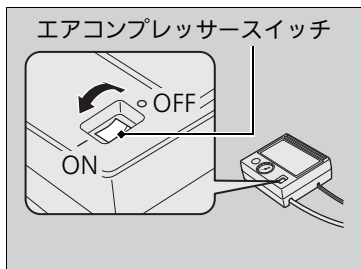
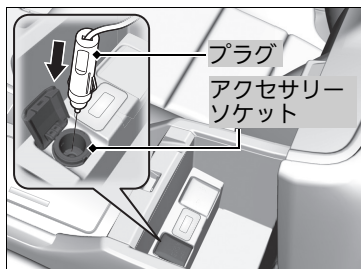
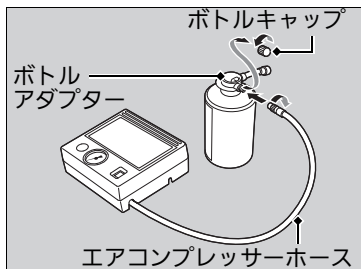
目に入ったり皮膚に付いた場合

- 水でよく洗い流してください。
- 異常を感じたときはただちに医師の診察を受けてください。

お子さまが誤って手を触れないよう、保管、取り扱いに注意してください。
ボトル・キャップを外した後、ボトルを振らないでください。修理剤がホースから飛び出るおそれがあります。

外気温が氷点以下のときはシーラントは容易に流れないかもしれません。使用前に約5分間暖めてください。

応急修理剤が衣類などに付着すると、落ちないおそれがありますのでご注意ください。



4. ボトルアダプターからボトルキャップを外す。
5. ボトルアダプターにエアコンプレッサーのエアホースをきつく締め付ける。

6. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリソケットに差し込む。
▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。

▶ アクセサリソケット P.144

7. パワーモードをアクセサリモードにする。
▶ 外気温が氷点下のときは、パワーモードを ON モードにしてください。

8. エアコンプレッサーのスイッチを ON にする。

▶ 指定空気圧 P.274

- ▶ コンプレッサーはタイヤにシーラントと空気を注入し始めます。

9. 指定の空気圧に達したら、エアコンプレッサーの電源を OFF にする。

- ▶ エアコンプレッサーの空気圧計を確認してください。

▶▶応急修理剤とエアの注入

警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。

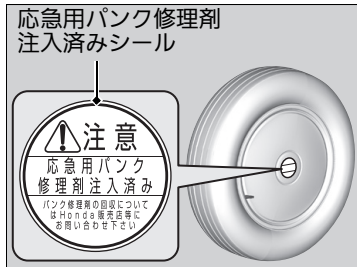
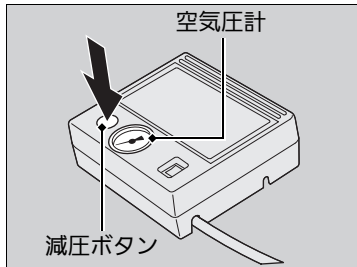
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

アドバイス

15分以上コンプレッサーを使用しないでください。

エアコンプレッサーは過熱し、破損するおそれがあります。



10. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリソケットから外す。
11. タイヤバルブからシーラント/エアホースを外しバルブキャップを取り付ける。
12. 減圧ボタンを押して、空気圧計が0kPaになるまで空気を抜く。
13. 修理が完了したタイヤに、応急用パンク修理剤注入済みシールを貼る。
 - ▶ タイヤのホイールの平らな部分に貼ってください。

❑応急修理剤とエアの注入

シーラントが注入されている間、圧力は一時的に高くなります。注入が完了すると圧力は落ちますが、再度上昇します。これは正常です。正しい空気圧を測定するためには、シーラントが注入された後にコンプレッサーの電源OFFしてください。

指定空気圧は、運転席側横の車体にある空気圧ラベルを確認してください。

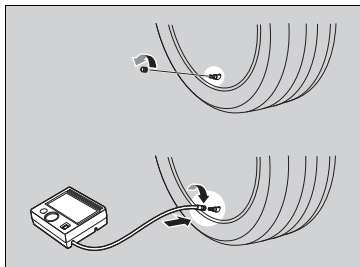
10分以内に指定空気圧にならないときは、応急修理剤による応急修理はできません。Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

タイヤパンク応急修理剤の購入および空きボトルの適切な処分については販売店にお尋ねください。

点検走行

応急修理剤および空気の注入後も、しばらくの間はパンク穴から空気が漏れています。法定速度を守って注意深く運転しながら空気圧を点検し、応急修理を完了させます。

なお、応急修理は特殊な薬剤でタイヤの内側から損傷を一時的に補修したものです。応急修理完了後も慎重に運転し、できるだけ早く Honda 販売店または専門修理工場で、タイヤの修理、交換を行ってください。



1. 10分または5km点検走行する。
 - ▶ 法定速度を守ってください。高速道路では80km/h以下を厳守してください。
2. 安全な場所に車を停める。
3. エアコンプレッサーに付属の空気圧計で空気圧を点検する。
 - ▶ エアコンプレッサーの電源をONにしないでください。
4. 空気圧
 - 130 kPa 未満のとき：
応急修理剤では修理できません。
空気を入れずHonda販売店またはロードサービスに連絡してください。
 - 指定空気圧以上のとき：
応急修理は完了です。高速道路では80 km/h以下で、法定速度を守ってHonda販売店または専門修理工場でタイヤの修理、交換を行ってください。

点検走行

⚠ 注意

走行中異常を感じたら、ただちに運転を中止する。

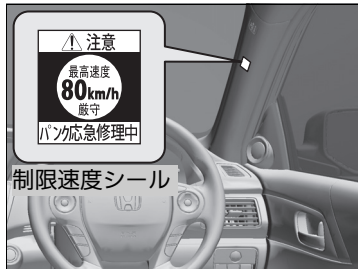
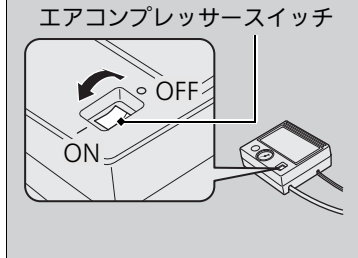
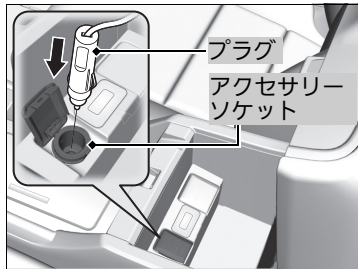
応急修理剤での補修が不完全な場合、空気圧が低下して安定性を損なうおそれがあります。運転をやめ、Honda販売店またはロードサービスに連絡してください。

空気圧点検時は、最小空気圧に注意する。

空気圧が最小空気圧※より低くなっていたら、応急修理剤では修理できません。Honda販売店またはロードサービスに連絡してください。

※ 最小空気圧 = 130kPa (1.3kgf/cm²)

走行前に、エアコンプレッサー、空ボトルなどの積み忘れがないか、しっかりと確認してください。



- 130 kPa以上で指定空気圧以下のとき：
エアコンプレッサーを使って指定の空気圧まで高める。
Honda 販売店または専門修理工場に到着するまで、ステップ 1 から 3 までを繰り返す。

5. 速度制限シールを、運転者のよく見える位置に貼る。
6. キットを車両に収納する。

点検走行

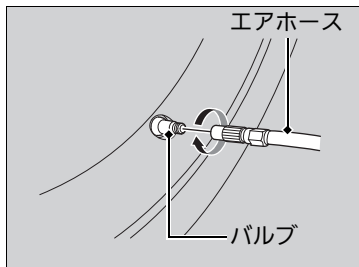
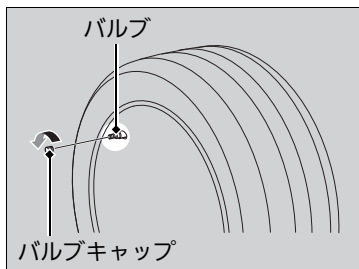
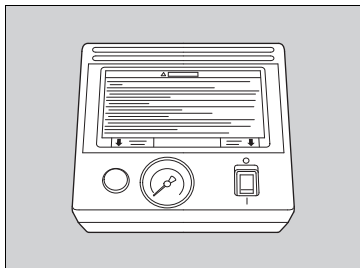
注意

ハンドルのパッドにシールを貼らない。
SRS エアバッグが正常に機能しなくなります。

警告灯やスピードメーターが見えない位置に貼らない。
安全運転の妨げとなります。

■タイヤ空気圧の補充

このキットを使ってパンクしていないタイヤの空気圧を補充することができます。

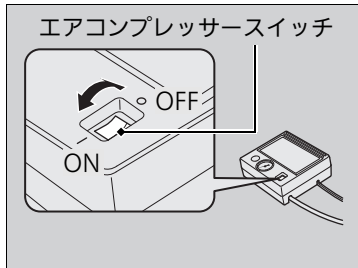
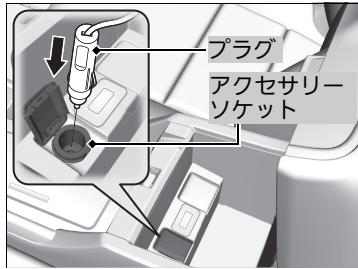


1. カーゴリッドを開ける。
2. タイヤパンク応急修理キットを取り出す。
3. 交通から遠ざけ、空気を補充するタイヤ付近にキットを水平に置く。
4. バルブからバルブキャップを取り外す。
5. エアコンプレッサーのエアホースをタイヤのバルブにきつく締め付ける。

※タイヤ空気圧の補充

アドバイス

15分以上コンプレッサーを使用しないでください。
エアコンプレッサーは過熱し、破損するおそれがあります。



6. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリソケットに差し込む。

▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。

▶ **アクセサリソケット** P.144

7. パワーモードをアクセサリモードにする。

▶ 外気温が氷点下のときは、パワーモードを ON モードにしてください。

8. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、指定の空気圧まで高める。

▶ コンプレッサーはタイヤに空気を注入し始めます。

▶ もしパワーシステムを起動させたなら完了するまで停止させないでください。

⚠タイヤ空気圧の補充



一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

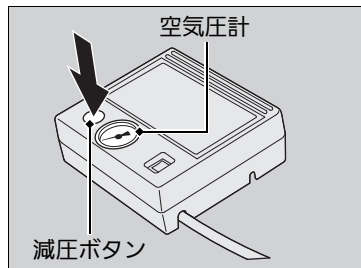
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。

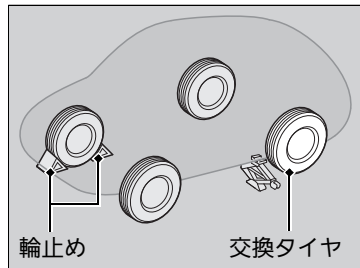
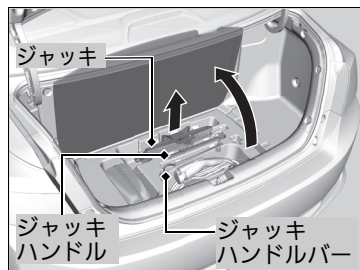
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。



9. エアコンプレッサーのスイッチを OFF します。
 - ▶ エアコンプレッサーの空気圧計を確認してください。
 - ▶ もし空気圧が高ければ、減圧ボタンを押して減圧します。
10. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリースOCKETから外す。
11. タイヤバルブからシーラント / エアホースを外しバルブキャップを取り付ける。
12. 減圧ボタンを押して空気圧計が 0kPa になるまで空気を抜く。
13. キットを車両に戻す。

ジャッキのかけかた



1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. セレクトレバーを **P** に入れる。
3. パーキングブレーキをかける。
4. パワーモードを OFF モードにする。
5. カーゴリッドを開けて、ジャッキ、ジャッキハンドルバー、ジャッキハンドルを取り出す。
6. 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪止めをする。
7. 交換するタイヤに最も近いジャッキポイントの下にジャッキを置く。

※ジャッキのかけかた

⚠ 警告

車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。

車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

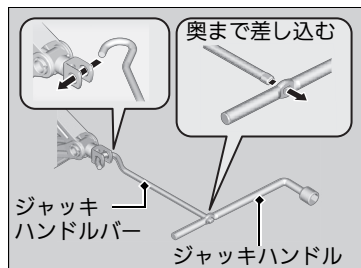
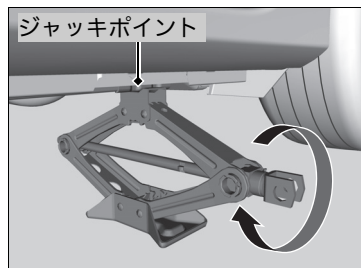
⚠ 注意

ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。

- パワーシステムを起動したままにしない
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ジャッキポイント以外にかけない
- 人や荷物を乗せたままにしない
- ジャッキ使用中に車内に入らない
- ジャッキの上や下に物を入れたりしない

この車に搭載されているジャッキをお使いください。

このジャッキで別の車を上げたり、この車を上げるために別の車のジャッキを使用した場合、車両がジャッキが破損することがあります。



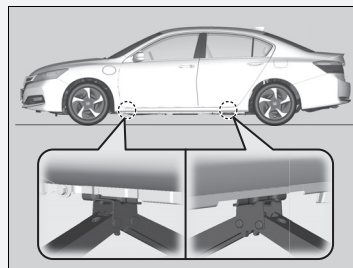
8. ジャッキの上部がジャッキポイントに接触するまで図の部分を実印の方向に回す。

▶ ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認します。

9. ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。

※ジャッキのかけかた

ジャッキポイントは、下記の通りです。



パワーシステムが起動しない

パワーシステムの確認

READY 表示灯が点灯せず、「READY TO DRIVE」がマルチインフォメーションディスプレイに表示されない場合、以下のことが考えられます。項目を確認し、適切な処置を行ってください。

❏ パワーシステムの確認

すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。

❏ ジャンプスタートの方法 P.257

項目	状況	対処のしかた
関連した警告灯が警告メッセージが表示されるかどうかを確認する	「充電コネクターが接続されています」と表示される	充電ケーブルを取り外します。パワーモードをいったんアクセサリモードにし、もう一度パワーモードをONモードにしてください。
	「外気温が低いために始動できません」と表示される	❏ マルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージ P.77
	「キーでスイッチに触れて下さい」と表示される ▶ Honda スマートキーの作動範囲を確認します。 ❏ POWER スイッチの作動範囲 P.119	❏ Honda スマートキーの電池が切れたとき P.255
室内灯の明るさを確認する	パワーシステム警告灯が点灯する	Honda 販売店で点検を受けてください。
	室内灯などが非常に暗い、または全く点灯しない場合	Honda 販売店で12Vバッテリーの点検を受けてください。
セレクトレバーの位置を確認する	室内灯などの明るさに問題がない場合	全てのヒューズを確認するか、Honda 販売店で点検を受けてください。 ❏ ヒューズの点検と交換 P.269
	セレクトレバーが P または N 以外になっている	セレクトレバーを P にしてください。

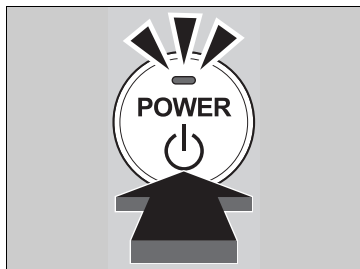
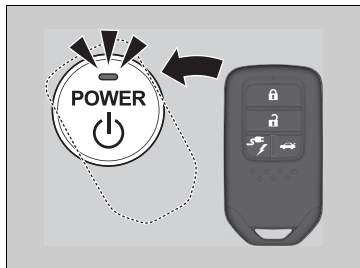
項目	状況	対処のしかた
イモビライザーシステム表示 灯を確認する	イモビライザーシステム表示灯が点滅している	➡ イモビライザーシステム P.114
ヒューズを点検する		全てのヒューズを確認してください。 ➡ ヒューズの点検と交換 P.269

以上の確認をしてもパワーシステムが起動しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

Honda スマートキーの電池が切れたとき

ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「キーでスイッチに触れて下さい」とメッセージが表示されるか、**POWER** のインジケーターが点滅しているときは、READY 表示灯が点灯しません。

以下の手順でパワーシステムを起動してください。



1. **POWER** を押す。
 - ▶ 「ピーピーピーピーピー」とブザーが鳴り、インジケーターが約30秒間点滅します。
2. インジケーターが点滅している間に、Honda スマートキーの Honda エンブレムをスイッチに接触させる。
 - ▶ 「ピッ」とブザーが鳴り、インジケーターが約 10 秒間点灯します。
3. インジケーターが点灯している間に、右足でブレーキペダルを踏みながら、**POWER** を押す。
 - ▶ ブレーキペダルを踏んでいないときは、アクセサリモードになります。

緊急時のパワーシステム停止方法

POWER によるパワーシステムの停止ができなくなった場合は、以下のいずれかを行ってください。

- **POWER** を 2 秒間押す
- **POWER** を連続して 2 回押す

このとき、ハンドルロックはされていません。

セレクトレバーを **P** に入れてから、パワーモードをOFFモードにしてください。

緊急時のパワーシステム停止方法

緊急時など必要な場合以外は、走行中に **POWER** を押さないでください。

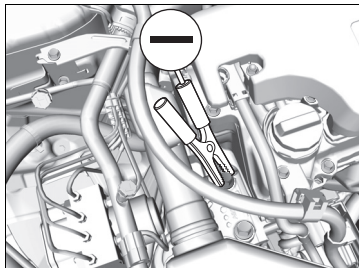
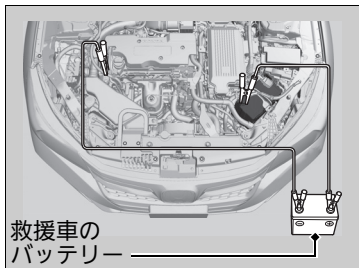
ジャンプスタートの方法

処置のしかた

まず、ボンネットを開け、12Vバッテリーの状態を確認します。バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。

次に、オーディオやライトなどの電源をOFFにしてください。

ブースターケーブルのクリップは、エンジンの振動などで外れないように確実に固定してください。また、ケーブルの巻き込みに注意してください。



1. 自車と救援車のパワーシステムを停止する。
2. ブースターケーブルを、自車の12Vバッテリーの⊕端子に接続する。
3. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの⊕端子に接続する。
 - ▶ 救援車には、12Vのバッテリーを装着している車を使用してください。
 - ▶ 自動車用充電器を使用する場合は、電圧を15V以下に設定してください。
4. もう1本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの⊖端子に接続する。
5. ケーブルの反対側を、自車のエンジンマウントボルトに接続する。
6. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。
7. 自車のパワーシステムを起動する。

ジャンプスタートの方法



警告
ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。

ジャンプスタートの操作を間違えると、12Vバッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。

タバコの火、火花、炎をバッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

アドバイス

気温が極端に低い場所にバッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。

バッテリー液が凍結したバッテリーでジャンプスタートすると、バッテリーが壊れることがあります。

寒冷時は、バッテリーの性能が低下します。エンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。

ケーブルをエンジンマウントボルト以外に接続しないでください。
バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。

バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。

■ システム起動後の作業

自車のパワーシステムが起動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外します。

1. 自車のエンジンマウントボルトからケーブルを外す。
2. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊖ 端子から外す。
3. 自車の 12V バッテリーの ⊕ 端子からケーブルを外す。
4. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子から外す。

Honda 販売店で点検を受けてください。

※ システム起動後の作業



警告

12V バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。

12V バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、12V バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。

12V バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda 販売店で 12V バッテリーのメンテナンスを受けてください。

バッテリー液の取り扱いに注意する。

バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。

- 万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 5 分間以上洗浄する
- 飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲む

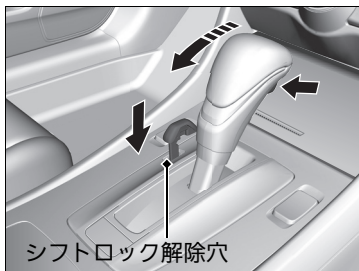
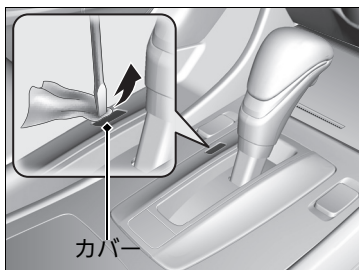
応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

セレクトレバーが動かない

セレクトレバーが、**P** の位置でロックされて動かなくなったら、下記の方法で解除してください。

■ ロックを解除する



1. パーキングブレーキをかける。
2. パワーモードを OFF モードにする。
3. 細いマイナスドライバーの先端に布を巻き、シフトロック解除穴のカバーを外す。
▶ マイナスドライバーの先端を、図のように切り欠きに入れて外します。
4. シフトロック解除穴に内蔵キーを差し込む。
5. キーを押しながらセレクトレバーのボタンを押し、セレクトレバーを **N** に入れる。
▶ ロックが解除されました。Honda 販売店で、早めに点検を受けてください。

オーバーヒートしたときの対処方法

次のようなときは、オーバーヒートです。

- マルチインフォメーションディスプレイに「温度上昇のため出力が制限されます」とメッセージが表示される
- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」と表示される
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

■ マルチインフォメーションディスプレイに「温度上昇のため出力が制限されます」とメッセージが表示されたとき

パワーシステムが高温になると、マルチインフォメーションディスプレイに「温度上昇のため出力が制限されます」とメッセージが表示されます。

☑ マルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージ P.73

1. ただちに車を安全な場所に停める。
 - ▶ セレクトレバーを **[P]** に入れ、パーキングブレーキをかけます。すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。
2. パワーシステムを起動したまま、警告メッセージが消えるのを待つ。
 - ▶ 警告メッセージが消えない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」とメッセージが表示されたとき

■ 最初にすること

1. ただちに車を安全な場所に停める。
2. すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。
 - ▶ 蒸気が出ていない場合：パワーシステムを起動したままボンネットを開ける。
 - ▶ 蒸気が出ている場合：パワーシステムを停止し、蒸気が出なくなってからボンネットを開ける。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」とメッセージが表示されたとき



警告

蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けない。

ラジエーターから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

エンジンが熱いうちにラジエーターキャップを外さない。

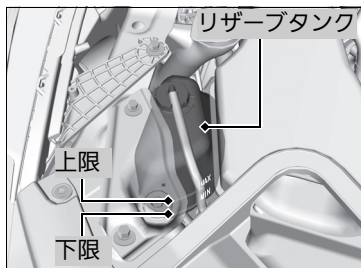
冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずラジエーターが十分に冷えてからキャップを外してください。

アドバイス

マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」とメッセージが表示された状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

冷却水がもれている場合は、Honda 販売店に修理を依頼してください。

■次にすること



1. 冷却ファンの作動を確認し、マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」のメッセージが表示されなくなったらパワーシステムを停止する。
▶ 冷却ファンが作動していない場合は、すぐにパワーシステムを停止します。
2. エンジンが冷えてから冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。
▶ 冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

■最後にすること

- 十分にエンジンが冷えたら、パワーシステムを起動する。
「エンジン冷却水高温」のメッセージが消えた場合は、運転を再開します。消えないときは、Honda 販売店に修理を依頼します。

油圧警告灯が点灯した



■点灯の理由

エンジン内部を潤滑しているオイルの油圧が低下すると点灯します。

■点灯したらすぐのこと

1. ただちに車を水平で安全な場所に停車する。
2. 非常点滅表示灯を点滅させる。

■車を停車してからすること

1. パワーシステムを停止し、3分間ほど放置する。
2. ボンネットを開け、エンジンオイルの量を確認する。
 - ▶ 必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。
3. パワーシステムを起動し、油圧警告灯を確認する。
 - ▶ 消灯した：運転を再開してください。
 - ▶ 10秒以内に消灯しない：パワーシステムを停止して、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

12V バッテリー充電警告灯が点灯した



■点灯の理由

12V バッテリーが充電されていないと点灯します。

■点灯したらすること

電気の消費を減らすため、エアコン、リヤデフロスターなどを OFF にして、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

※油圧警告灯が点灯した

アドバイス

油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります。

PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した



■点灯 / 点滅の理由

- エンジンの排気ガス制御システムが異常のとき点灯します。エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅します。
- フューエルリッドを手動で開けて給油した後、運転中に点灯する場合があります。

■点灯したときは

高速走行を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

■点滅したときは

枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを止めて冷えるまでお待ちください。

ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した



■点灯の理由

- ブレーキフルードが減っているときに点灯します。
- ブレーキ配分機能が異常のときに点灯します。

■走行中に点灯したらすること

- ブレーキペダルを軽く踏んで、ペダルの圧力を確認する。
- ブレーキフルード量を確認する。

▶▶ PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した

アドバイス

PGM-FI 警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります。

エンジン再始動後再び点滅するときは、50km/h 以下の速度で最寄りの Honda 販売店まで走行し点検を受けてください。

▶▶ ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した

ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

ブレーキフルードが減っている状態で運転することは危険です。

ブレーキペダルに抵抗がない場合は、ただちに安全な場所に車を停めてください。必要に応じて、ギヤを落とします。

ABS 警告灯と同時に点灯した場合は、急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性があります。高速走行や急ブレーキを避けてください。ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

ブレーキシステム警告灯(オレンジ)と同時に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店で点検を受けてください。

EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯が点灯した



■点灯の理由

- EPS が異常のときに点灯します。
- 停車中にエンジンの空ぶかしを行うと点灯し、ハンドルが重くなる場合があります。

■点灯したらすること

- 安全な場所に停車し、パワーシステムを再起動する

その後も走行中に点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズの設置場所

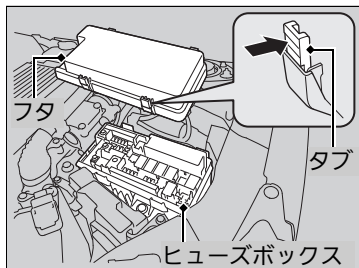
電気装置が作動しない場合、パワーモードをOFFモードにして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、2つのヒューズボックスに入っています。

■エンジンルーム内のヒューズボックス

エンジンルーム内の助手席側に付いている12Vバッテリーの隣にあります。タブを押して開けてください。

ヒューズボックスのフタに、ヒューズの場所が表示してあります。

ヒューズ番号とフタの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。



■各ヒューズの装備と容量

容量に()がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

	表示	装備	容量
1		バッテリー	150A
		EPS	70A
2		ESB	40A
		ウォーターポンプ	20A
		ヒューズボックス	
		オプション 1	40A
		ABS/VSA モーター	(30A)
		RFC	40A
3		イグニッション	
		メイン 1	30A
		ヘッドライト	30A
		ロービームメイン	30A
		—	(30A)
4		イグニッション	
		メイン 2	30A
		ワイパーモーター	30A
5		FI メイン	15A
6		PCU ウォーターポンプ	7.5A
6		EVTC	20A

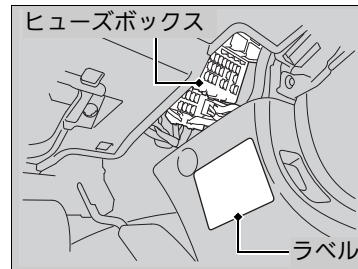
	表示	装備	容量
7		IG ホールド	10A
8		ドライブバイワイヤ	15A
9		イグニッション コイル	15A
10		制動灯	10A
11		FI サブ	15A
12		ヒューズボックス	
		メイン 2	60A
		リヤデフロスター	50A
		ヒューズボックス	
		メイン 1	60A
		ABS/VSA FSR	40A
		ヘッドライト	30A
		ハイビームメイン	30A
		ABS/VSA モーター	30A
		運転席側 E-ブリ テンショナー※1	(30A)
13		助手席側 E-ブリ テンショナー※1	(30A)
		車幅灯	20A
		ヒューズボックス	
14		オプション 2	40A
13	—	—	—
14		ヒーターモーター	40A

※1 : CMBS 装備車

表示	装備	容量
15	⌘ フォグライト	(15A)
16	📣 ホーン	10A
17	📖 IG Hold 3-L/R	15A
18	☀️ 室内灯	7.5A
19	🔌 —	(7.5A)
20	📖 IGC/ プレミアムアンプ	15A
21	📖 バックアップ	10A
22	🎧 オーディオ	15A
23	📖 ファンタイマー	7.5A
24	🔌 右側ヘッドライト ロービーム	15A
25	🔌 左側ヘッドライト ロービーム	15A
26	—	—

室内のヒューズボックス

アクセルペダルの上にあります。
ヒューズボックスの下に、ヒューズの場合が表示してあります。
ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。



■各ヒューズの装備と容量

表示	装備	容量
1	☀️ エアコン	7.5A
2	—	—
3	—	—
4	—	—
5	🕒 メーター	10A
6	👤 SRS エアバッグ	7.5A
7	📖 オプション	7.5A
8	—	—
9	🚗 フェューエルポンプ	20A

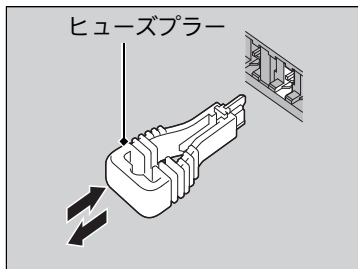
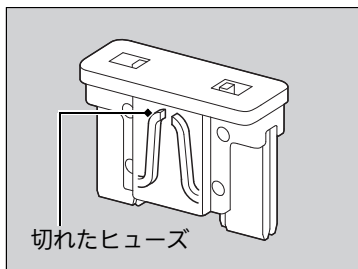
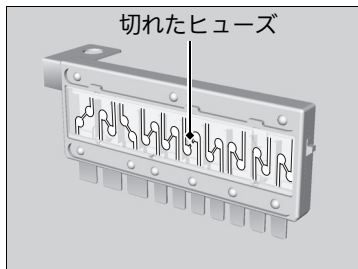
表示	装備	容量
10	📖 ABS/VSA	7.5A
11	—	—
12	🗑️ フロントワイパー	7.5A
13	📖 発電機	15A
14	📖 アクセサリーソケット (センターコンソール内)	20A
15	🚗 運転席パワーシート (リクライニング)	20A
16	—	—
17	🚗 前席シートヒーター	20A
18	🔌 充電用リッド	10A
19	🚗 運転席側ドア アンロック	10A
20	🚗 助手席側ドア アンロック	10A
21	—	—
22	🚗 運転席側ドアロック	10A
23	—	—
24	👤 SRS エアバッグ	10A
25	📖 (INTR) 室内イルミネーション	10A
26	📖 キーロック	7.5A
27	📖 (EXTR) 車幅灯	10A
28	🚗 ランバーサポート	10A

万1の場合には

	表示	装備	容量
29		右側ヘッドライト ハイビーム	10A
30		ウォッシャー	15A
31		エアコンメイン	10A
32		運転席パワー ウィンドー	20A
33		助手席パワー ウィンドー	20A
34		後席左側パワー ウィンドー	20A
35		後席右側パワー ウィンドー	20A
36		運転席パワーシート (前後スライド)	20A
37		アクセサリ	7.5A
38	—	—	—
39		左側ヘッドライト ハイビーム	10A
40		シガレットライター	20A
41		助手席側ドアロック	10A
42		ドアロック	20A
a		Honda スマート キーシステム	10A
b		ハイブリッド システム	15A

	表示	装備	容量
c		ハイブリッド システム	10A
d		非常点滅表示灯	15A
e		助手席パワーシート (リクライニング)	20A
f		助手席パワーシート (前後スライド)	20A
g		後席シートヒーター	15A
h		アクティブ コーナリングライト	15A

ヒューズの点検と交換



1. パワーモードを OFF モードにし、ヘッドライトとすべてのアクセサリを OFF にする。
2. ヒューズボックスのフタを取り外す。
3. エンジンルーム内の大きいヒューズを点検する。
 - ▶ 切れているヒューズがあったら、プラスチックドライバーでネジを外し、新しいものと交換してください。
4. エンジンルーム内と、室内の小さいヒューズを点検する。
 - ▶ 切れているヒューズがあったら、ヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。

❏ ヒューズの点検と交換

アドバイス

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。

❏ 各ヒューズの装備と容量 P.266、267

エンジンルーム内のヒューズボックスには、フタの裏にヒューズプラーがついています。ヒューズプラーは、切れている小さいヒューズを引き抜くときに使います。

非常時のけん引

けん引するときは、Honda 販売店にご連絡ください。

けん引は、四輪または前輪を持ち上げて行います。

※非常時のけん引

アドバイス

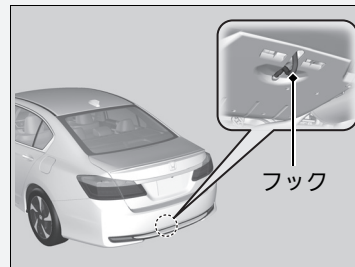
バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。

バンパーは車の重量を支えるようにはできていません。

車輪が動かないときなど動力伝達装置に異常があると思われるときは、四輪または前輪を持ち上げてけん引してください。

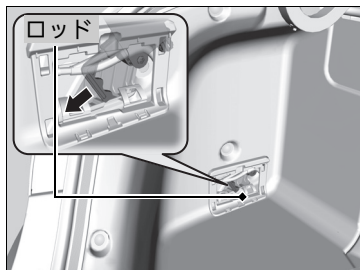
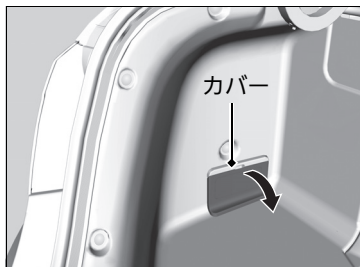
車両後方についているフックを他車のけん引や緊急時の脱出に使用することはできません。

フックが破損するおそれがあります。後方からけん引する必要がある場合は、Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。



開かないときの対処方法

万一、フューエルリッドが開かなくなったときは、応急処置として次の方法で解錠してください。



1. トランクを開け、左側面にあるカバーを開ける。
2. 解除レバーを図の方向に引く。
 - ▶ 解除レバーを引くとフューエルリッドが開きます。
3. ツマミをゆっくり回し、フューエルキャップを開ける。
 - ▶ 「シュー」という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。
 - ▶ 給油のしかた P.185
4. ゆっくりと給油する。
 - ▶ リッドを手動で解錠した場合、燃料タンクの減圧機構が作動しません。その状態で急に給油を行うと、燃料蒸気の圧力により燃料補給口から吹き返しが発生することがあります。

開かないときの対処方法



警告

燃料タンクには圧力がかかっています。

- 給油口を手動で開ける場合は、内圧をゆやかに抜くために、燃料キャップをゆっくり開けてください。
- エンジンを停止し、炎、火花を近づけないでください。

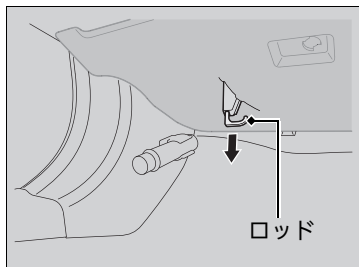
フューエルリッドを手動で開けて給油した後、運転中にPGM-FI警告灯が点灯する場合があります。

▶ PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した P.264

応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。

開かないときの対処方法

万一、充電用リッドが開かなくなったときは、応急処置として次の方法で開けてください。



1. 助手席の足元奥にあるロッドを矢印の方向に引く。
▶ リッドが開きます。

開かないときの対処方法

応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。

資料

この章には、仕様に関する情報が記載されています。

仕様	274
----------	-----

仕様

仕様

名称	アコード プラグイン ハイブリッド	
排気量	1,993 cm ³	
車体形状	4ドアセダン	
乗車定員	5名	

調整

点火プラグ	NGK	ILZKAR7E11S
電極のすき間	基準値	1.0-1.1mm

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。
・交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

確認

ブレーキペダル	遊び	1-5mm
	床板とのすき間	145mm以上 { 約 196N (20kgf) の力 }
	カーペットとのすき間 (参考値)	126mm以上 { 約 196N (20kgf) の力 }
パーキングブレーキ	踏みしろ	5~6ノッチ { 約 294N (30kgf) の力 }

燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)	
燃料タンク容量	46 ℓ	

■エアクリナーエレメント

タイプ	湿式
-----	----

■12Vバッテリー

容量 / タイプ	36Ah (5) / 46B24R
----------	-------------------

■ウォッシュャー液

タンク容量	2.5 ℓ
-------	-------

■電球

ヘッドライト (ロービーム)	LED
ヘッドライト (ハイビーム)	12V-60W ^{※1}
アクティブコーナリングライト	12V-35W ^{※1}
フォグライト	12V-35W ^{※1}
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯	12V-21W (橙色)
車輪灯	LED
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯	LED
制動灯 / 尾灯	LED
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	12V-21W (橙色)
後部側方灯	LED
尾灯	LED
後退灯	12V-16W
ハイマウントストップランプ	LED
番号灯	12V-5W
トランク照明灯	12V-5W
マップランプ	12V-8W
室内灯	12V-8W
パニティミラー照明灯	12V-1.4W
ドア開閉灯	12V-2CP ^{※2} (3.8W)
グローブボックス照明灯	12V-3.4W

※1 : ハロゲンバルブ

※2 : CP… キャンドルパワー (光度の単位)

■ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ウルトラ ブレーキフルード DOT3 または DOT4	
-----	--	--

■トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正 ウルトラ ATF-DW1 2.36 ℓ (交換時)	
-----	---------------------------------------	--

■推奨エンジンオイル

Honda 純正 エンジンオイル	ULTRA NEXT ^{※3}	
	ULTRA Green	
	ULTRA LEO	API SM/GF4 級 SAE 0W-20
	オイル交換時	3.5 ℓ
規定量	オイル、オイルフィルター同時交換時	3.7 ℓ

※3 : 最も省燃費性に優れたオイルです。

■冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラエクーラント	
規定濃度	50%	
規定量	5.34 ℓ (交換時 : リザーブタンク 0.71 ℓ 含む)	

■タイヤ

サイズ	225/50R17 94V	
空気圧 (kPa[kgf/cm ²])	前輪	225 (2.3)
	後輪	220 (2.2)
リムサイズ	17X7 1/2J	

数字

12Vバッテリー充電警告灯 65, 263

A

A/C(エアコン) 149

ABS(アンチロックブレーキシステム) 174

ABS警告灯 67, 174

ACC(アダプティブクルーズコントロール)

ACC警告灯 66

ACC表示灯 71

AT(オートマチックトランスミッション) .. 162

C

CMBS(衝突軽減ブレーキ) 177

CMBS警告灯 68

CRUISE CONTROL

(クルーズコントロール) 167

E

ECONスイッチ 165

ECON表示灯 71

ECOスコア 17, 86

ECOドライブディスプレイ 17, 87

EPS警告灯 68

ETC車載器 別冊

H

Hondaインターナビシステム 別冊

Hondaスマートキー 101, 102

Hondaスマートキーシステム警告灯 66

Hondaスマートキー持ち去り警告 121

POWERスイッチ 119

電池交換のしかた 230

Hondaスマートキーシステム警告灯 66

I

ISOFIX 54, 57

L

LKAS(レーンキープアシストシステム)

LKAS警告灯 66

LKAS表示灯 71

M

MIST 126

P

PGM-FI警告灯 64, 264

POWERスイッチ 119

S

SEL/RESETスイッチ 82

SPORT HYBRID i-MMD Plug-in

(インテリジェントマルチモードドライブ

プラグイン) 5

SRSエアバッグ 41

エアバッグシステム警告灯 48, 67

V

VSA(ビークルスタビリティアシスト) 170

VSA OFF警告灯 67

VSA OFFスイッチ 171

VSA警告灯 67

W

W(ワット数) 274

ア

アクアクリンミラー 237

アクセサリー 200

アクセサリーソケット 144, 244, 247, 249

アクティブコーナリングライト 123

電球の交換 215

アダプティブクルーズコントロール(ACC)

ACC警告灯 66

ACC表示灯 71

安全に関する表示 29

安全のための確認事項	33
アンチロックブレーキシステム(ABS)	174
ABS警告灯	67, 174

イ

一酸化炭素の危険性	61
イモビライザーシステム	114
イモビライザーシステム表示灯	70
イルミネーションコントロールノブ	128
インフォメーション表示灯	70

ウ

ウィンカースイッチ(方向指示器)	122
ウィンドーの開閉	116
ウィンドウォッシャー	
ウィンドウォッシャー液の補給	211
ウィンドウォッシャースイッチ	126
ウェアインジケーター	226

運

クルーズコントロール	167
シフト操作	163
パワーシステムの起動	158
ブレーキ操作	172

エ

エアコン	148, 232
エアクリンフィルター	232

エアコンの使いかた	149
窓の曇りや霜の取りかた	150
モード切り換えスイッチ	149

エアバッグ	41
SRSエアバッグ	41
エアバッグシステム警告灯	48, 67
エアバッグシステム故障診断記録装置	29
エアバッグのお手入れ	48
サイドエアバッグ	44
サイドカーテンエアバッグ	46
エアバッグシステム故障診断記録装置	29
エコアシストシステム	16
エネルギーフロー表示	88
エマージェンシーストップシグナル	176
エンジンオイル	211
推奨エンジンオイル	211
油圧警告灯	64, 263
エンジンルーム内のメンテナンス	209
ウィンドウォッシャー液の補給	211
エンジンルーム内のメンテナンス項目	209
推奨エンジンオイル	211
ボンネットを開ける	210
冷却水の点検と補給	262
エンジン冷却水	274

オ

オートライトコントロール	124
追越合図(パッシング)	124

応急修理剤(タイヤパンク)	240
オーディオ装置	154
オートエアコン	149
オートワイパー	127
オーバーヒート	260
オドメーター	82, 84
温度センサー	85

カ

外気温表示	82, 85
鍵(かぎ)	100
カスタマイズ機能	89
ガソリン	184, 274

キ

キー	
Hondaスマートキー	101, 102
キー閉じ込み防止装置	106
キーナンバータグ	101
キーの種類と機能	100
キーレスエントリー	103
キーレスエントリーでドアが開かない	28
後席ドアが開かない	27
電池交換のしかた	230
内蔵キー	100
パワーモードがOFFモードからアクセサリーモードにならない	27
パワーモードがOFFモードにならない	27

キー閉じ込み防止装置	106
キーナンバータグ	101
キーレスエントリー	103
電池交換のしかた	230
キックダウン	162
給油	184
給油のしかた	185
指定燃料	184, 274
燃料計	81
燃料残量警告灯	66

ク

空気圧	274
グラブレル	4
クリーブ現象	162
クルーズコントロール	24, 167
クルーズコントロール表示灯	71
クルーズメイン表示灯	71
車の改造	200
グローブボックス	141

ケ

経過時間表示	82, 85
計器	62
警告灯	63
12Vバッテリー充電警告灯	65, 263
ABS警告灯	67, 174
ACC警告灯	66

CMBS警告灯	68
EPS警告灯	68, 265
Hondaスマートキーシステム 警告灯	66
LKAS警告灯	66
PGM-FI警告灯	64, 264
VSA OFF警告灯	67
VSA警告灯	67
エアバッグシステム警告灯	48, 67
シートベルト非着用警告灯	65
トランスミッション警告灯	65
燃料残量警告灯	66
パワーシステム警告灯	64
ブレーキ警告灯(レッド)	63, 264
ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	63
油圧警告灯	64, 263

けん引	270
-----	-----

コ

交換

アクティブコーナリングライト 電球	215
グローブボックス照明灯 電球	222
後退灯 電球	219
後部側方灯 電球	218
後面方向指示器/ 後面非常点滅表示灯 電球	218
室内灯 電球	221
車幅灯 電球	214
制動灯/尾灯 電球	218

前面方向指示器/ 前面非常点滅表示灯 電球	214
側面方向指示器/ 側面非常点滅表示灯 電球	217
ドア開閉灯 電球	222
トランク照明灯 電球	221
ハイマウントストップランプ 電球	220
パニティミラー照明灯 電球	222
番号灯 電球	220
尾灯 電球	219
フォグライト 電球	216
ヘッドライト 電球	212
マップランプ 電球	221
ワイパーブレードラバー	223

工具	239
----	-----

航続可能距離表示	82, 85
----------	--------

後退灯	219
-----	-----

高電圧バッテリー	197
----------	-----

高電圧バッテリー残量計	81
-------------	----

後部側方灯	218
-------	-----

後面方向指示器/後面非常点滅表示灯	218
-------------------	-----

コートフック	145
--------	-----

コンソールボックス	141
-----------	-----

コントロールボックス	193
------------	-----

サ

サービス診断記録装置	29
------------	----

データの開示について	30
------------	----

サイドエアバッグ	44
サイドカーテンエアバッグ	46
サンガラスボックス	145
サンバイザー	4

シ

シートの調節

アームレスト	139
フロントシート	134
ヘッドレスト	137

シートベルト

アンカーポイント	40
E-プリテンショナー	37
シートベルトの着用	37
シートベルトの点検	40
シートベルト非着用警告灯	65
シートベルトプリテンショナー	36
シートベルトリマインダー	35
妊娠中のかたの シートベルト着用のしかた	39

シガレットライター

時刻の設定	99
-------	----

室内装備品

室内灯	140
シフト操作	163
車外の清掃	235
ジャッキ	251

ジャッキハンドル

(ホイールナットレンチ)	251
ジャッキハンドルバー	251
車内の清掃	234
車幅灯	214
車両接近通報装置	166
ジャンプスタート	257
充電	188
高電圧バッテリーの特性	197
コントロールボックス	193
充電コネクター	192
充電表示灯(車両側)	196
充電用リッド	191
タイマー充電	198
充電コネクター	192
瞬間燃費表示	82, 84
仕様	274
衝突軽減ブレーキ(CMBS)	177
CMBS警告灯	68
ショルダーアンカー	39

ス

スイッチ操作

ECONスイッチ	165
アクティブコーナリングライト	123
イルミネーションコントロール	128
ヒーテッドドアミラースイッチ	129
フォグライトスイッチ	125

方向指示器(ウィンカー)スイッチ	122
リヤデフロスタースイッチ	129
ワイパー/ウォッシュャースイッチ	126
ステアリング	130
スノータイヤ	229
スパークプラグ	274
スピードメーター	81
スマートメンテナンス	204

セ

清掃	234
制動灯	218
セキュリティシステム	114
イモビライザーシステム	114
セキュリティアラームシステム	114
セレクトポジション	163
セレクトポジション表示灯	164
セレクトレバー	
セレクトレバーが動かない	259
セレクトレバーの操作	164

ソ

側面方向指示器/側面非常点滅表示灯	217
-------------------	-----

タ

タイマー充電	198
--------	-----

タイヤ	225
ウェアインジケーター	226
指定空気圧	274
タイヤの点検	225
タイヤのローテーション	227
タイヤパンク応急修理キット	240
冬期のタイヤ	229
パンク	240
タイヤチェーン	229

チ

チェーン	229
チャージメーター表示	81
チャイルドシート	49
ジュニアシート	60
乳児のチャイルドシート	50
幼児のチャイルドシート	51
チャイルドブルーフ	109
駐停車操作	182

テ

デフロスター	
リヤデフロスタースイッチ	129
点火プラグ	274
電子制御ブレーキアシスト	175
電池交換	230

ト

ドアの施錠と解錠

Hondaスマートキー	101, 102
キー閉じ込み防止装置	106
キーナンバータグ	101
キーの種類と機能	100
キーレスエントリー	103
キーレスエントリーでドアが開かない	28
後席ドアが開かない	27
車外でのドアの施錠/解錠	103
車内での施錠/解錠	107
チャイルドブルーフ	109

ドアミラー

ドアミラーウィンカー	3
------------	---

冬期のタイヤ

スノータイヤ	229
タイヤチェーン	229

時計

トップテザーアンカレッジ	58
トップテザーストラップ	58

トラブルシューティング

パンクした	240
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る	28
オーバーヒートした	260
キーレスエントリーでドアが開かない	28
警告灯が点灯/点滅した	263
けん引してもらいたい	270
後席ドアが開かない	27
ジャンプスタートしたい	257

セレクトレバーが動かない	259
走行するとブザーが鳴る	28
ハイオクガソリンは使える?	28
パワーシステムが起動しない	253
パワーモードがOFFモードからアクセサリモードにならない	27
パワーモードがOFFモードにならない	27
パンクした	240
ヒューズが切れた	266
ブレーキを踏むと音がする	28
ブレーキを踏むと振動する	27
トランクの開閉	111
トランスミッション警告灯	65
トランスミッションフルード	274
トリップメーター	82, 84
ドリンクホルダー	142

ナ

内蔵キー	100
------	-----

ネ

燃料	184
燃料計	81
燃料残量警告灯	66

ハ

パーキングブレーキ	172
-----------	-----

排気ガスの危険性	61
灰皿	143
ハイビーム	124
電球の交換	212
ハイビーム表示灯	69
ハイマウントストップランプ	220
ハザードスイッチ	表紙ウラ
発炎筒	239
パッシング	124
バッテリー	
高電圧バッテリー	197
12Vバッテリー充電警告灯	65, 263
ジャンプスタート	257
容量	274
発話スイッチ	1
バニティミラー	4
パワーウィンドーの開閉	116
パワーシステム警告灯	64
パワーシステムの起動	158
ジャンプスタート	257
パワーシステムが起動しない	253
パワー表示	81
パワーモード	119
パワーモード警告ブザー	120
バンク	240
番号灯	220
ハンドル	130
ハンドル位置調節レバー	130
汎用型ISOFIX チャイルドシート	57

ヒ

ヒータードアミラー	129
非常点滅表示灯スイッチ	表紙ウラ
尾灯	218, 219
ヒューズ	
各ヒューズの装備と容量	266, 267
ヒューズの設置場所	266
ヒューズの点検と交換	269
表示灯	69
ACC表示灯	71
ECON表示灯	71
EV表示灯	72
HV CHARGEモード表示灯	72
HVモード表示灯	72
LKAS表示灯	71
READY表示灯	71
イモビライザーシステム表示灯	70
インフォメーション表示灯	70
クルーズコントロール表示灯	71
クルーズメイン表示灯	71
セキュリティアラームシステム	
作動表示灯	71
セレクトポジション表示灯	69
ハイビーム表示灯	69
フォグライト点灯表示灯	69
方向指示器表示灯	69
ライト点灯表示灯	69

フ

ブースターケーブル	257
フォグライト	125
電球の交換	216
フォグライト点灯表示灯	69
ブザー	
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る	28
走行するとブザーが鳴る	28
フューエルリッドが解錠できないとき	271
フューエルリッドの開けかた	185
ブレーキフルード	274
ブレーキシステム	172
ABS(アンチロックブレーキシステム)	174
エマージェンシーストップシグナル	176
電子制御ブレーキアシスト	175
パーキングブレーキ	172
フットブレーキ	173
ブレーキ警告灯(レッド)	63, 264
ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	63
ブレーキを踏むと音がする	28
ブレーキを踏むと振動する	27
ブレーキフルード	
ブレーキ警告灯(レッド)	63, 264
ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	63
フロントシートヒーター	146
フロントシート	134
フロントシートヘッドレスト	134, 137
フロントパワーシート	134

へ

平均車速表示	82, 85
平均燃費表示	82, 84
平均燃費履歴表示	82, 86

ヘッドライト

追越合図(パッシング)	124
電球の交換(ハイビーム)	212
電球の交換(ロービーム)	213
ハイビーム	124
ハイビーム表示灯	69
ライト点灯表示灯	69
ロービーム	124

ヘッドライトオートオフ機能

ヘッドレスト

フロントシート	134, 137
リヤシート	137, 138

ホ

ホーンスイッチ	1
ホイールナットレンチ (ジャッキハンドル)	251
方向指示器(ウィンカースイッチ)	122
方向指示器表示灯	69

マ

マスタードアロックスイッチ	107
---------------	-----

マップランプ	140
電球の交換	221
マルチインフォメーションディスプレイ	82
警告メッセージ	73

ミ

ミラー	131
自動式防眩ミラー	131
ドアミラー	132
パニティミラー	4
ルームミラー	131

メ

メーター	81
高電圧バッテリー残量計	81
スピードメーター	81
チャージメーター表示	81
燃料計	81
パワー表示	81
マルチインフォメーション ディスプレイ	82
メンテナンス	201
Hondaスマートキー	230
エアコンのお手入れ	232
エンジンルーム内のメンテナンス	209
スマートメンテナンス	204
清掃	234
タイヤの点検と整備	225

メンテナンスに関する注意事項	203
メンテナンスを安全に行うために	203
ライト類の点検と整備	212
ワイパーブレードラバーの点検と整備	223

モ

モード切り換え(エアコン)	149
---------------	-----

ユ

油圧警告灯	64, 263
-------	---------

ラ

ライトスイッチ	124
追越合図(パッシング)	124
ハイビーム	124
ハイビーム表示灯	69
フォグライト	125
ライト点灯表示灯	69
ロービーム	124
ライト類の点検と整備	212
アクティブコーナリングライト電球	215
グローブボックス照明灯電球	222
後退灯電球	219
後部側方灯電球	218
後面方向指示器/ 後面非常点滅表示灯電球	218
室内灯電球	221

車幅灯電球.....	214
制動灯/尾灯電球.....	218
前面方向指示器/ 前面非常点滅表示灯電球.....	214
側面方向指示器/ 側面非常点滅表示灯電球.....	217
ドア開閉灯電球.....	222
トランク照明灯電球.....	221
ハイマウントストップランプ電球.....	220
パニティミラー照明灯電球.....	222
番号灯電球.....	220
尾灯電球.....	219
フォグライト電球.....	216
ヘッドライト電球.....	212
マップランプ電球.....	221
ラジエーター.....	260

リ

リザーブタンク.....	262
リバース連動ドアミラー.....	133
リムサイズ.....	274
リヤシートヒーター.....	147
リヤデフロスタースイッチ.....	129

ル

ルームミラー.....	131
-------------	-----

レ

冷却水.....	262
オーバーヒート.....	260
補給.....	262
レーンキープアシストシステム(LKAS)	
LKAS警告灯.....	66
LKAS表示灯.....	71

ロ

ロアアンカレッジ.....	57
ロービーム.....	124
電球の交換.....	213

ワ

ワイパー/ウォッシャー.....	126
ワイパーブレードラバー.....	223

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社 お客様相談センター

フリーダイヤル 0120-112010^{イイフライオ}

受付時間 9:00～12:00 13:00～17:00

〒351-0188 埼玉県和光市本町8-1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

- ① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、原動機型式、登録番号、登録年月日
- ② 車種名、タイプ名、走行距離
- ③ ご購入年月日
- ④ 販売店名